

平成16年度 授業調査 報告書

---

2005. 06. 17

INDEX
-------

<1> 全体概略	2
<2> 回答者の基本属性	4
<3> 各設問の単純集計	6
<4> 過年度との比較	9
<5> 学期別の比較	12
<6> 年次（クラス）別の比較	15
<7> 学系、学科別の比較	19
<8> 科目区分別の比較	31
<9> 成績別の比較	43
<10> 満足度別の比較	47
<11> まとめ	51

## 1) 調査の概略

本調査の概略は下記の通り。

- 平成16年度に金沢工業大学の学生に対して実施した「授業アンケート」の全結果を分析対象としており、原則としては学生は受講した授業の全ての授業アンケートに回答しており、全学生の全授業に対する評価となる。
- 本調査の結果は、現在の授業の評価を明確にし、今後の授業のあり方を考えるための基礎的な情報と位置付ける。また、内容的に平成15年度の調査と同じであるため、過年度との比較を行い、評価がどのように変化しているかを把握することも目的の1つとしている。
- 回収されたデータの内訳は下記の通り。

年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数
H16年度	31,463	31,855	29,601	92,919
H15年度(前回)	30,514	28,157	25,464	84,135

- 実施期間: 各授業科目の最終日
- 実施方法: 記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、ならびに回収

## 2) 分析の概略

分析は下記のような方法で行った。

- 設問は平成15年度と全て共通であるため、前年度との比較を行った。また、一部では平成14年度と同じ設問があるため、比較可能なものに関しては過去3年間の比較を行った。
- 巻末に調査票サンプルを添付しているが、設問・選択肢は下記の通り。

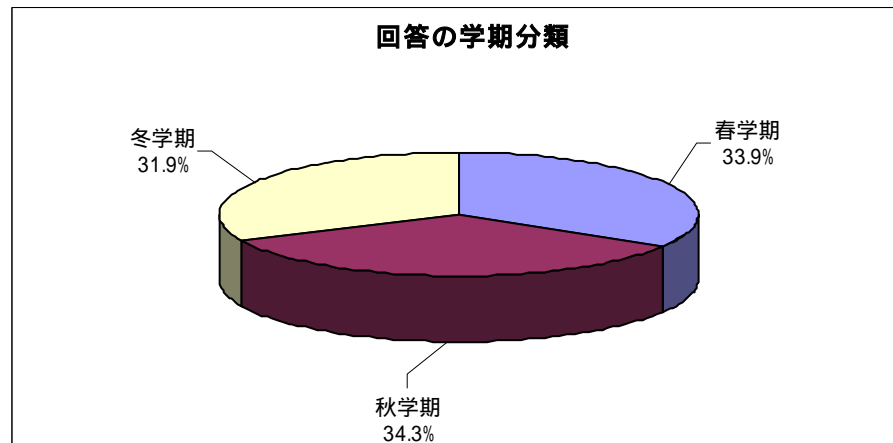
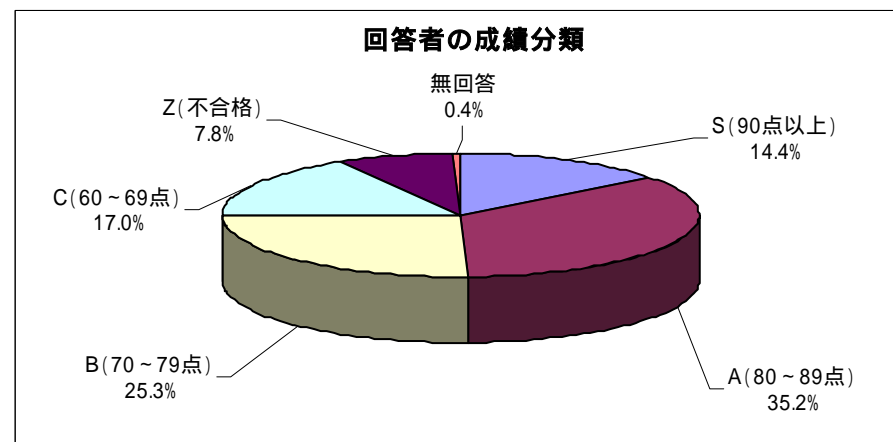
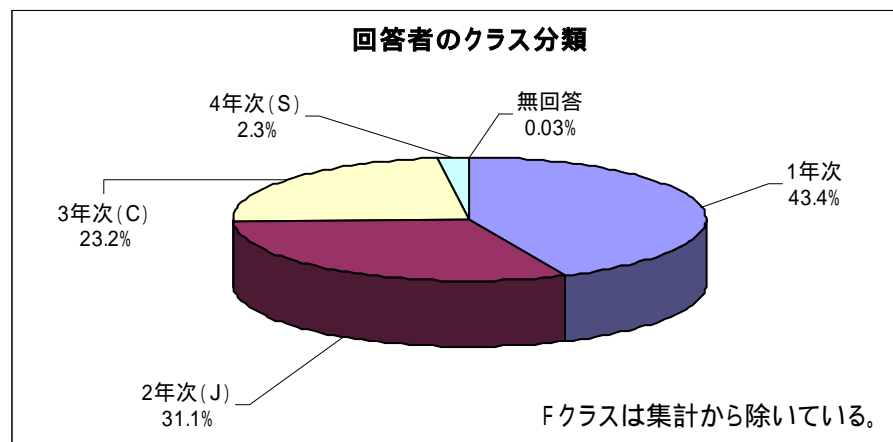
A	この科目は興味を持って受講することができましたか	十分に持てた	持てた	どちらかといえば持てた	あまり持てなかった	持てなかった
B	一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか	1時間以上	1～2時間	1時間程度	30分程度	学習は特にしなかった
C	授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか	有効だった	まあ有効だった	あまり有効でなかった	有効でなかった	利用しなかった
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか	授業中に質問	TAまたはチューターに質問	自分で調べた	友人や先輩に聞いた	行動しなかった
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか	よく理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか	よく理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	教科書・指導書はなかった	
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか	適切であった	どちらかといえば適切であった	進度は速かった	進度は遅かった	
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか	十分役立った	役立った	あまり役立たなかった	課題またはレポート等はなかった	
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか	効果的	どちらかといえば効果的	あまり効果的でなかった	効果的でなかった	
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか	工学基礎教育センター	学習支援デスク	LC	自習室	学内施設は利用しなかった
K	あなたはこの科目に満足していますか	満足している	まあ満足	少し不満	不満	

### 3) 集計上の留意点に関して

平成16年度の入学者より学科体制が変わったため、集計に関しては下記のような方針で行った。

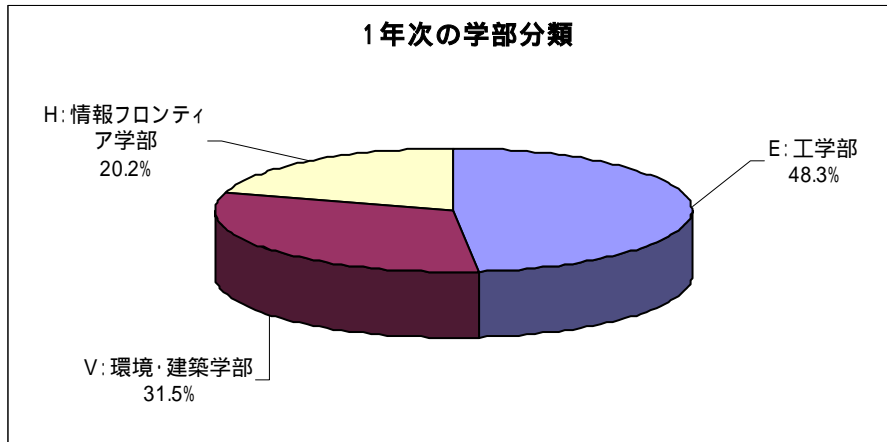
- 学科別の集計に関しては以下のように集計した。そして、留年してH16年度もFクラスである学生の回答が285あったが、集計に加えるとFクラスと1年次が混在してしまうため、Fクラスは学科別の集計からは除外した。
  - ・1年次:新学科体制で集計
  - ・2年次(J):旧学科体制で集計
  - ・3年次(C):旧学科体制で集計
  - ・4年次(S):旧学科体制で集計
- 学科体制の変更に伴い、学系が「7学系」より「3学部15学科」になったため、その間の学系同士の比較は行っていない。また、新学科体制に関しては学部毎、学科毎の比較を行った。
- 科目区分の考え方も変更になったため、変化した前後の科目区分による比較も行っていない。

- 授業調査は、1つの授業に関して1つの回答が得られるため、工学設計などが中心となっている4年次から得られる回答数は少なくなる、逆に低学年では授業数が多く、1年次の回答が全体の43.4%を占め、2年次が31.1%を占めていた。
- 回答を学期で分けると、春学期、秋学期、冬学期は、ほぼ1/3ずつであった。また、夏期集中講義は春学期として集計している。
- 回答者の成績ではA(80～89点)が最も多く35.2%であり、次いで、B(70～79点)が25.3%、C(60～69点)が17.0%であり、S(90点以上)が14.4%であった。そしてZ(不合格)が7.8%であった。

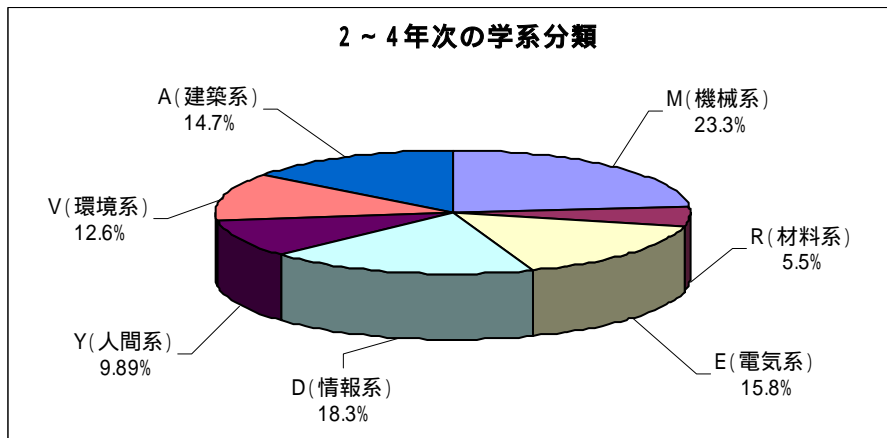


- 今回の回答者の学生は、2～4年次が従来の学科体制であり、1年次が新学科体制となっている。
- 1年次は3学部15学科であるが、学部の構成は円グラフのように「工学部」が48.3%とほぼ半数を占め、次いで「環境・建築学部」が31.5%、「情報フロンティア学部」が20.2%という割合であった。
- 1年次を学科で分けると下左の表のようになり、最も多かったのは「情報工学科」で14.8%、次いで、「機械工学科」(9.8%)、「建築学科」(8.4%)という順であった。そして、最も少なかったのは「航空システム工学科」の3.0%であった。
- 2～4年生は旧学科体制で、7学系に分けられるが、「M(機械系)」が最も多く23.3%であり、次いで「D(情報系)」が18.3%、「E(電気系)」が15.8%、「A(建築系)」が14.7%であり、「R(材料系)」が5.5%と最も少なかった。

1年次の学部分類



2～4年次の学系分類

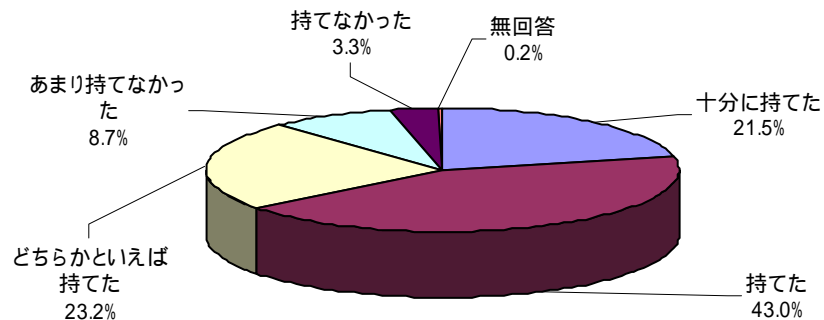


1年時の回答割合(学部別、学科別)

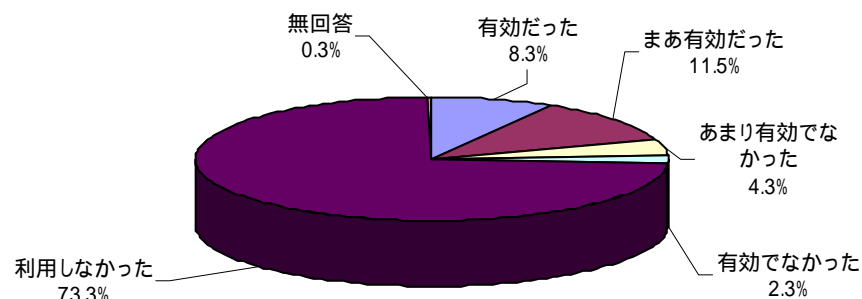
		回答数	回答割合	学部計	学部割合
E: 工学部	EM: 機械工学科	3,937	9.8%	19,429	48.3%
	ER: ロボティクス学科	2,841	7.1%		
	EA: 航空システム工学科	1,204	3.0%		
	EE: 電気電子工学科	3,233	8.0%		
	EI: 情報通信工学科	2,283	5.7%		
	EC: 情報工学科	5,931	14.8%		
V: 環境・建築学部	VB: バイオ化学科	2,528	6.3%	12,658	31.5%
	VC: 環境化学科	1,613	4.0%		
	VE: 環境土木工学科	2,930	7.3%		
	VA: 建築学科	3,358	8.4%		
	VD: 建築都市デザイン学科	2,229	5.5%		
H: 情報フロンティア学部	HM: メディア情報学科	2,753	6.8%	8,113	20.2%
	HB: 生命情報学科	2,054	5.1%		
	HP: 心理情報学科	1,884	4.7%		
	HS: 情報マネジメント学科	1,422	3.5%		
全体		40,200	100.0%	40,200	100.0%

- 全科目に対する回答になるが、「科目に対する興味」は「十分に持てた」が21.5%、「持てた」が43.0%、「どちらかといえば持てた」が23.2%であり、合わせると87.7%と、9割近くの回答で科目に対して何らかの興味は持てたという回答であった。
- 次に「一回の授業に対する予習・復習」では、「1時間以上」が10.6%、「1～2時間」が14.3%といった結果であった。そして、「1時間程度」(19.7%)、「30分程度」(25.8%)までを合わせると70.4%は予習・復習に時間を充てているということが分かった。
- 「オフィスアワー(以下、OH)の有効性」に関しては「利用しなかった」が73.3%と大多数を占めており、あまり使われていないことが分かった。しかし、使った層の回答だけを見ると「有効だった」「まあ有効だった」という回答がかなりの割合を占めており、OHは利用度は低いものの、利用した学生の満足度は高いと言える。
- 「授業が分からない際の行動」に関しては、「友人や先輩に聞いた」が46.3%とほぼ過半数を占めていた。そして、「自分で調べた」が28.4%と多めであった。また、「行動しなかった」という回答は13.6%見られた。

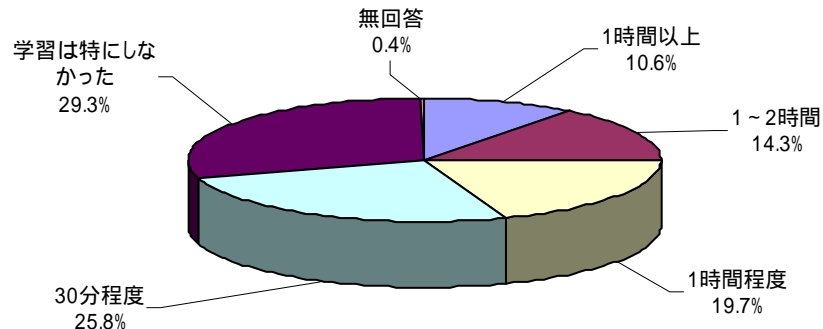
A: この科目は興味を持って受講することができましたか



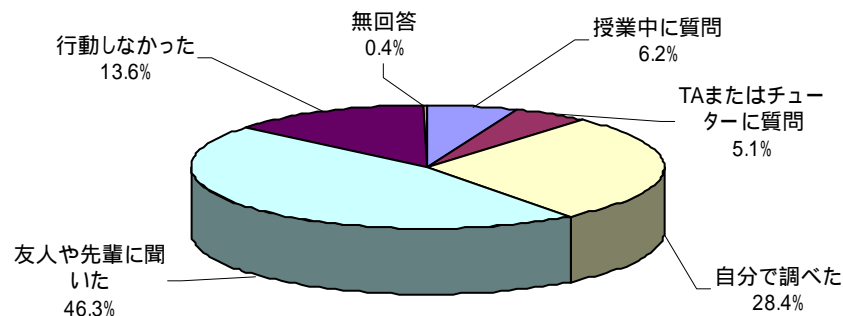
C: 授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか



B: 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか

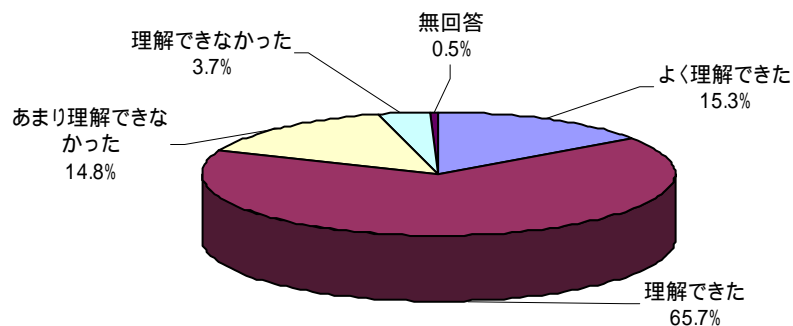


D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

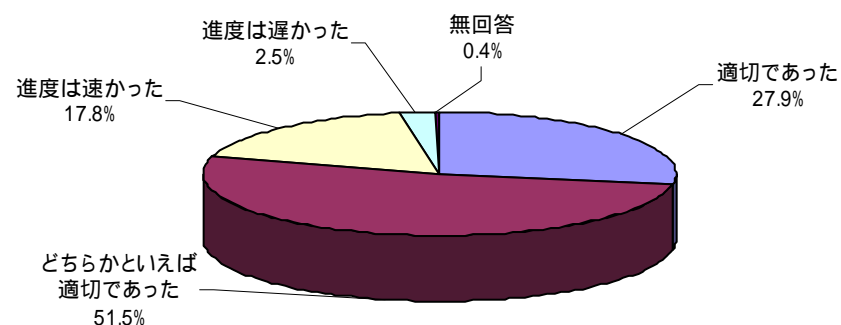


- 「学習支援計画書の理解度」は15.3%が「よく理解できた」、65.7%が「理解できた」と回答しており、合計すると81.0%と、大多数が理解できていたと言える。
- 「教科書・指導書の内容」に関しては12.2%が「よく理解できた」、55.9%が「理解できた」と回答しており、合わせると68.1%が理解できたと回答していた。教科書や指導書という授業で最も重要なものの理解度が7割弱というのは課題になるものと思われる。
- 「授業の進度」では「適切であった」が27.9%、「どちらかといえば適切であった」が51.5%であり、合わせると79.4%は進度が適切であったと感じているようであった。しかし、17.8%は「進度が速かった」と感じていた。
- 「課題、レポートの有効性」に関しては、「課題またはレポート等はなかった」が6.9%あったものの、「十分役立った」が23.2%、「役立った」が54.7%と、77.9%は役に立ったと回答していた。

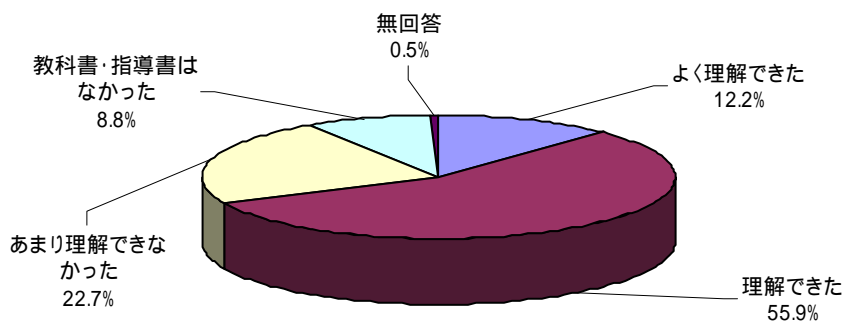
E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



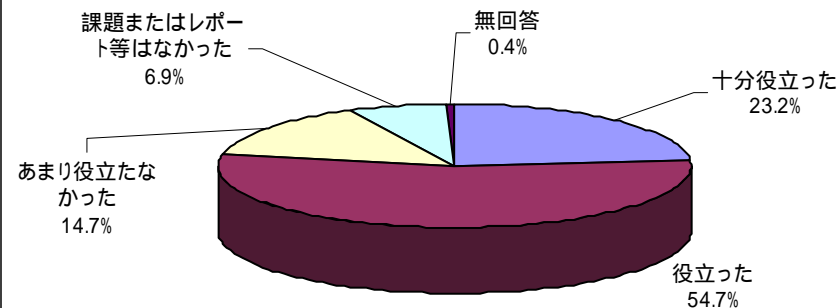
G: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



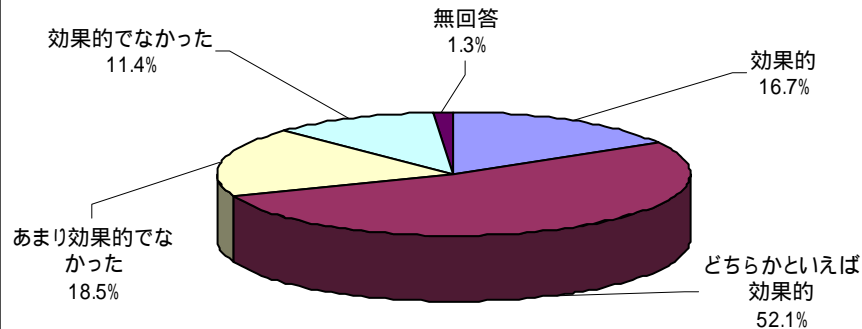
H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



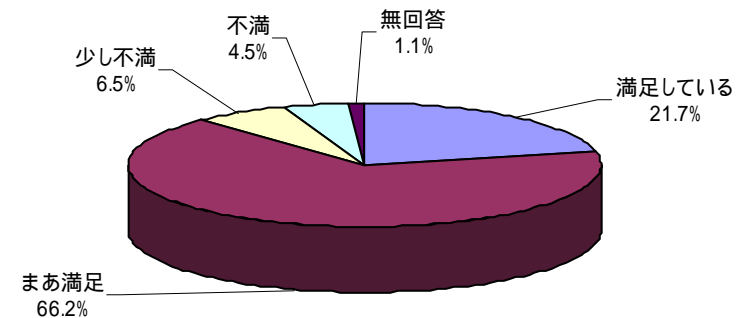


- 「自己点検授業の効果」に関しては、「効果的」という回答が16.7%、「どちらかといえば効果的」が52.1%であった。しかし、「効果的でなかった」が11.4%、「あまり効果的でなかった」が18.5%であり、合わせると3割は効果的ではなかったと回答していた。
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」に関しては52.1%は「学内施設は利用しなかった」と回答していた。利用している学生の回答を見ると「自習室」と「LC」が両者とも20.0%であり、この2箇所の利用度が高いことが分かった。
- 「満足度」に関しては、21.7%が「満足している」、66.2%が「まあ満足」と回答しており、合わせると87.9%が満足していることになる。逆に満足していないという回答は11.0%であり、この層の満足度を向上させることが今後の課題となる。
- 全科目を通しての回答であるが9割弱が授業に満足しており、比較対象はないものの満足度は高いと言って差し支えないものと思われる。

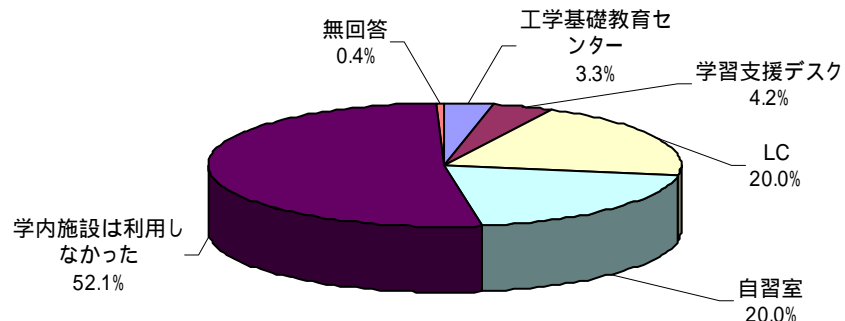
I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



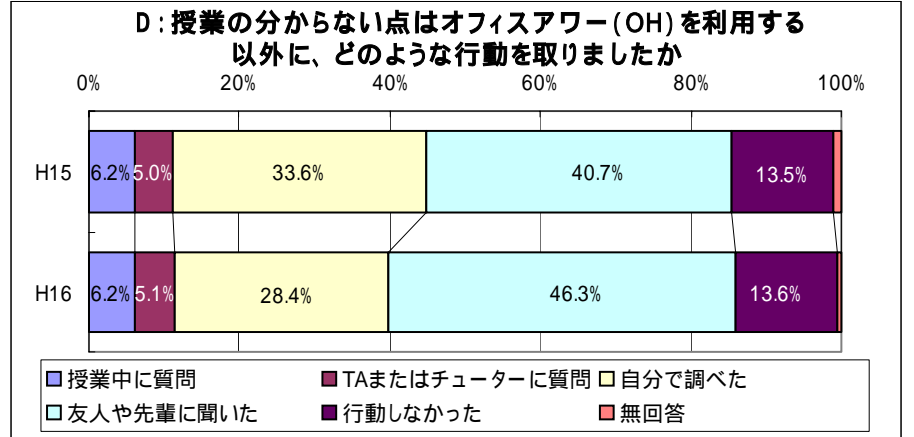
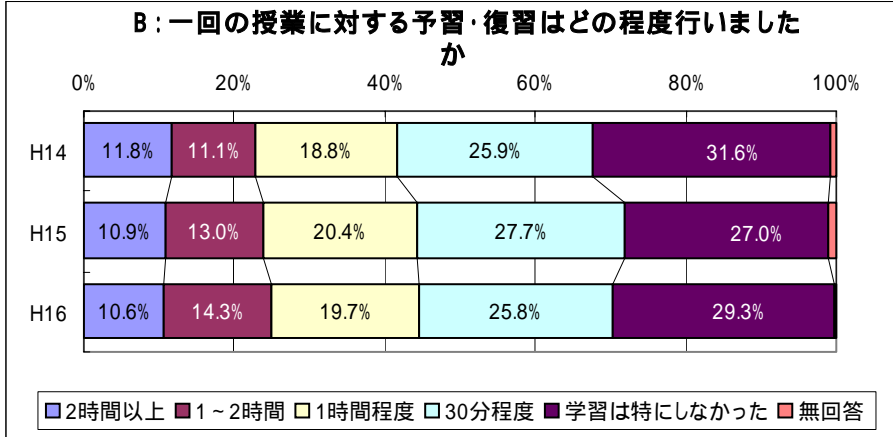
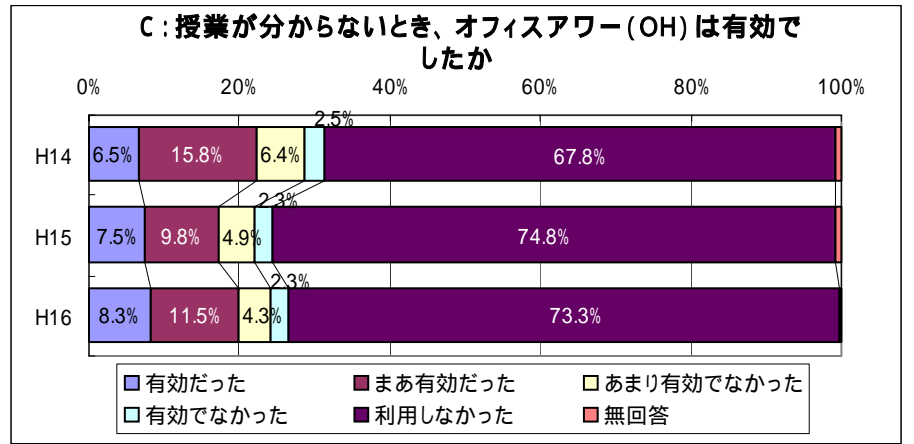
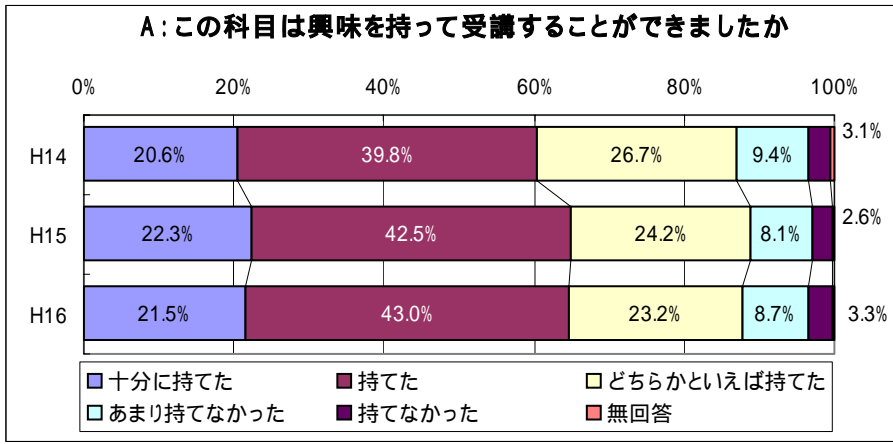
K: あなたはこの科目に満足していますか



J: 授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか

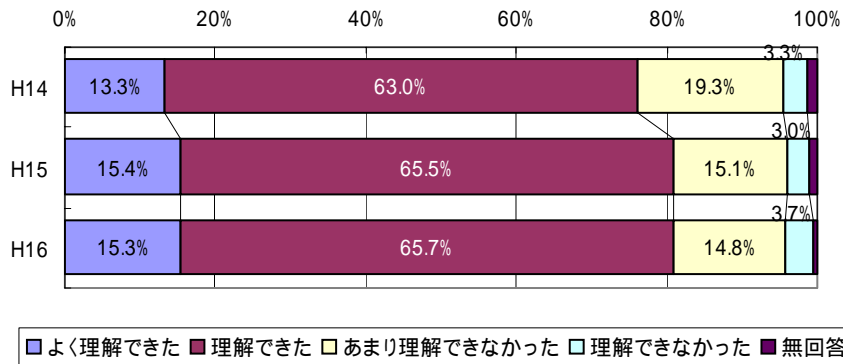


- 過年度との比較に関しては、H14年から3年間の比較ができるものと、H15～H16の2年間だけのものがある。
- まず、「科目に対する興味」を見ると、H14からH15にかけては興味を持てたという回答が増加していることが確認できたが、今回のH16をH15と比較すると、大きな変化ではないが興味を持てたという回答がわずかに減少していることが確認できた。
- 「一回の授業に対する予習・復習」も、H14からH15にかけては時間が長くなる傾向が見られたが、H16にかけては「学習は特にしなかった」という回答が増加していた。学習している層の回答では、「1～2時間」という回答が増加していた。
- 「OHの有効性」に関してはH14からH15にかけては利用者が減少していたが、H16にかけては増加していた。利用者が増加していることの影響もあるが、OHが有効であったという回答も増加していた。
- 「授業が分からない際の行動」に関してはH15とH16の比較であるが、「授業中に質問」「TAまたはチューターに質問」「行動しなかった」の割合は大きく変化せず、「自分で調べた」が減少、「友人や先輩に聞いた」が増加していた。

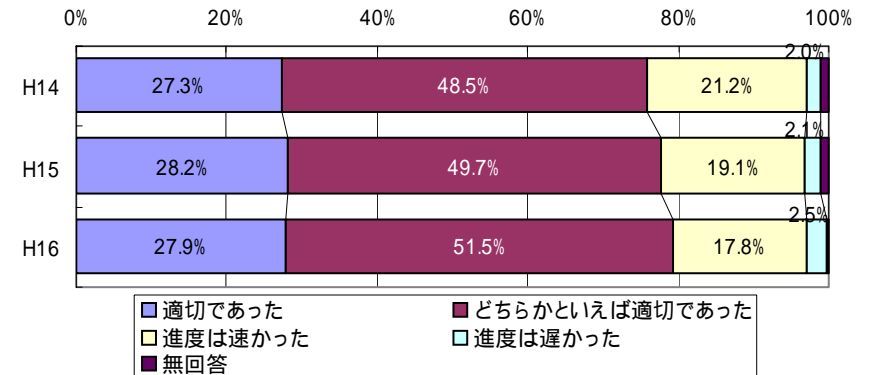


- 「学習支援計画書の理解度」はH14からH15にかけては理解できたという回答が増加しており評価は良くなっていたが、H15からH16にかけてはほとんど変化が見られなかった。
- 「教科書・指導書の内容」に関しては、「よく理解できた」「理解できた」共にH14年からH16にかけて増加傾向にあり、継続的に改善されて理解度が高まっていることが分かった。
- 「授業の進度」に関しては「適切であった」「進度は遅かった」に関しては3年間でほとんど変化がなかったが、「どちらかといえば適切であった」が増加し、「進度は速かった」が減少傾向にあった。これを見ると授業の速度は改善されてきていると言える。
- 「課題、レポートの有効性」に関してはH14からH15にかけては、わずかに評価が良くなっている傾向が見られたが、H16にかけてはほとんど差は見られなかった。

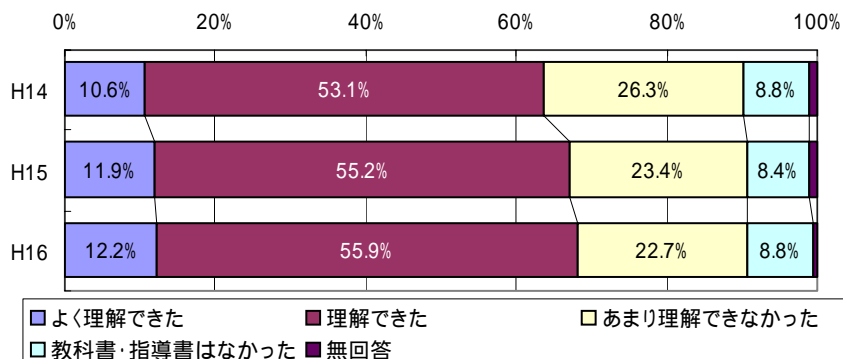
E：学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



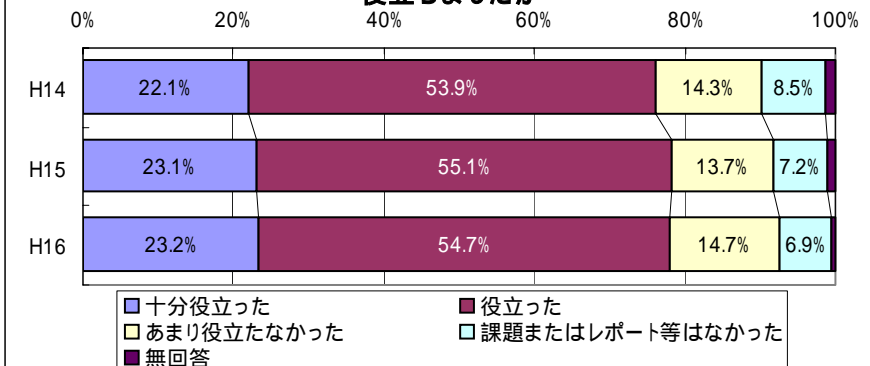
G：授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



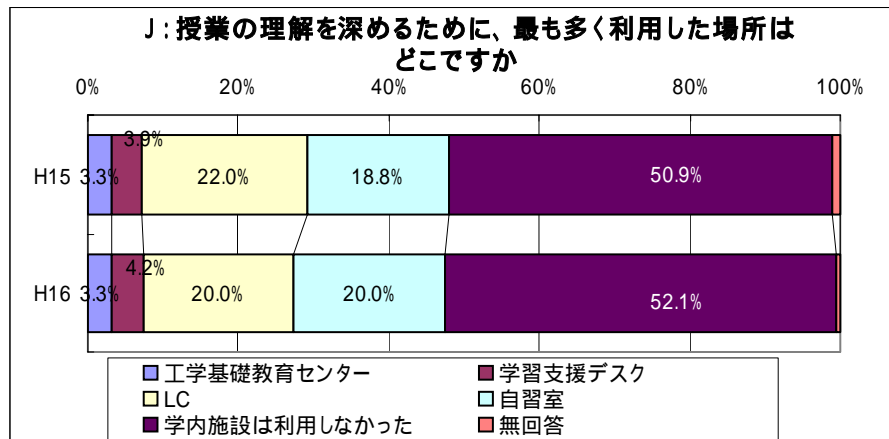
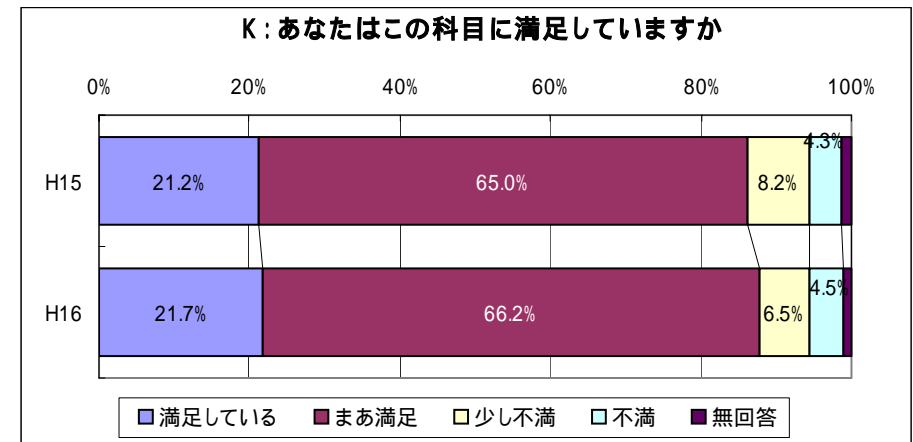
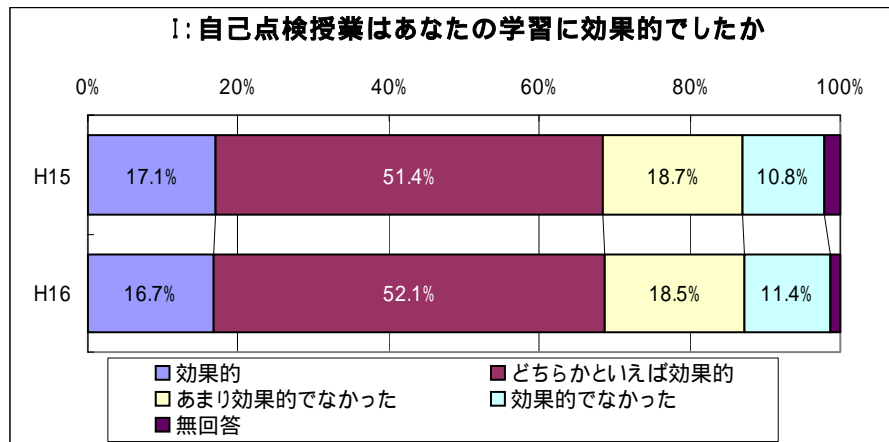
F：教科書・指導書の内容は理解できましたか



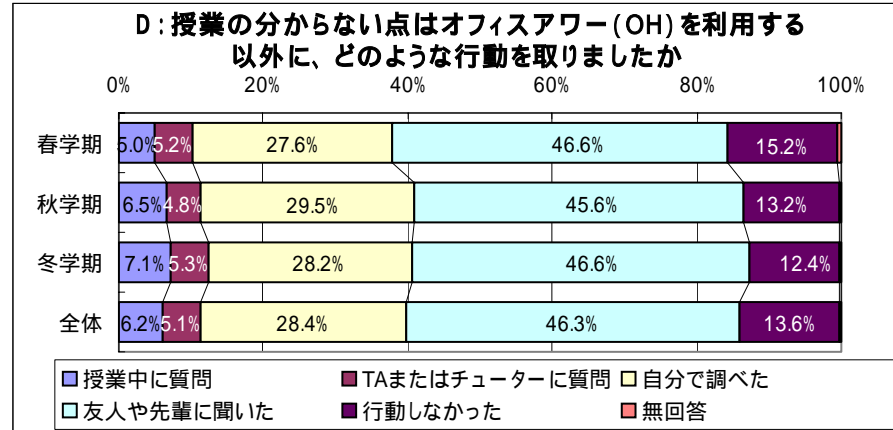
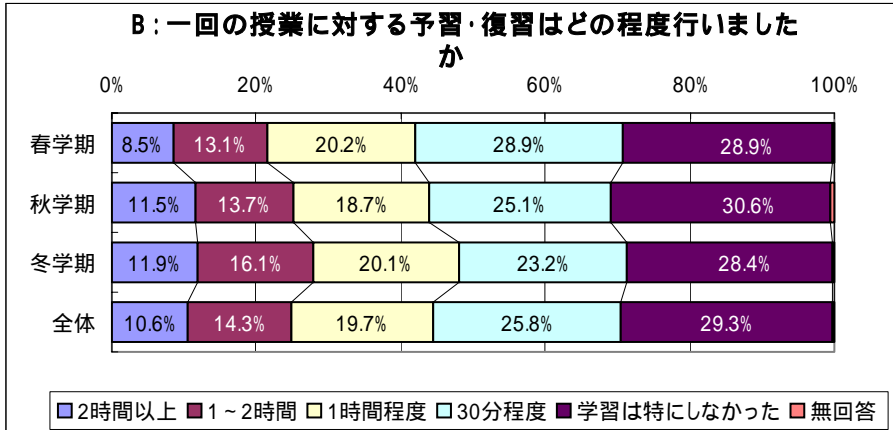
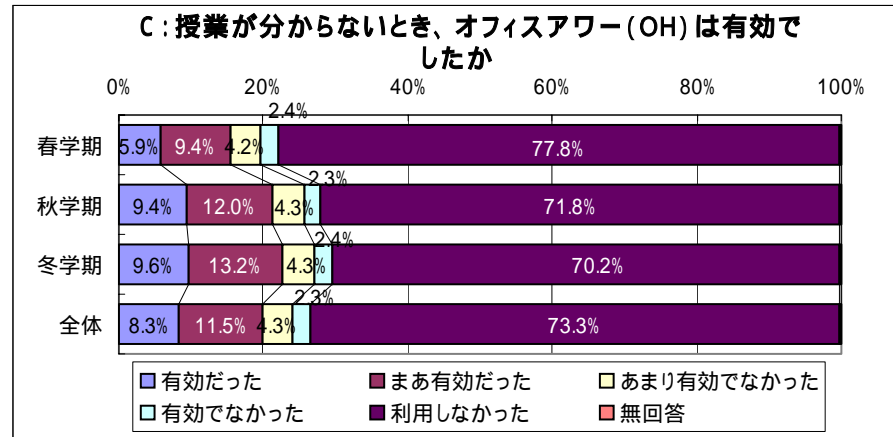
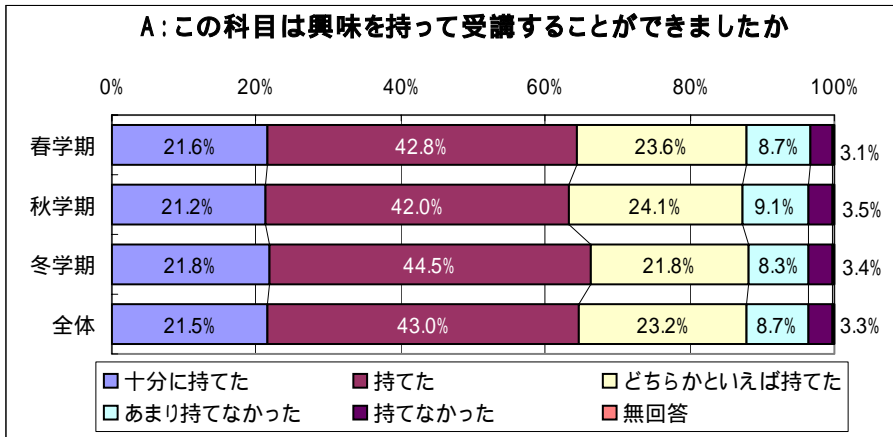
H：課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



- 「自己点検授業の効果」に関してはH15とH16との比較になるが、ほとんど変化は見られず評価は変わっていないと言える。
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」に関しては「学内施設は利用しなかった」がわずかに増加しており、学外で学習している学生が増加していることが分かった。また、学内施設で見ると「自習室」を使う割合が増加し、「LC」を使う割合が減少していることが確認できた。
- 「満足度」に関してはH15よりも良くなっていることが確認できた。まず、「満足している」だけを見るとほとんど変わらなかったが、「まあ満足」との合計で見ると、満足しているという意見は86.2%から87.9%へと1.7ポイント増加していた。
- 満足しているという回答はわずかながらH15よりも増加していた。これは評価できる点であるが、どのような点が評価されて満足度が向上したのかをしっかりと把握することが重要であると思われる。

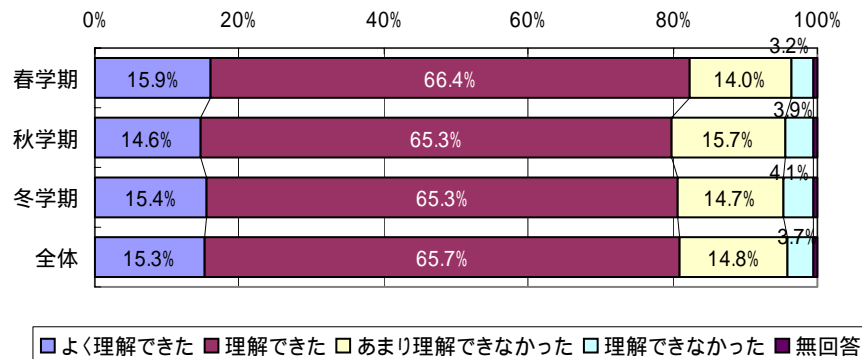


- 「科目に対する興味」では「持てた」「どちらかといえば持てた」の割合が変化しており、冬学期の授業に対する興味がやや強めのもの、「十分に持てた」から「どちらかといえば持てた」までを合計すると、3学期の間で大きな変化は見られなかった。
- 「一回の授業に対する予習・復習」に関しては、春から冬にかけて割く時間が増加する傾向が見られた。一方で「学習は特にしなかった」という層は変化していなかった。これを見ると「予習・復習に時間を割いている層は時間数が学年末に向けて延びる傾向があるが、学習をしていない層は、学年を通してずっと学習していない」と言うことができる。
- 「OHの有効性」に関しては「利用しなかった」は学年末に向かうほど減少していた。そして、それに伴って「有効だった」「まあ有効だった」の割合も増加していた。
- 「授業が分からない際の行動」に関しても、「行動しなかった」は学年末に向けて減少しており、「OH」の利用と同様に積極的になってきている状況がうかがえる。そして、学年末に向けて増加していたのが「授業中に質問」であった。「OHの有効性」と合わせて考えると、学校に慣れていく年次の回答が影響しているのではないと思われる。

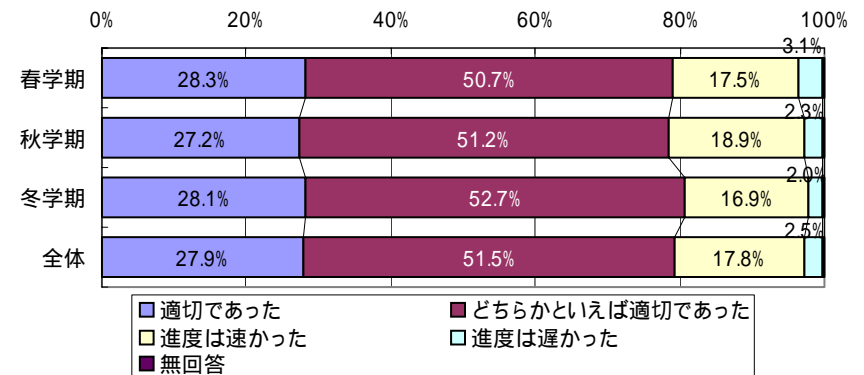


- 「学習支援計画書の理解度」では、春から秋にかけて「理解できた」という回答が減少し、「あまり理解できなかった」という回答が増加していた。そして、秋と冬の差はほとんどなかった。これを見ると春学期の科目の学習支援計画書が最も分かりやすいということになる。
- 「教科書・指導書の内容」に関しては、「よく理解できた」「理解できた」共に減少傾向にあり、両者の合計は春が70.1%、秋が67.7%、冬が66.4%と減少しており、後の学期の科目の教科書・指導書ほど理解度が低下していることが分かった。
- 「授業の進度」では、秋学期で「進度が速かった」という意見がわずかに多く、差は小さいが冬学期で「適切であった」と「どちらかといえば適切であった」の合計は高めであった。
- 「課題、レポートの有効性」に関しては、学期による差はほとんど見られなかった。

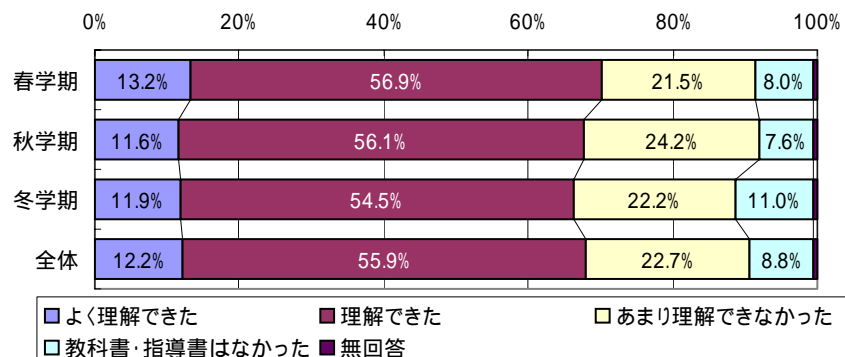
E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



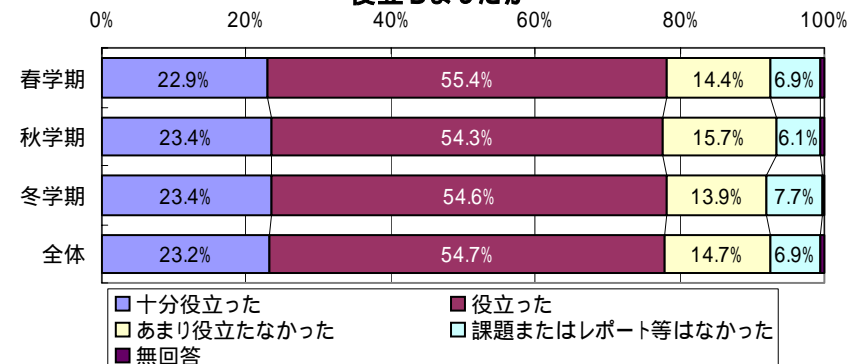
G: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



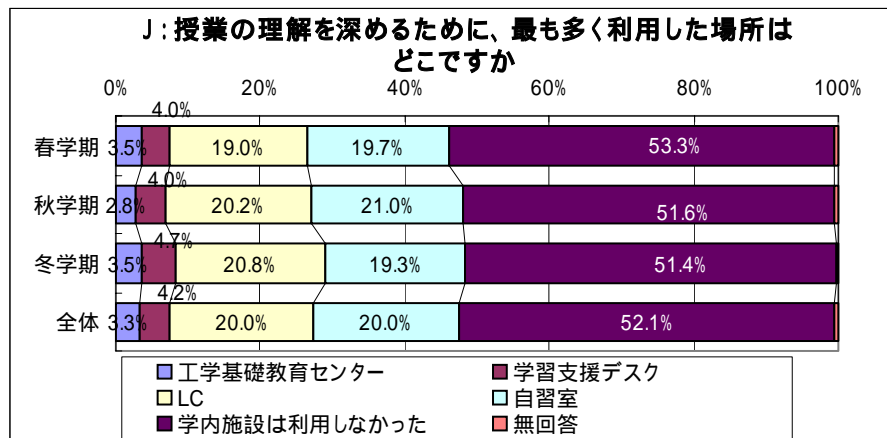
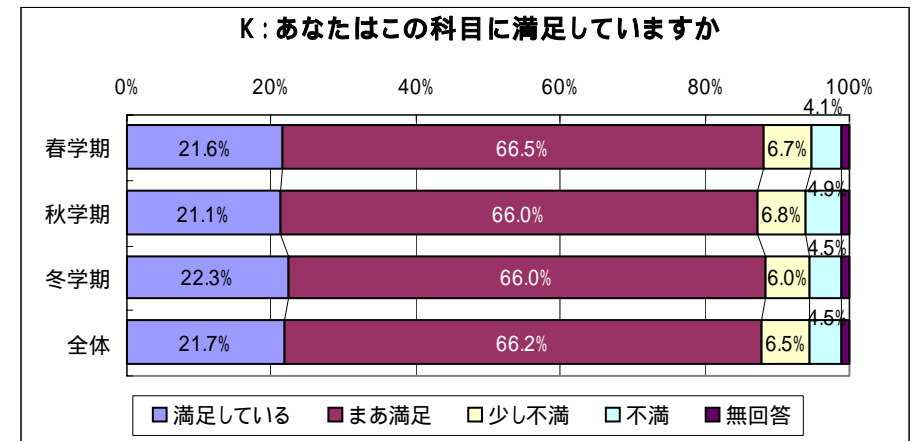
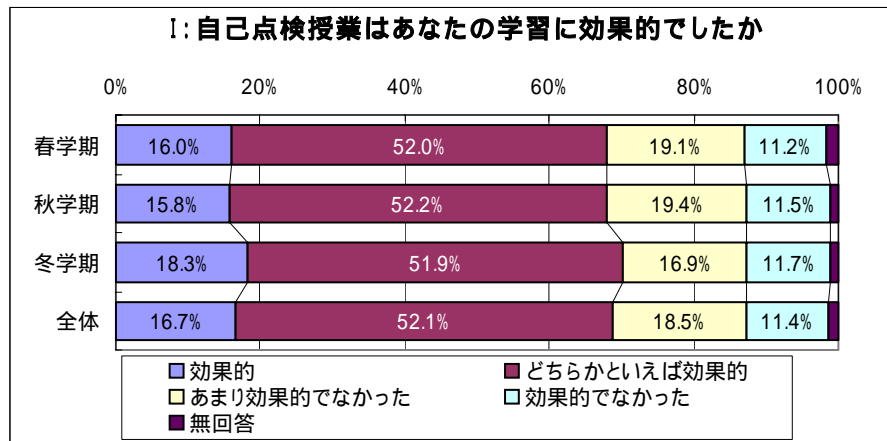
F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



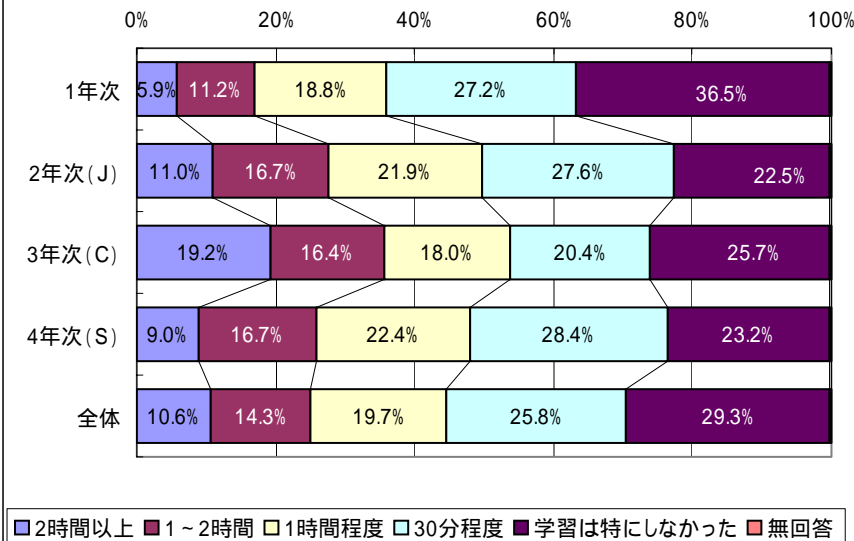
- 「自己点検授業の効果」に関しては、春と秋はほとんど同じような内容であったが、冬では「効果的」「どちらかといえば効果的」を合わせた割合が高めであり、冬の科目で自己点検授業が役立っていることが分かった。
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」に関しては、目立ったのは「学内施設は利用しなかった」という意見であり、春から冬にかけてわずかずつ少なくなっていた。また、これもそれほど大きな変化ではないが「LC」の利用は徐々に増加していた。
- 「満足度」に関しては、学期による傾向は見られなかった。



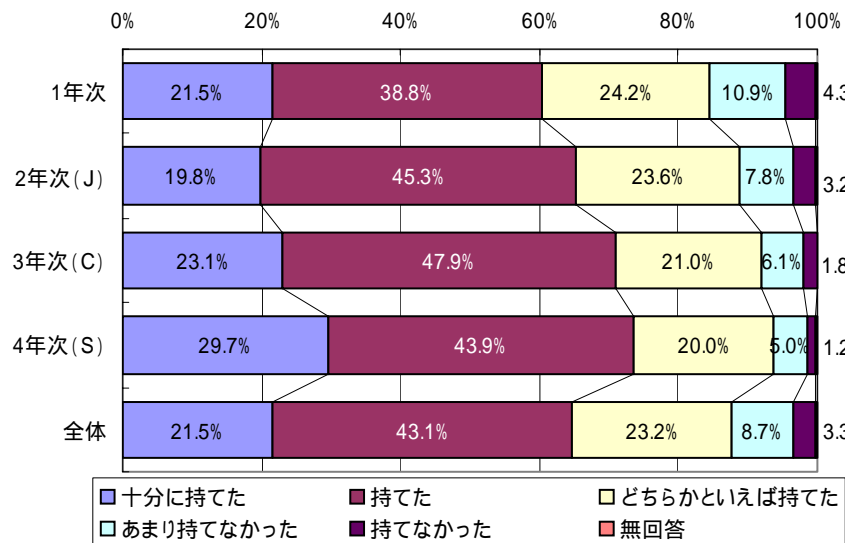


- 「科目に対する興味」を年次別に比較すると、年次が上がるほど興味が強くなっているという傾向が明確に見られた。
- 年次が低いほどフレッシュな気持ちで授業に取り組んでいるものと思われたがそうではなく、興味が低いまま取り組んでいることが分かった。
- 「一回の授業に対する予習・復習」は、1年次で「学習は特にしなかった」という回答が多く36.5%を占めていた。
- また、1年次から3年次にかけては予習・復習に割く時間が長くなっており、3年次では「2時間以上」が2割であり、レポートや課題などに追われている状況が想像できる。
- また、2年次以降でも、年次に関わらず「学習は特にしなかった」という学生が一定の割合存在することが分かった。
- 「OHの有効性」に関しては、1年次で「利用しなかった」という割合が多かったが、2年次以降の傾向はほとんど変化が見られなかった。これを見ると、入学後間もない1年次にはOHが浸透しきっていないことが想像できる。

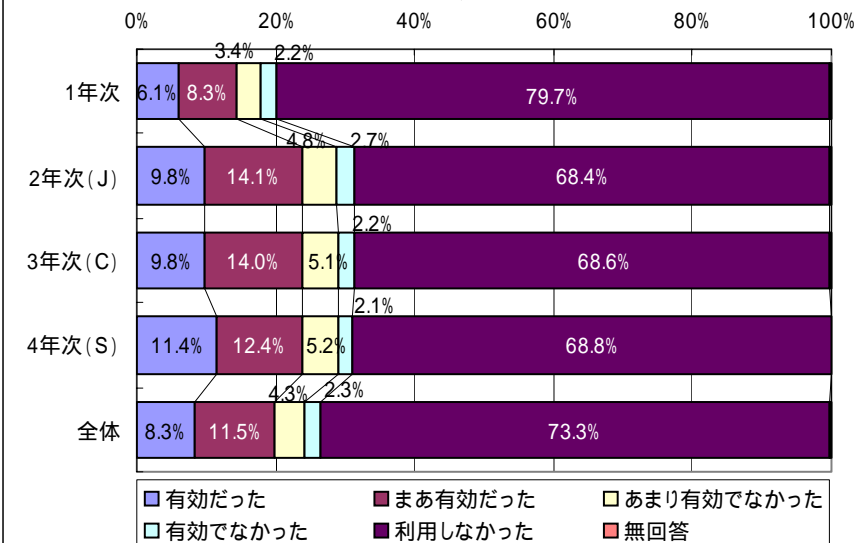
**B : 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか**



**A : この科目は興味を持って受講することができましたか**



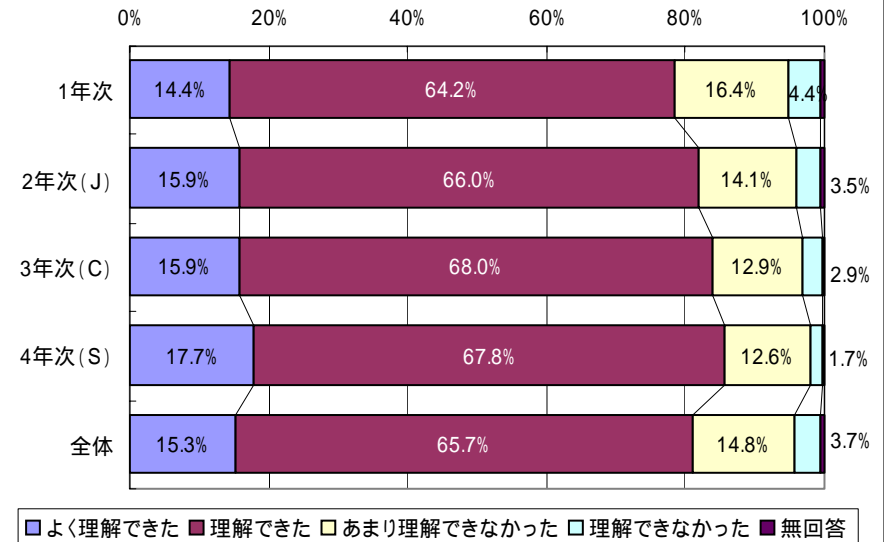
**C : 授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか**



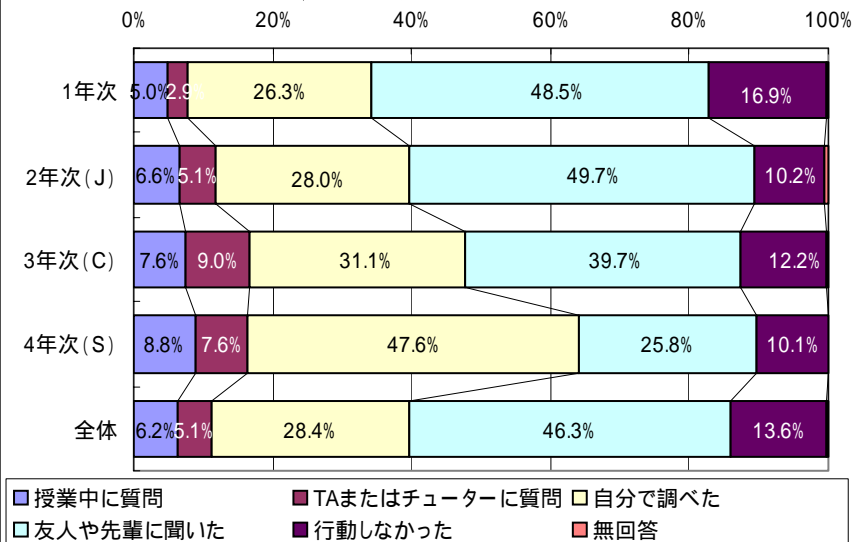


- 「授業が分からない際の行動」も年次による傾向が明確であり、年次が上がるほど「自分で調べた」という割合が増加し、「友人や先輩に聞いた」の割合が減少していた。
- また、「授業中に質問」「TAまたはチューターに質問」も増加する傾向があり、上の年次ほどそれらのサポートが浸透していると言える。
- 「学習支援計画書の理解度」も年次による傾向があり、わずかではあるが年次が上がるほど理解度が向上する傾向が見られた。これは、学習支援計画書に接する機会が多いためではないかと思われる。
- 「教科書・指導書の内容」に関しては、年次との相関関係は見られず、4年次が最も高く、次いで2年次であり、1年次と3年次が同じ程度という結果であった。
- 教科書・指導書の理解だけを見ると、1年次と3年次で授業の理解度が低いということになるが、1年次は大学の授業に慣れていないため、3年次は専門化が進んで理解が追いつかないためなどの要因が考えられる。

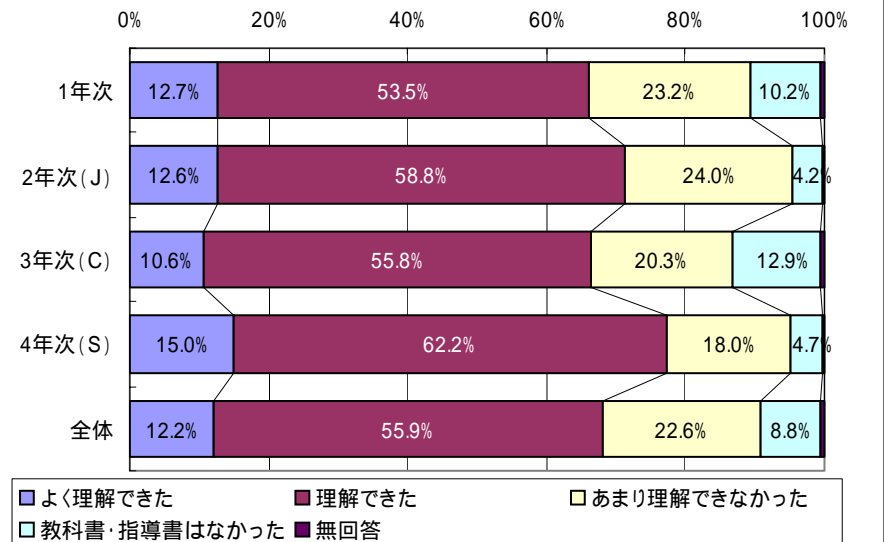
E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

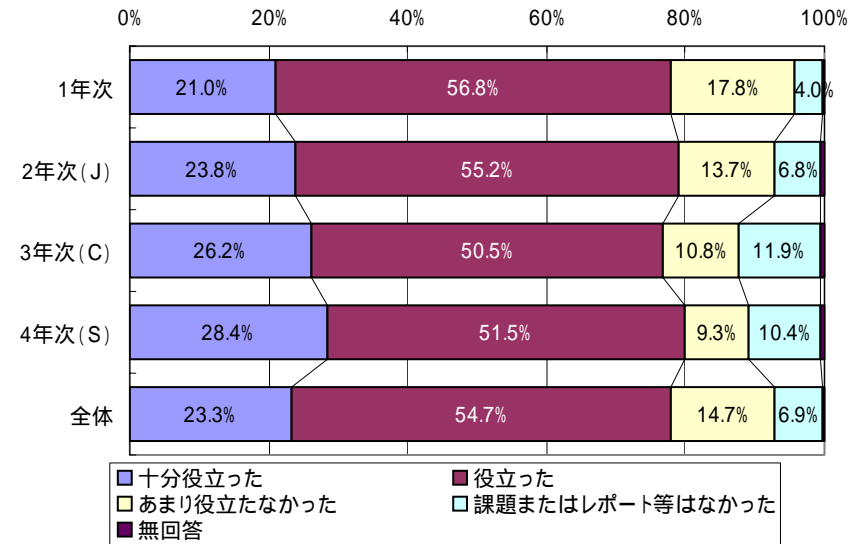


F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか

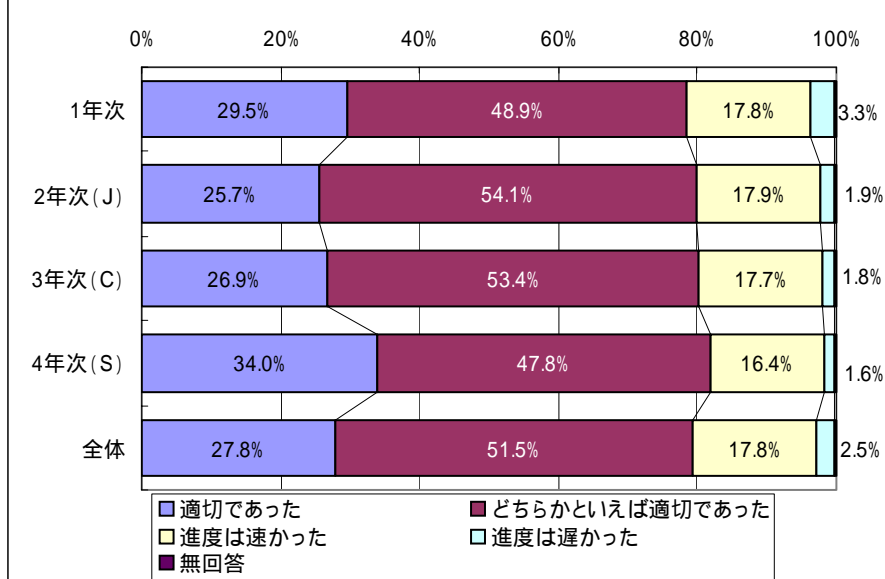


- 「授業の進度」は他の設問と比べると、年次による明確な傾向は見られなかった。「適切であった」は4年次で多めであったが、「どちらかといえば適切であった」と合わせると年次による差はほとんどないと言える。
- 「課題、レポートの有効性」に関しては、「十分役立った」は年次が上がるほど多くなる傾向が見られた。しかし、「役立った」と合計したものは年次による差がなかった。
- 3年次、4年次では課題やレポートがないケースも多いようであるが、年次が上がるほど課題やレポートの意味合いを理解して学習を進めている学生が多いのではないと思われる。
- 「自己点検授業の効果」についても年次との相関関係があり、年次が上がるほど「効果的」と考える割合が増加していた。そして「どちらかといえば効果的」と合わせた割合も増加していた。
- これを見ると年次が低いうちは自己点検授業の有効性をきちんと理解できていないか、年次が低い学生には効果的な内容になっていないといった課題が考えられる。

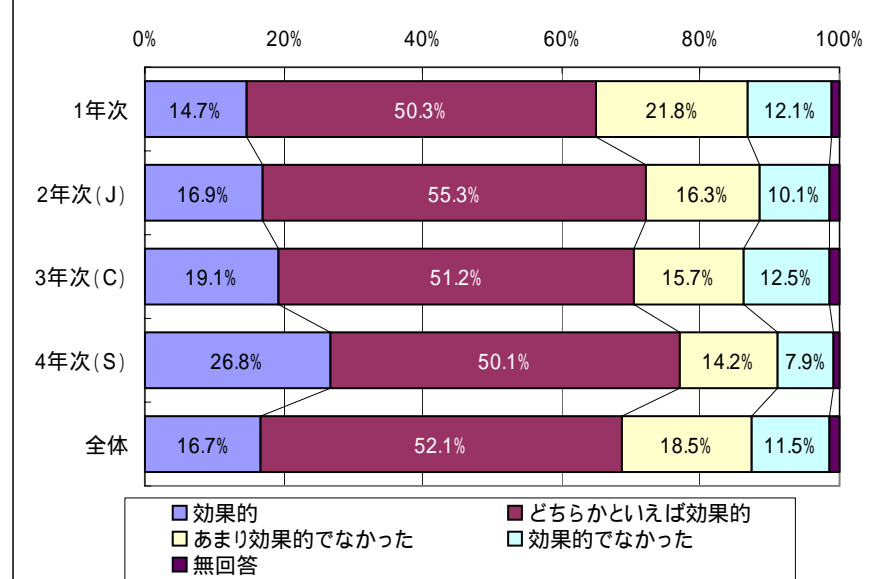
H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



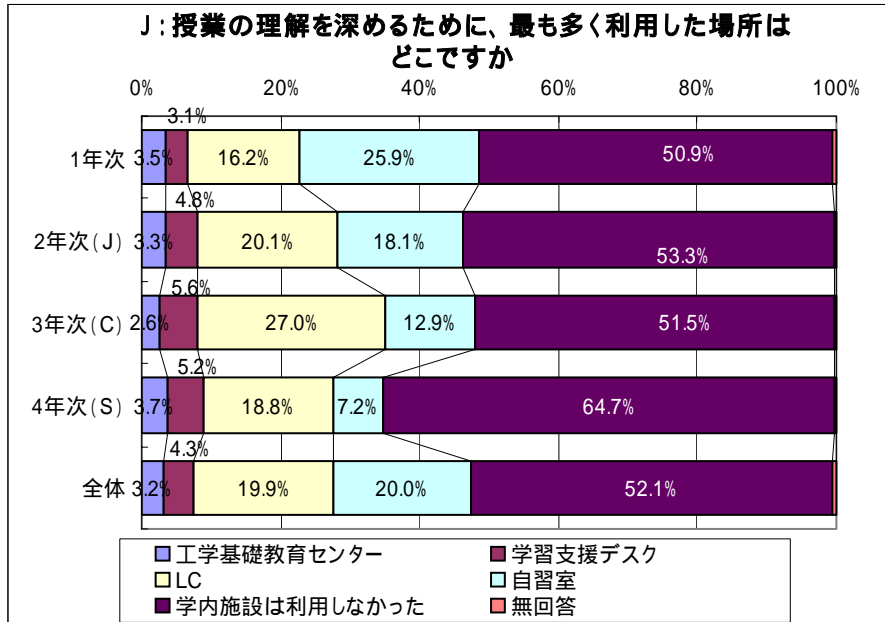
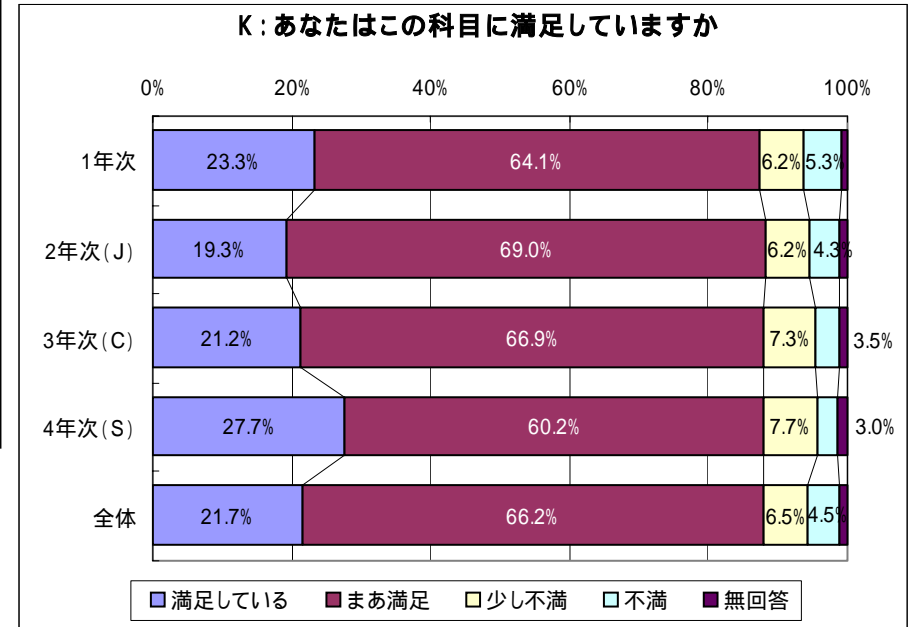
G: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



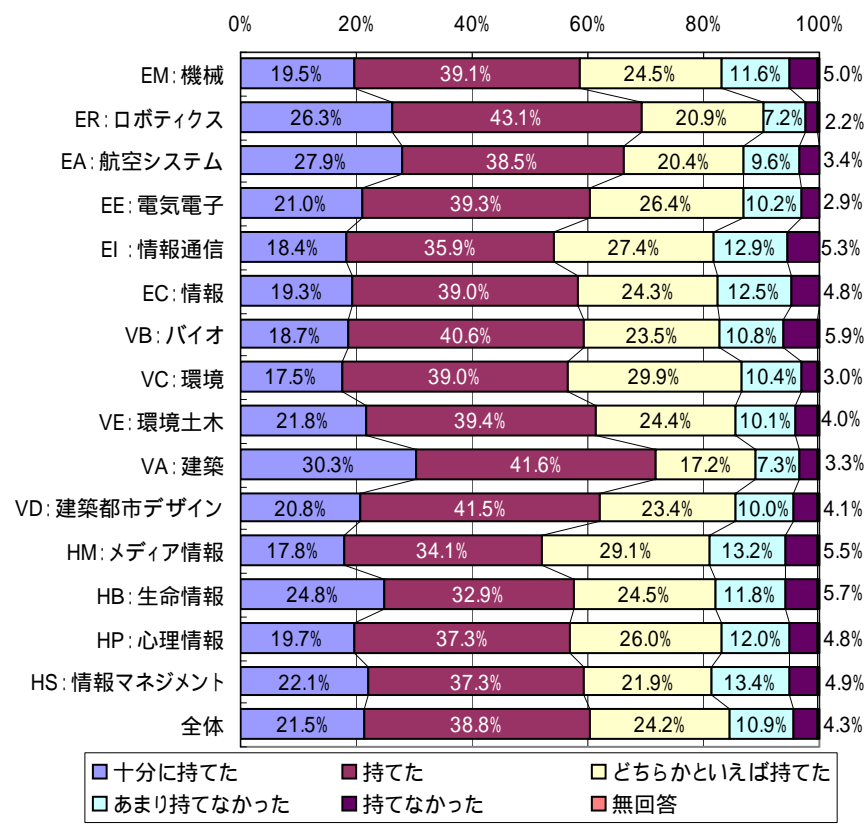
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」に関しては、1年次から3年次にかけては「LC」が増加して「自習室」が減少する傾向が見られ、学生の行動が変化している点が確認できた。
- そして、4年次になると「学内施設は利用しなかった」が増加していた。ここに「研究室」という選択肢がなかったためなど実態は分からないが、4年次になると行動パターンが変わることが分かった。
- 「満足度」に関しては年次との相関関係は見られず、「少し不満」と「不満」を合わせたものは年次によってほとんど変化が見られなかった。
- また、「満足している」と「まあ満足」の合計は変わらないものの、「満足している」だけを見ると4年次の満足度が高く、次いで1年次、3年次、2年次と下がっていることが分かった。



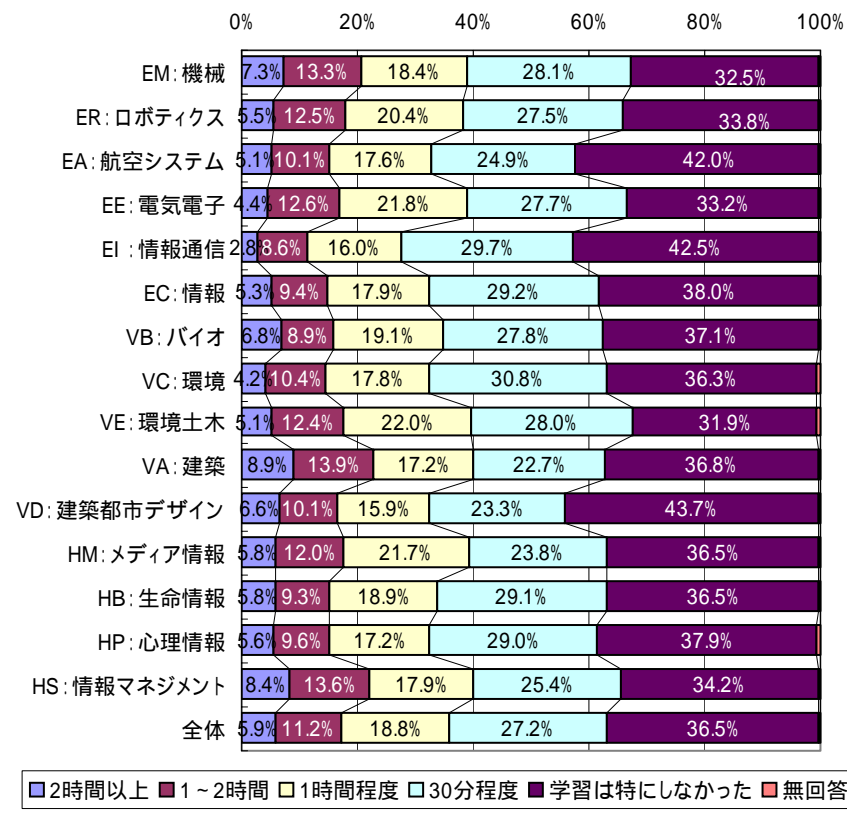
## 1年次

- 1年次の「科目に対する興味」に関しては、「十分に持てた」「持てた」の合計で見ると、VA:建築、ER:ロボティクス、EA:航空システムの高さが目立っていた。
- 逆に低かったのはHM:メディア情報、EI:情報通信などであった。E:工、V:環境・建築、H:情報フロンティアの3学部の傾向を見ると、H:情報フロンティアが全体的に低めであった。
- 「一回の授業に対する予習・復習」に関して「学習は特にしなかった」という回答を見ると、VD:建築都市デザイン、EI:情報通信、EA:航空システムが高めであり、予習・復習などの学習をしてない学生の割合が多いと言える。
- 逆に、学習している学生が多いのはVE:環境土木、EM:機械、ER:ロボティクス、EE:電気電子、HS:情報マネジメントなどであり、「2時間以上」という回答が多かったのはVA:建築、HS:情報マネジメントであった。

### A: この科目は興味を持って受講することができましたか

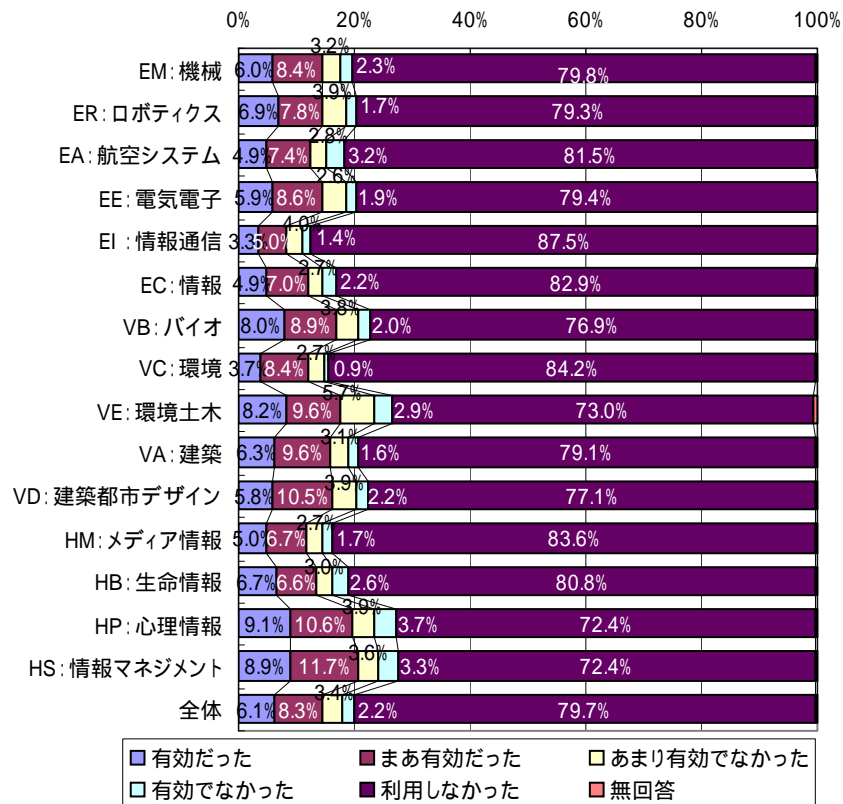


### B: 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか

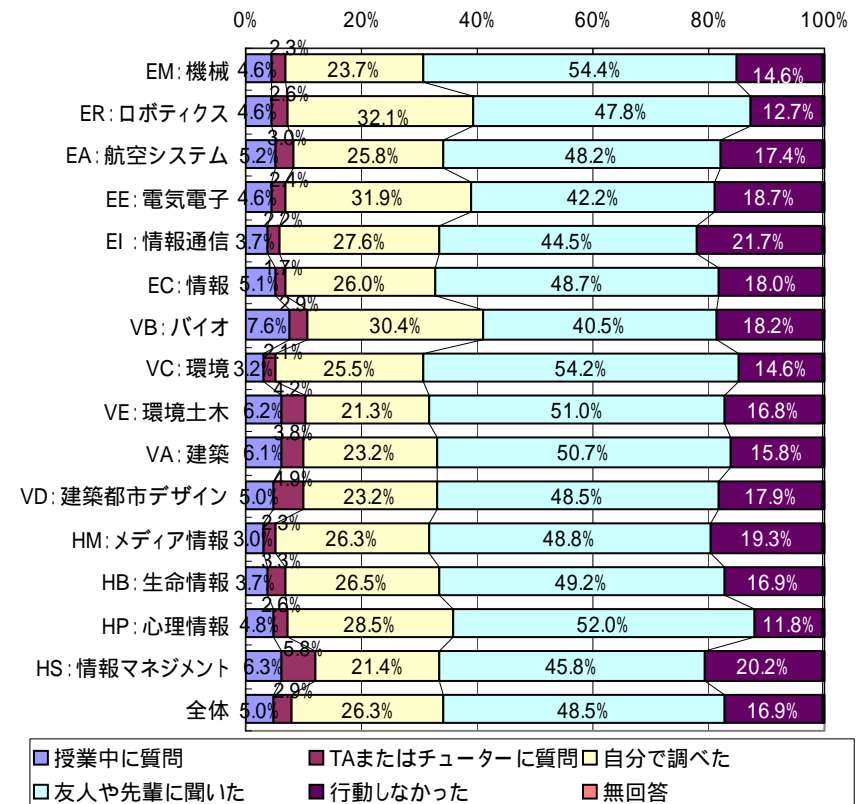


- 「OHの有効性」に関しては全体的に「利用しなかった」が多かったため、その部分を比較した。OHを利用する割合が低かったのはEI:情報通信、VC:環境、HM:メディア情報などであった。逆にOHを利用する割合が高かったのはHP:心理情報、HS:情報マネジメント、VE:環境土木などであった。
- 「授業が分からない際の行動」に関しては、わずかずつであるが学科による特徴が見られ、「授業中に質問」はVB:バイオが多く、「TAまたはチューターに質問」はHS:情報マネジメントが多かった。そして、「自分で調べた」はVB:バイオが多く、「友人や先輩に聞いた」はEM:機械が多かった。
- 「行動しなかった」だけを比較すると、HP:心理情報、ER:ロボティクスで割合が低く、分からない点があると何らかの行動を起こしていると思われる。逆に分からない点をそのままにしておく傾向にあるのは、EI:情報通信、HS:情報マネジメントであった。

C: 授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか

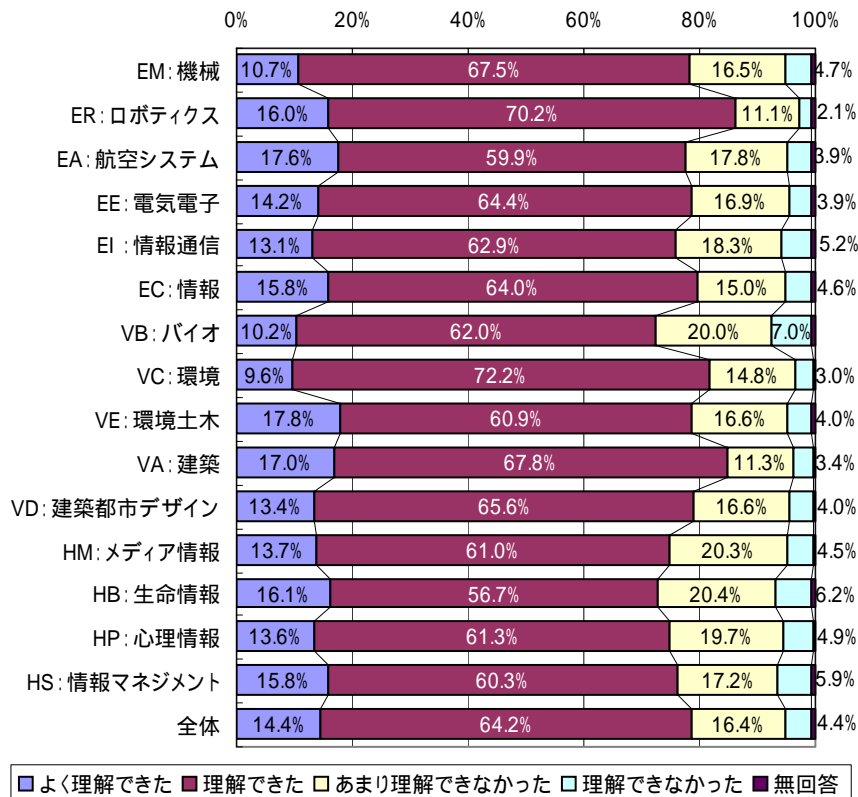


D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

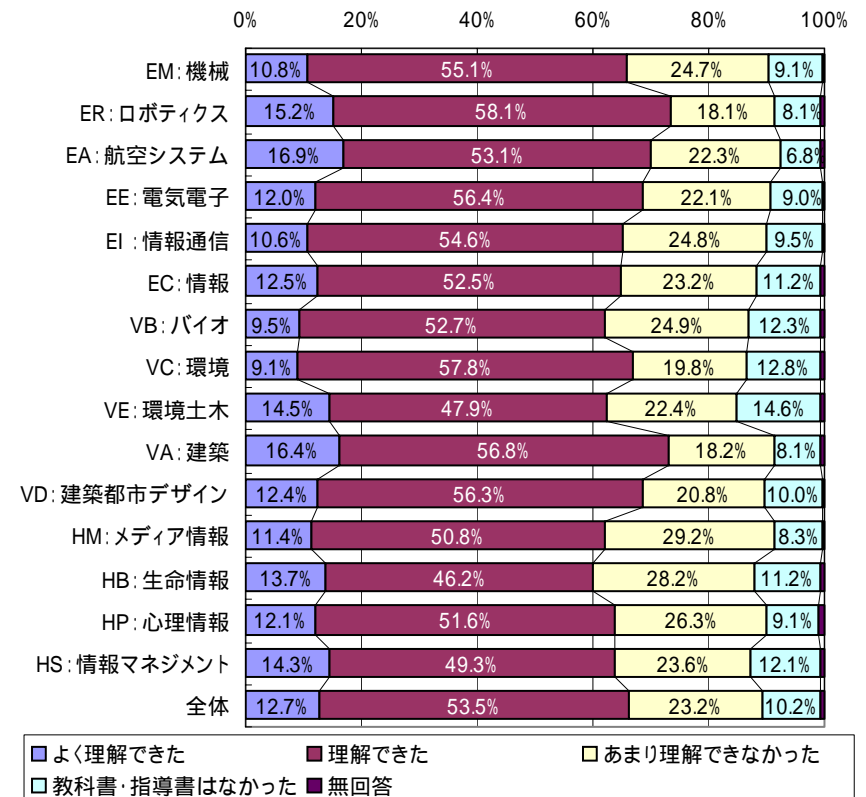


- 「学習支援計画書の理解度」で「よく理解できた」と「理解できた」を合わせたものを比較すると、ER:ロボティクスとVA:建築、VC:環境がよく理解できているようであった。逆に理解できていないのはVB:バイオとHB:生命情報、HM:メディア情報であった。
- 「教科書・指導書の内容」についても「よく理解できた」と「理解できた」を合わせたもので比較すると、ER:ロボティクスとVA:建築で理解度が高かった。また、EA:航空システムも高めであり「よく理解できた」だけを見るとEA:航空システムが最も多かった。
- 逆に理解度が低かった学科を見ると、HB生命情報が最も低く、次いでHM:メディア情報、VB:バイオが低かった。そして、学部で見るとH:情報フロンティアの理解度が低いようであった。

E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか

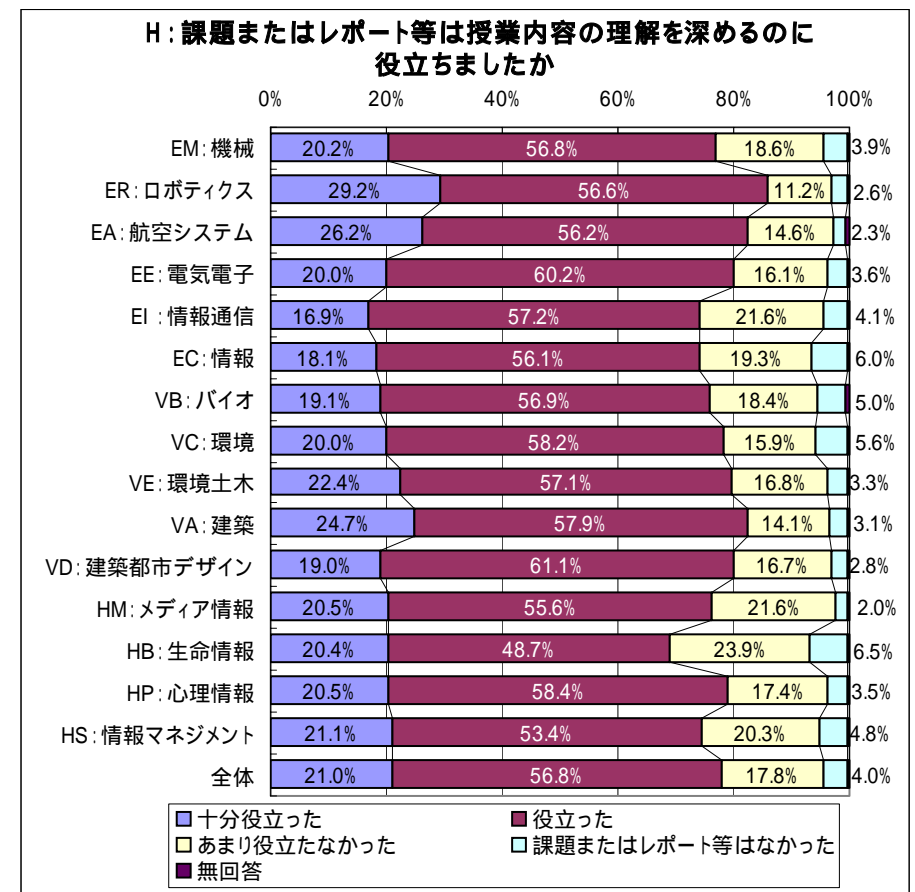
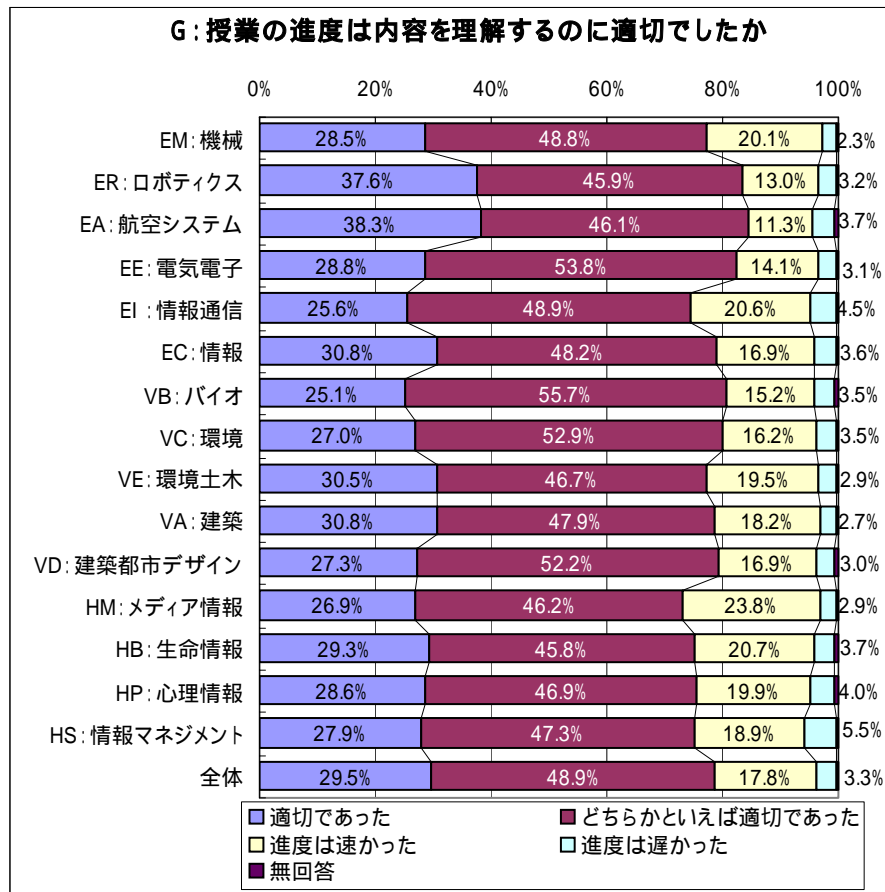


F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



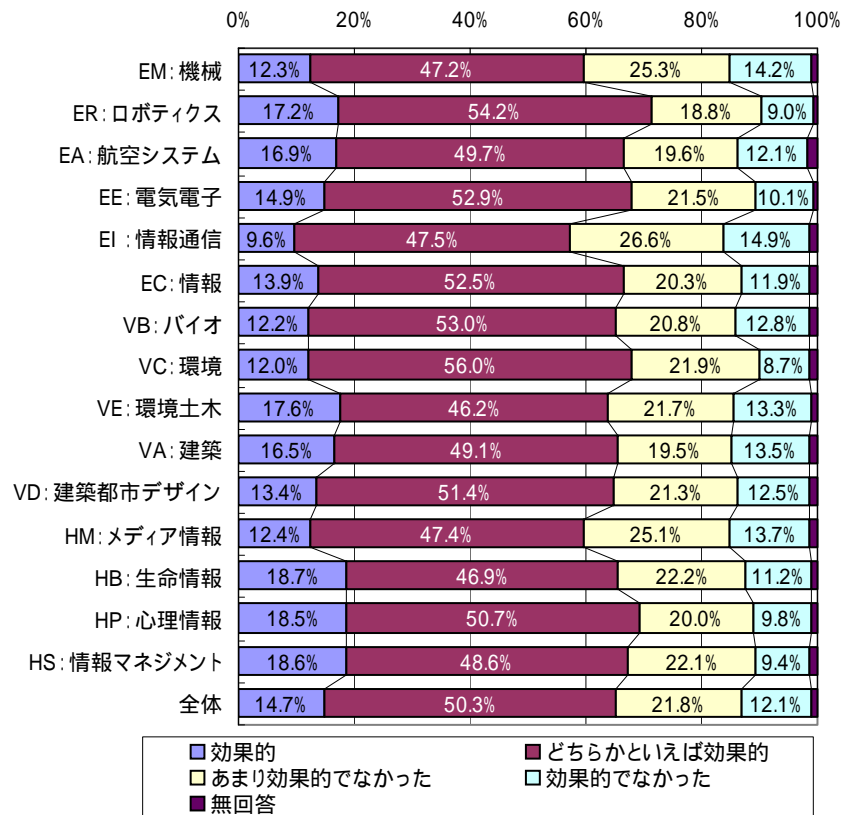


- 「授業の進度」では「適切であった」と「どちらかといえば適切であった」を加えたもので比較したが、EA:航空システム、ER:ロボティクス、EE:電気電子などは授業の進度は適切だったと感じているようであり、HM:メディア情報で適切だと感じている意見が少なかった。
- 「授業の進度」に関しては学部による差も見られ、工学部(E)が適切だと感じている一方で、情報フロンティア(H)では適切だと感じている意見は少なめであった。
- 「課題、レポートの有効性」に関しても「十分役立った」と「役立った」を合わせたもので比較したが、ER:ロボティクス、EA:航空システム、VA:建築などで役に立ったと感じている意見が多かった。逆に「あまり役に立たなかった」という意見は、HB:生命情報、EI:情報通信、HS:情報マネジメント、EC:情報などで多く見られた。

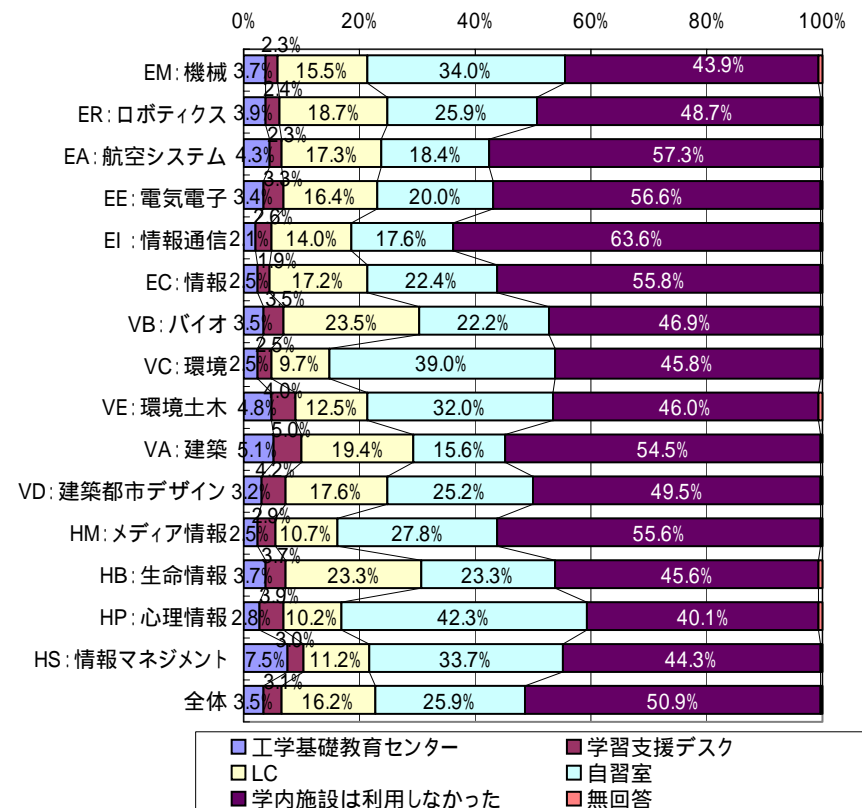


- 「自己点検授業の効果」を「効果的」と「どちらかといえば効果的」の合計で見ると、最も効果的と感じているのはER:ロボティクスであり、次いでHP:心理情報、VC:環境、EE:電気電子といった学科であった。
- 逆に、効果的ではないと感じているのはEI:情報通信、EM:機械、HM:メディア情報などであり、学部による傾向は見られなかった。
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」に関して、まず、「学内施設は利用しなかった」を見ると、EI:情報通信が学内施設を使っていないという割合が多く、EA:航空システム、EE:電気電子、EC:情報、HM:メディア情報などが続いていた。逆に、学内施設を使う傾向が強かったのは、HP:心理情報、EM:機械、HS:情報マネジメントなどであった。
- 使っている学内施設に関して目立ったものを見ると、HS:情報マネジメントは「工学基礎教育センター」を使っている割合が多く、VB:バイオとHB:生命情報は「LC」を使っている割合が多かった。また、HP:心理情報は「自習室」を使う傾向が強かった。

I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか

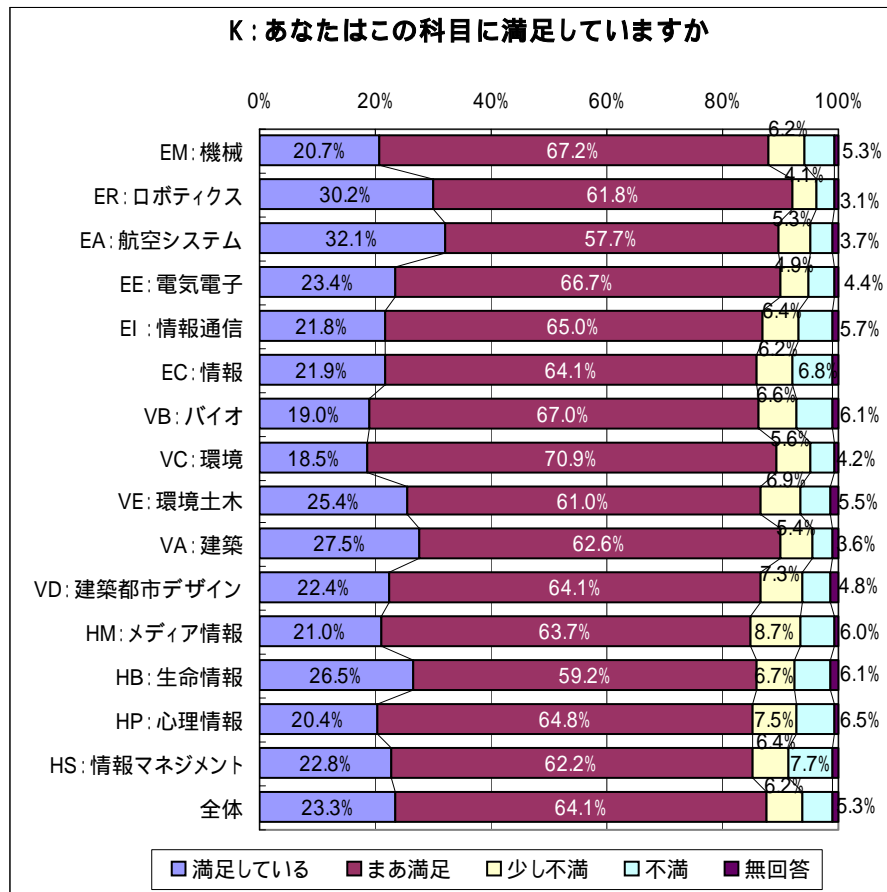


J: 授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか



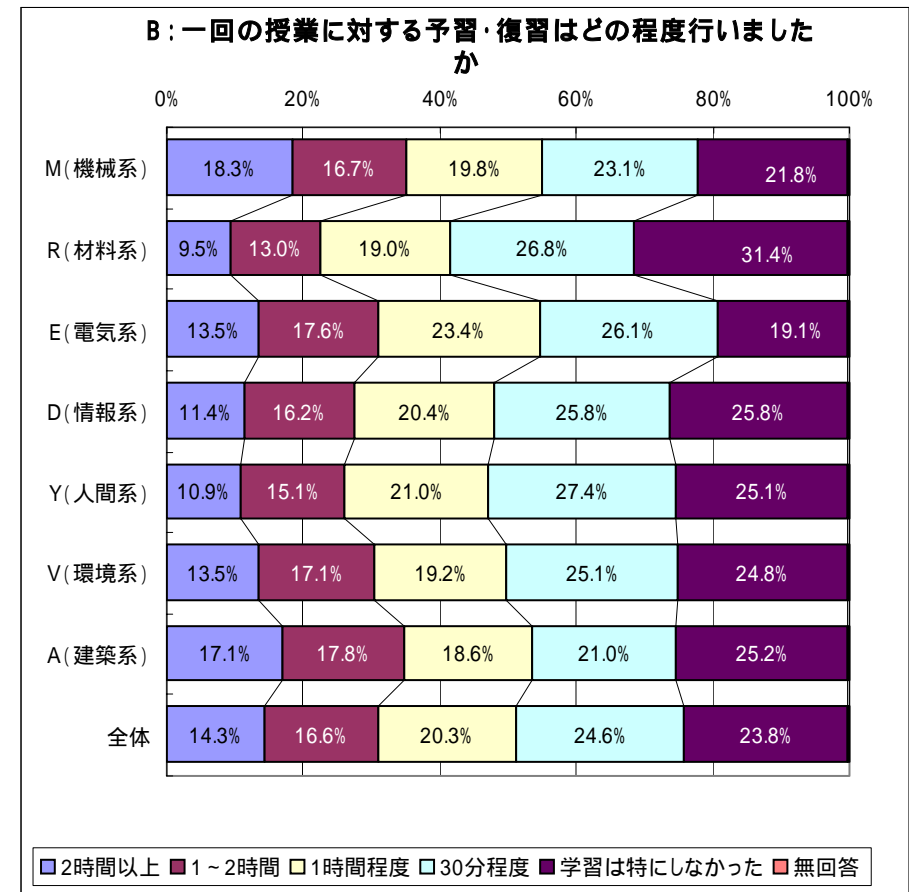
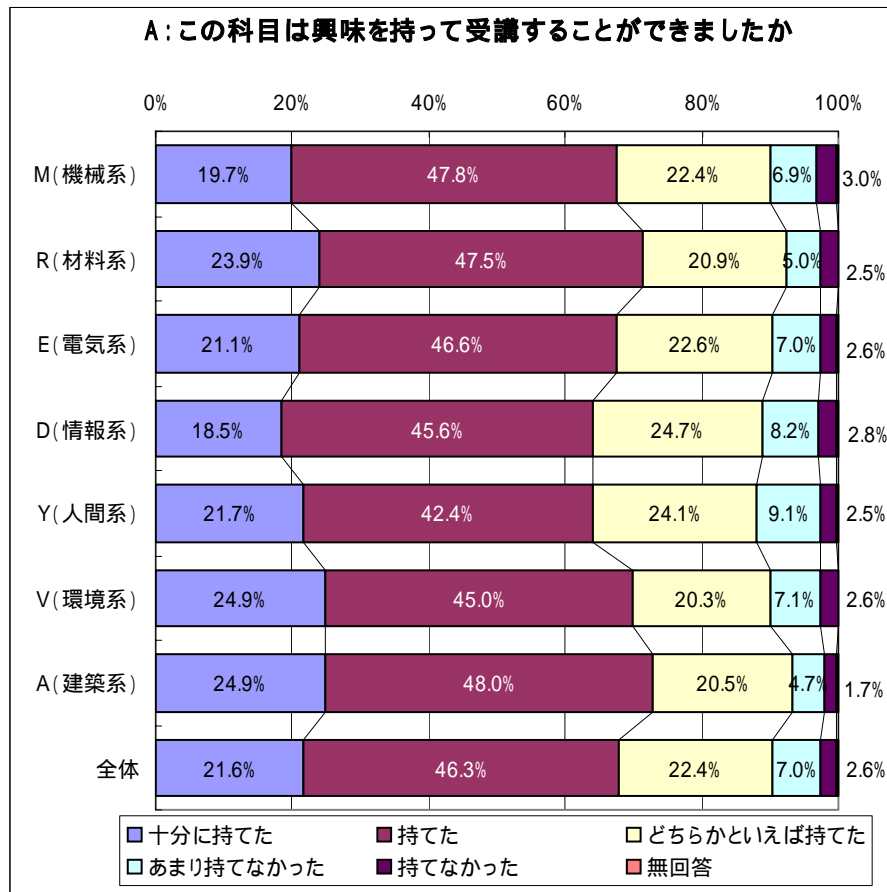


- 「科目に対する満足度」で「満足している」と「まあ満足」を加えたものを見ると、学科による差はあまり大きくなかったが、ER:ロボティクス、EE:電気電子、VA:建築、EA:航空システムなどの満足度が高めであった。
- 「満足している」だけを見ても上記と同じような学科の満足度が高めであったが、EA:航空システムで「満足している」が最も多かった。そして、ER:ロボティクス、VA:建築などが続いていた。
- 学科毎の差が小さいため上記以外の大きな特徴は見られなかったが、学部で見るとH:情報フロンティア学部の満足度がやや低めであった。



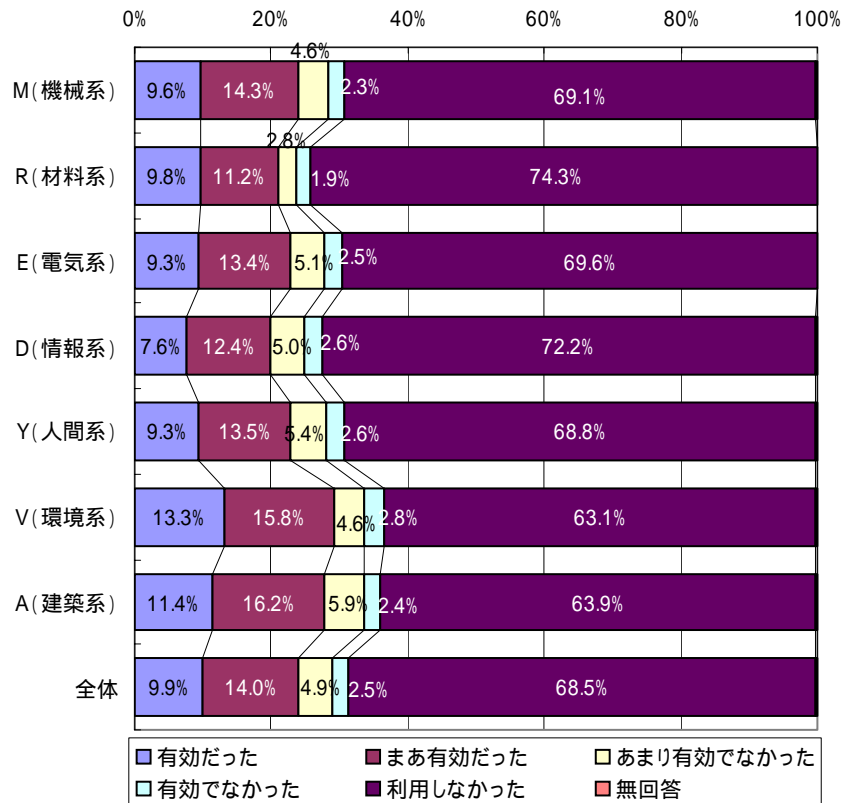
## 2年次(Jクラス)～4年次(Sクラス)

- 2年次以降は旧体系である学系で比較を行った。
- まず、「科目に対する興味」に関して、「十分に持てた」「持てた」を合わせた割合を比較すると、「建築系」が最も科目に対する興味が強く、次いで「材料系」「環境系」という順であった。
- そして、科目に興味を持っていないのは「人間系」「情報系」であった。
- 「一回の授業に対する予習・復習」で「学習は特にしなかった」の割合を見ると、「電気系」で少なく「材料系」で多く見られ、「電気系」では予習・復習に時間を割いている学生が多く、「材料系」で少ないことが分かった。
- また、「2時間以上」を見ると「機械系」「建築系」が多く、この2つの学系では予習・復習に多くの時間が割かれているようであった。

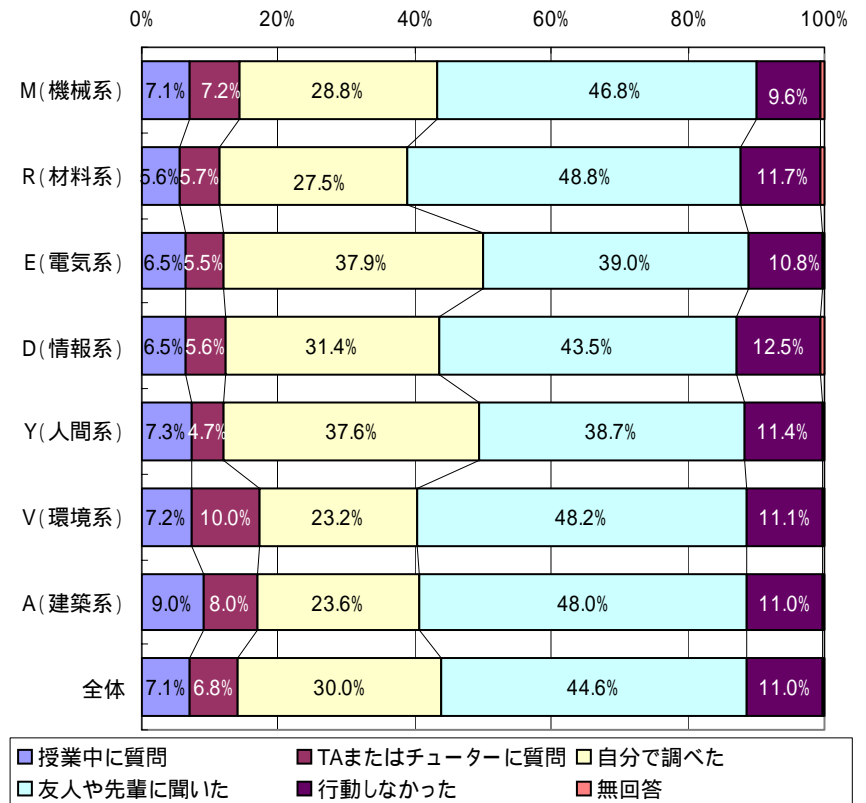


- 「OHの有効性」に関して「利用しなかった」の割合から見ると、「環境系」「建築系」がOHを使っている割合が高く、中でも「環境系」がOHを高く評価している傾向が見られた。そして、「材料系」がOHを最も使っておらず、「情報系」の利用率も低かった。
- 「授業が分からない際の行動」に関して、「行動しなかった」は「機械系」でわずかに少なかったものの、学系による差は大きくなかった。
- 学系別の行動を見ると、「TAまたはチューターに質問」では、「環境系」が多く「人間系」が少なかった。また、「自分で調べた」は、「電気系」と「人間系」で多めであった。「友人や先輩に聞いた」は、「材料系」「環境系」「建築系」で多めであった。

C: 授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか

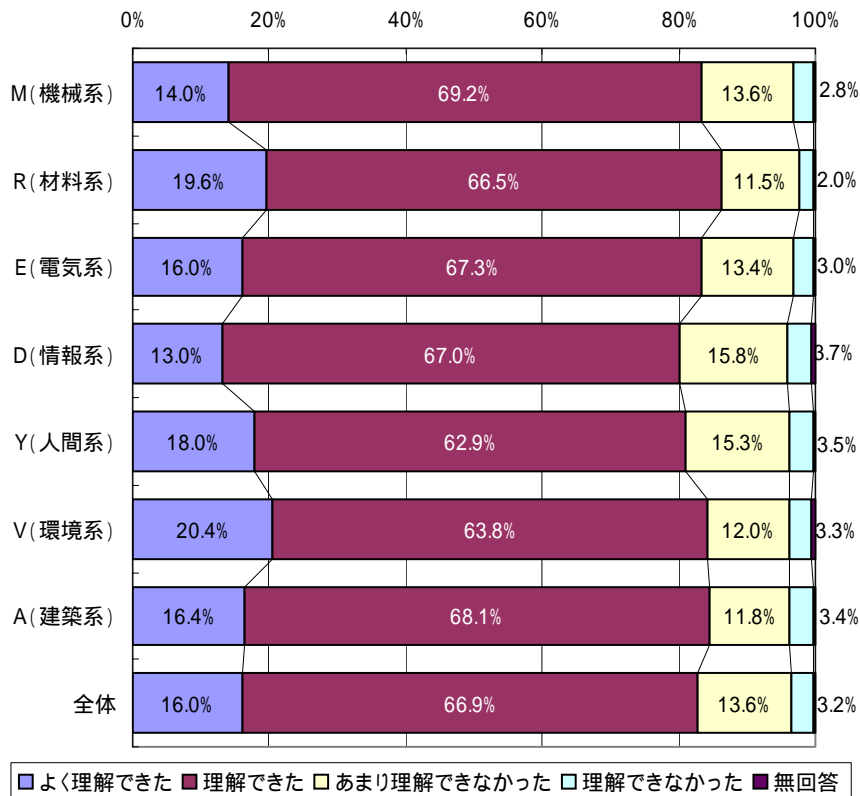


D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

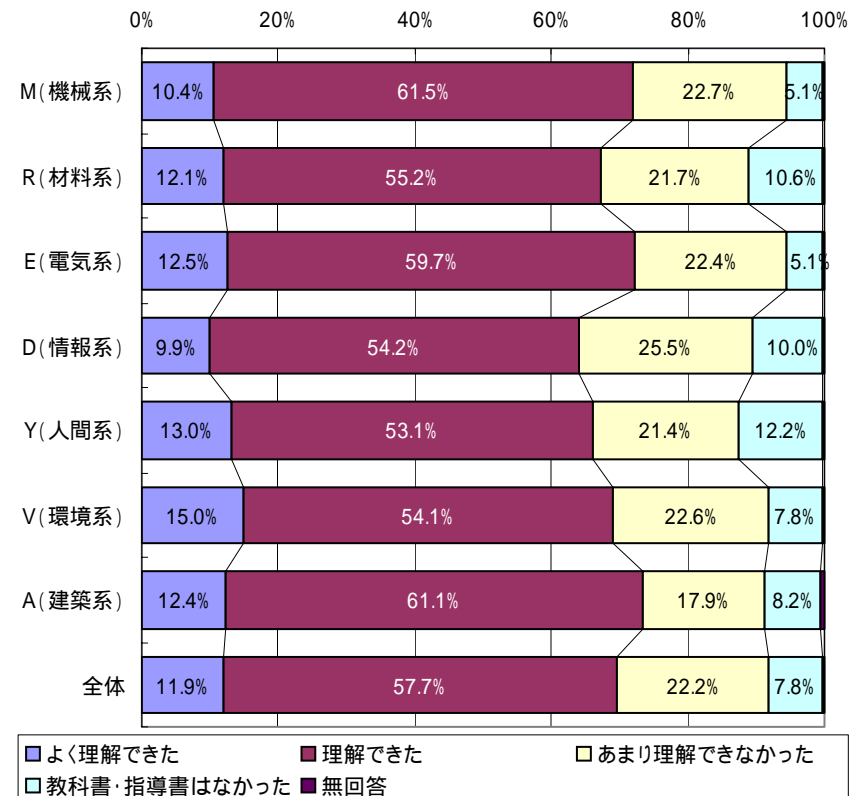


- 「学習支援計画書の理解度」に関して「よく理解できた」だけを見ると、「環境系」「材料系」の理解度が高いようであった。また、「理解できた」までを合わせると「建築系」「材料系」「環境系」の理解度が高いことが分かる。
- そして、理解度が低かったのは「情報系」「人間系」であった。
- 「教科書・指導書の理解度」を見ると、「よく理解できた」の割合は「環境系」で高かったものの、学系による差はそれほど大きくなかった。「理解できた」までを加えると「建築系」「電気系」「機械系」が高く、この3学系では授業の理解度も高いことが予想される。
- 逆に低かった学系を見ると、「情報系」が最も低く、授業の理解度がどの程度なのか気になる点であった。そして、「人間系」「材料系」も低めであった。

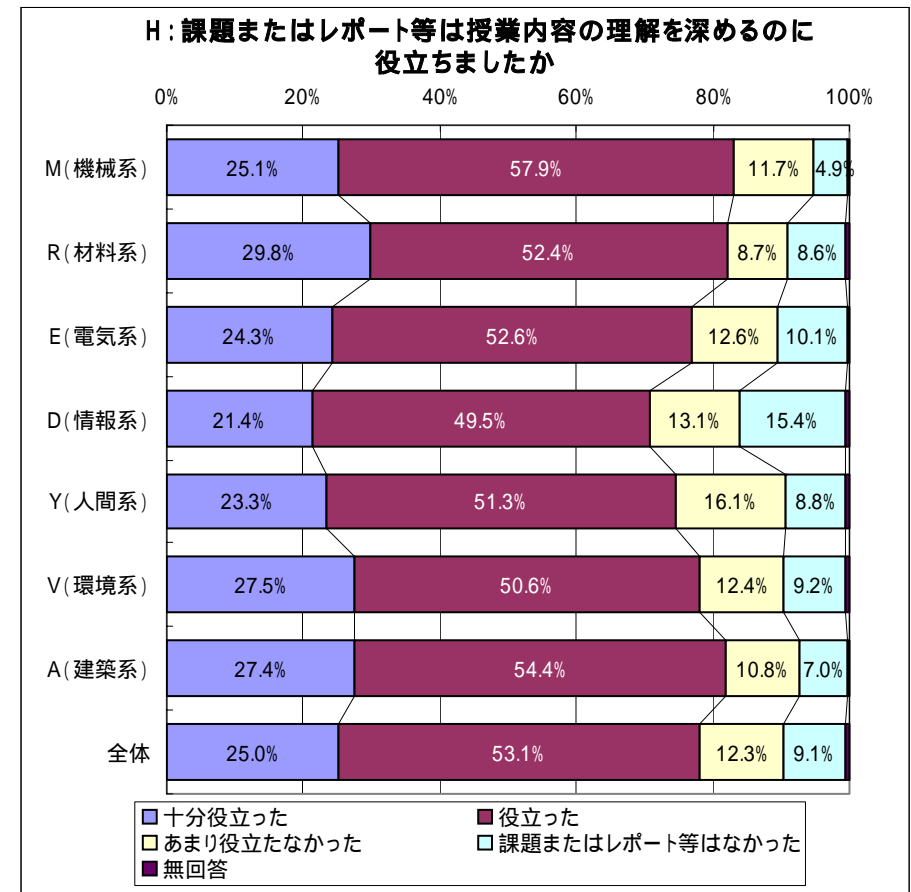
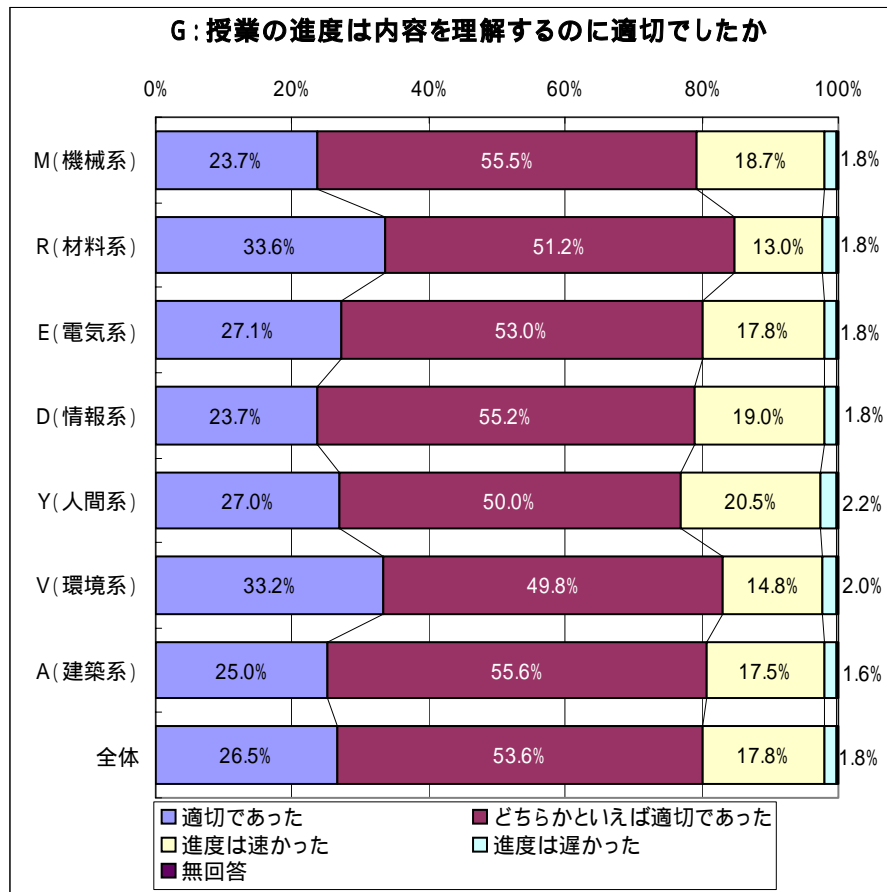
E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



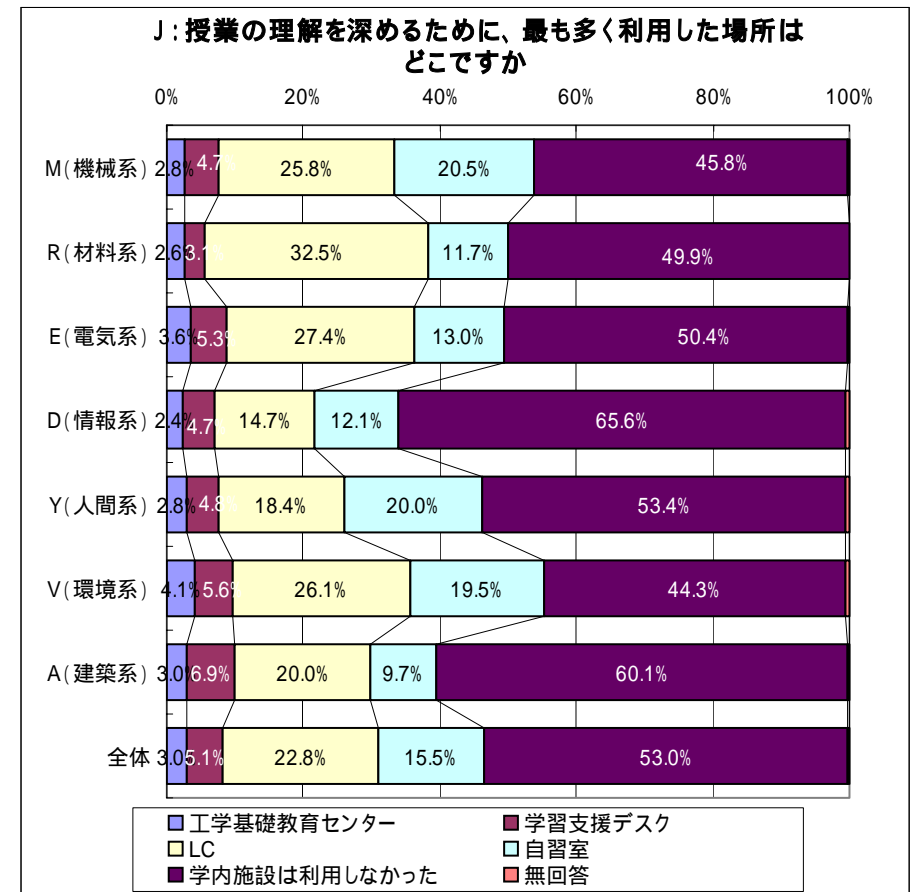
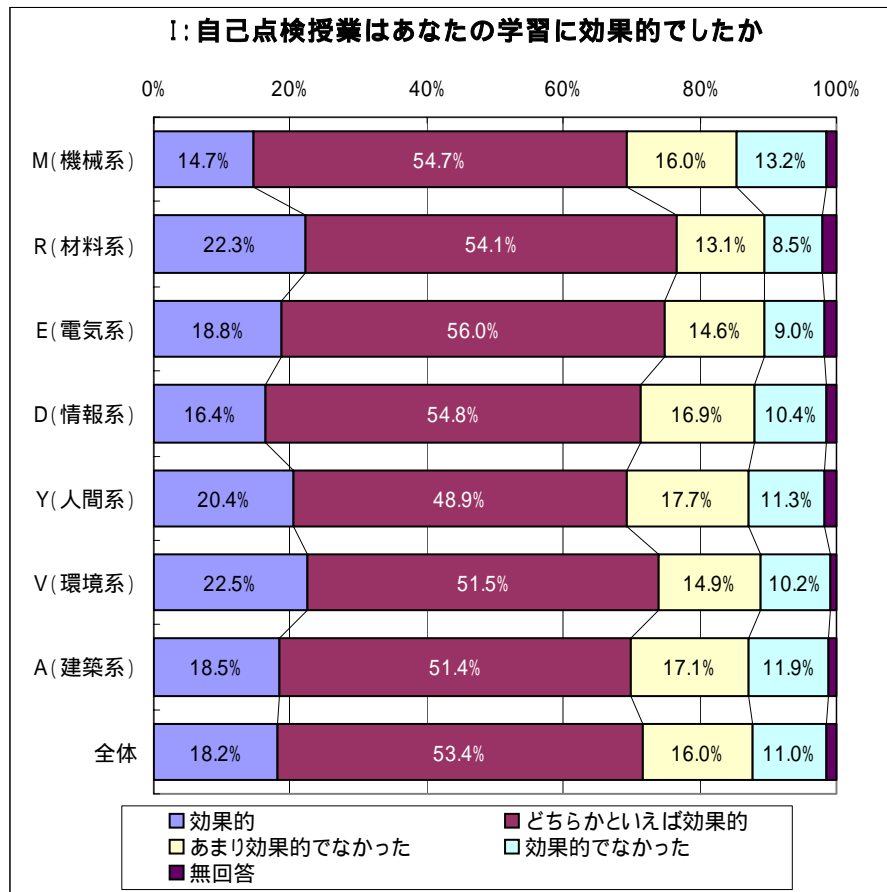
F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



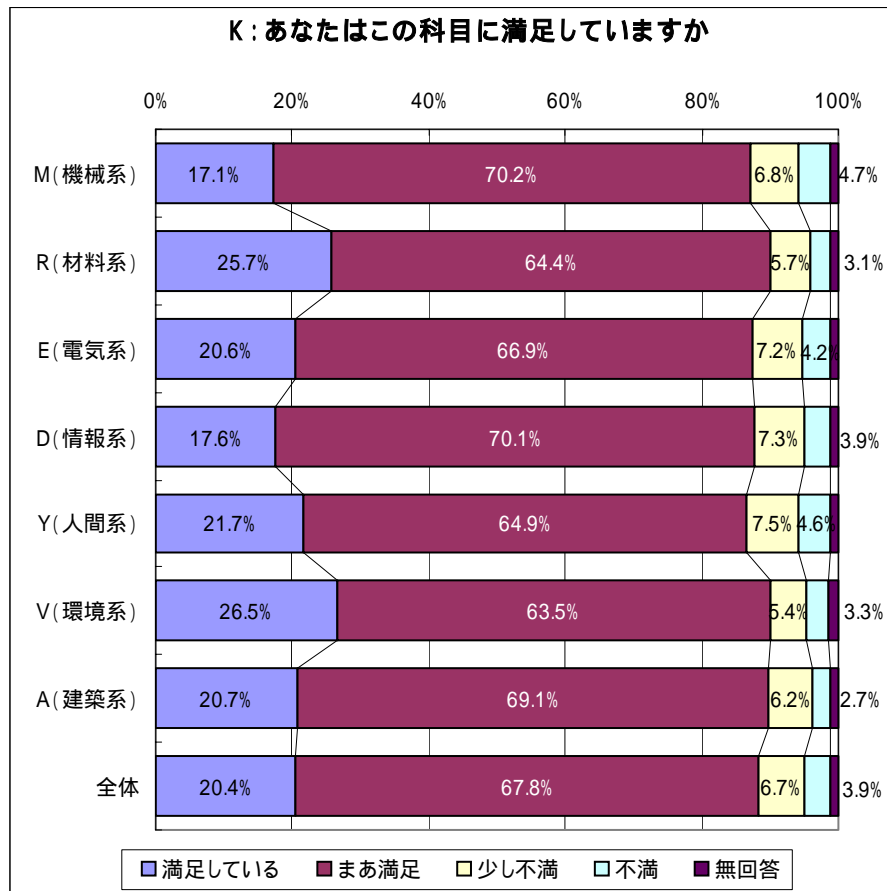
- 「授業の進度」に関しては、「材料系」「環境系」は進度が適切であったと感じているようであった。そして、「人間系」「情報系」「機械系」では授業が速いと感じていた。
- 「課題、レポートの有効性」は、「情報系」で「課題またはレポート等はなかった」という回答が多かったため比較は難しいが、「十分役立った」「役立った」の合計を見ると「機械系」「材料系」「建築系」では役立ったと感じていた。
- そして、「あまり役立たなかった」を見ると、「人間系」「情報系」が多めであった。



- 「自己点検授業の効果」で「効果的」と「どちらかといえば効果的」を合わせたもので比較すると、「材料系」が自己点検授業が効果的であったと回答しており、次いで「電気系」「環境系」からの評価が高めであった。
- そして、自己点検授業の評価が低かったのは「機械系」「人間系」「建築系」であった。
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」で「学内施設は利用しなかった」を見ると、「情報系」が非常に多い点が目立った。そして、「建築系」が続いており、この2つの学系は学習のために学内施設を使う割合が低いことが分かった。
- 使っている場所を学系毎に比較すると、「材料系」は「LC」を使う割合が高く、「機械系」「人間系」「環境系」は「自習室」を使う割合が高かった。



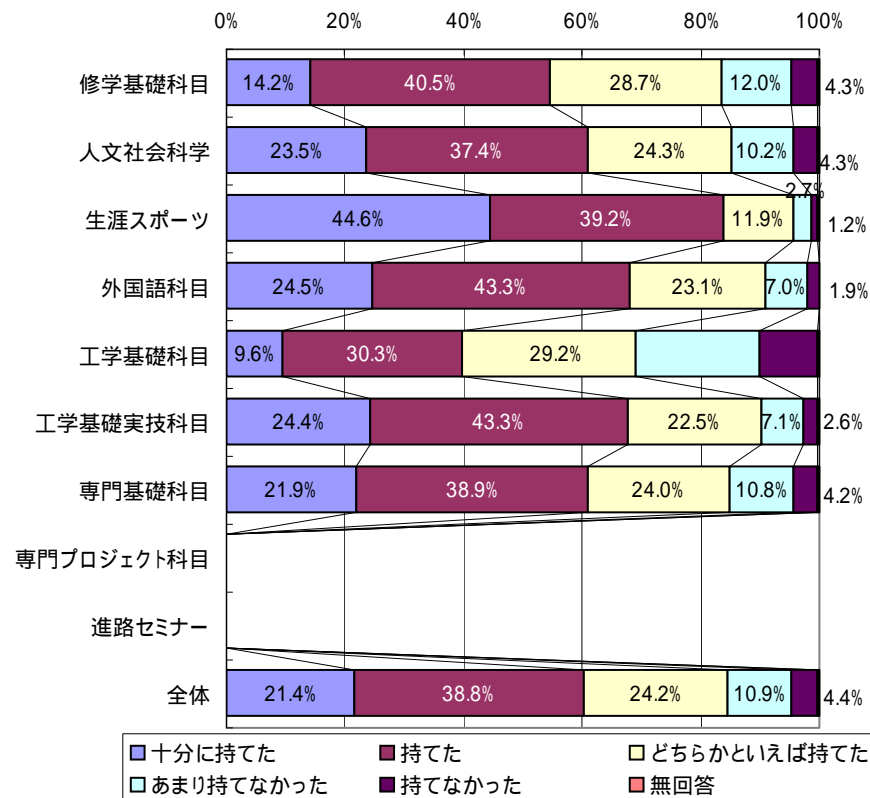
- 「科目に対する満足度」に関しては、学系による差はそれほど大きくなかった。
- 「満足している」だけを見ると「環境系」「材料系」が高めで、「機械系」「情報系」が低めであった。
- そして、「まあ満足」までを加えると、「材料系」「環境系」「建築系」の満足度がやや高めであったと言える。



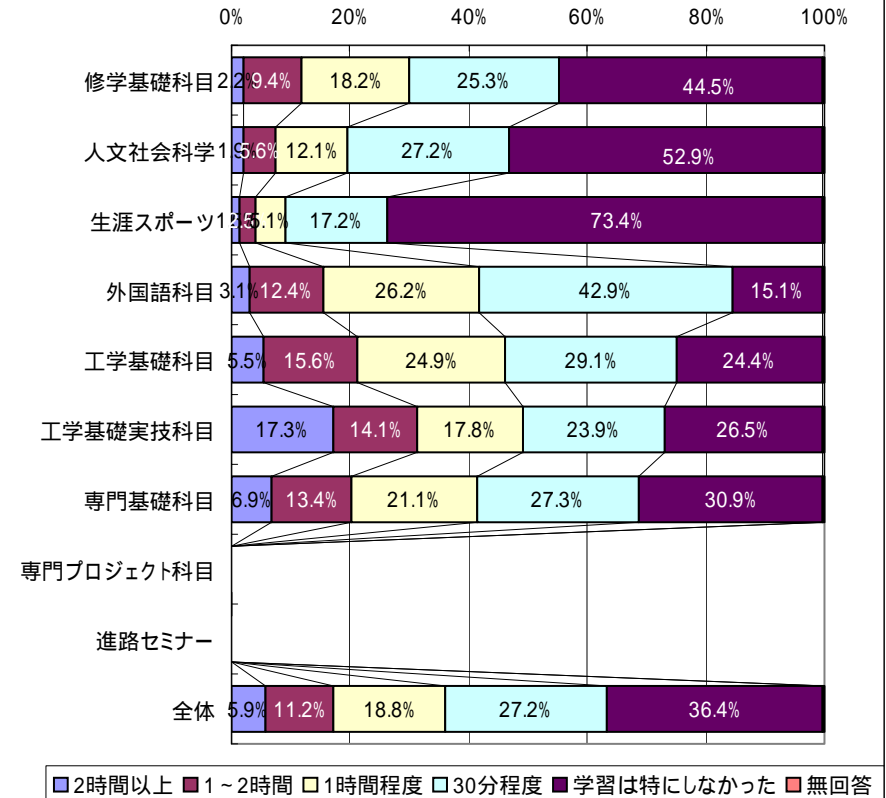
## 1年次

- 1年次は新たな科目区分で比較したが、「科目に対する興味」では「生涯スポーツ」が最も興味を持たれていた。
- その他の科目区分で「十分に持てた」と「持てた」を合わせたもので比較すると、「外国語科目」と「工学基礎実技科目」が同じ程度で「生涯スポーツ」に次いでいた。そして、最も興味を持たれていなかったのは「工学基礎科目」であり、「修学基礎科目」も低めであった。
- 1年次では上記のように一般科目と専門科目で興味の持たれ方が偏るという傾向は見られなかった。
- 「一回の授業に対する予習・復習」では幾つかの特徴が見られた。まず、「生涯スポーツ」は「学習は特にしなかった」という意見が7割以上見られた。そして、「外国語科目」は「学習は特にしなかった」という回答が最も少なかったが、予習・復習に長い時間が割かれているわけではなく、多くの学生が短時間ではあるが予習・復習に時間を割いていることが分かった。
- その他の科目区分を見ると、「外国語科目」を除くと、一般科目よりも専門科目の方に予習・復習の時間が割かれていることが分かった。

### A: この科目に興味を持って受講することができましたか



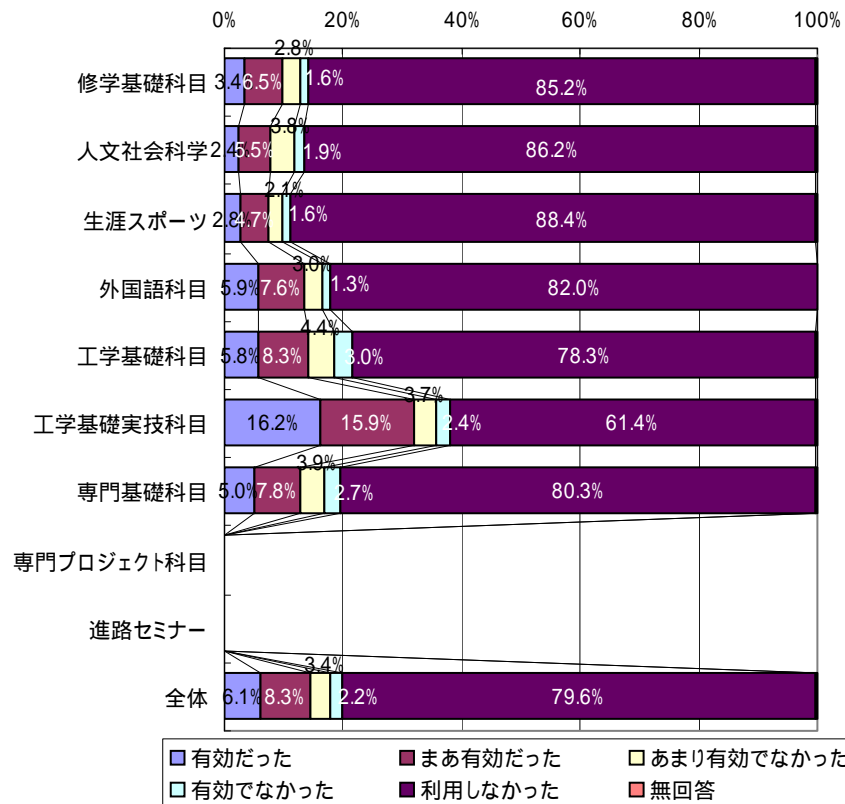
### B: 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか



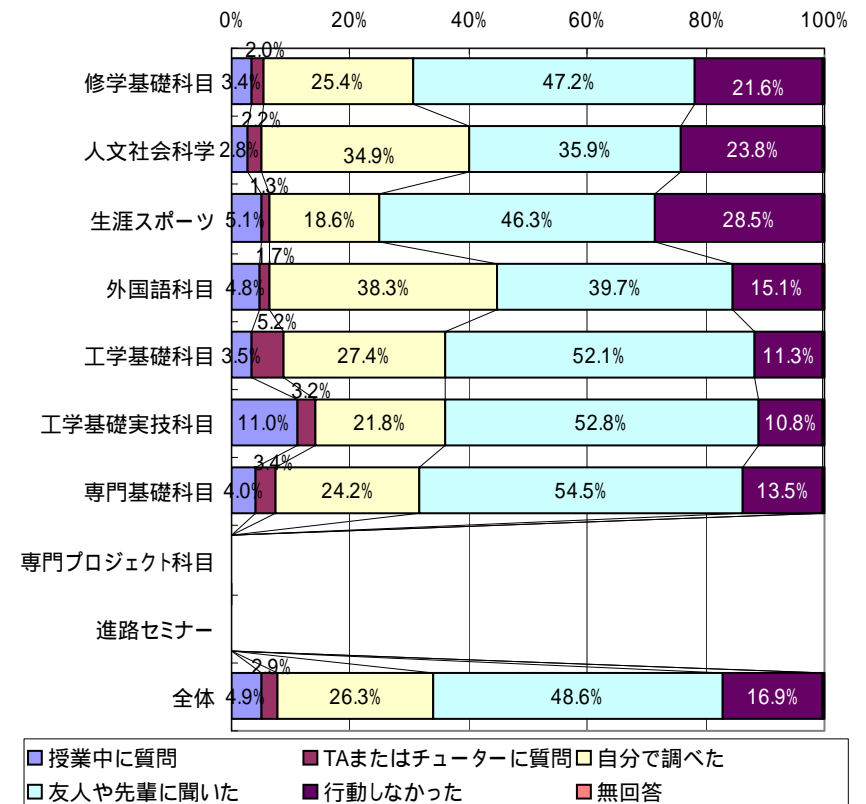


- 「OHの有効性」を見ると、まず、「工学基礎実技科目」で利用度が高い点が目立っていた。そして、「工学基礎科目」「専門基礎科目」でも「利用しなかった」という回答が少なめであった。これを見ると専門系の科目でOHが利用されている傾向が強いことが分かる。
- 一般科目の中でも「外国語科目」ではOHが活用されている傾向が強く、使っている層の評価も高いようであった。
- 「授業が分からなかった際の行動」に関して、まず、「行動しなかった」の割合を見ると、行動の必要は低いと思われるが「生涯スポーツ」で行動しなかったという割合が多かった。そして、「人文社会科学」「修学基礎科目」でも行動していないケースが多く、一般科目では「外国語科目」以外では、授業が分からない際に何も行動していない学生が多いと言える。
- その他、専門系の科目を見ると、「工学基礎実技科目」では「授業中に質問」という割合が多く、「工学基礎科目」では「TAまたはチューターに質問」が多かった。そして、専門系では「友人や先輩に聞いた」という割合も多めであった。

C: 授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか

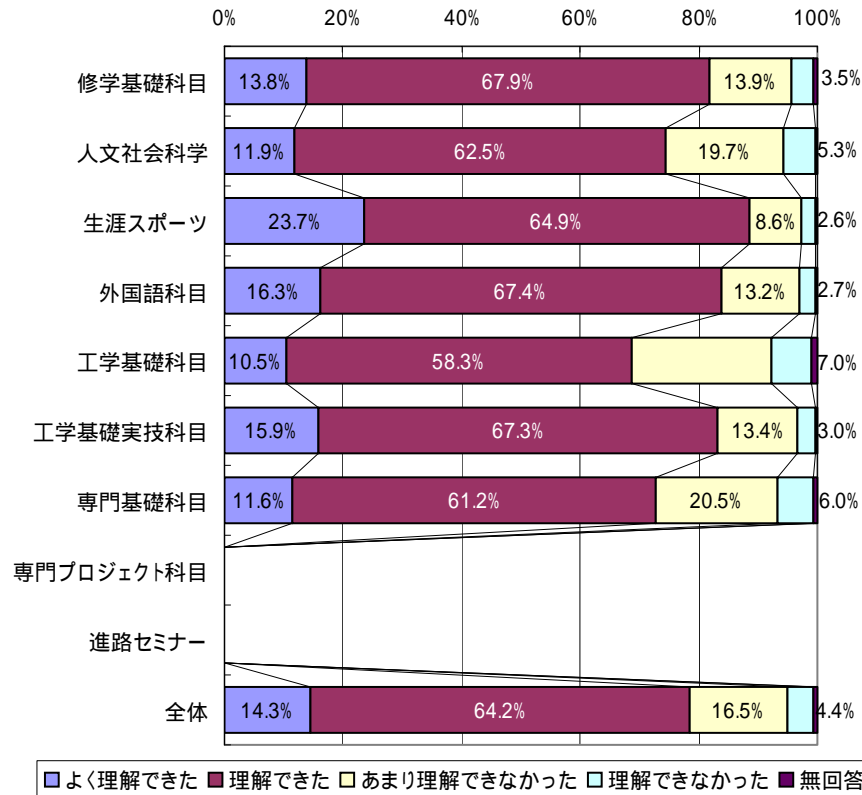


D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

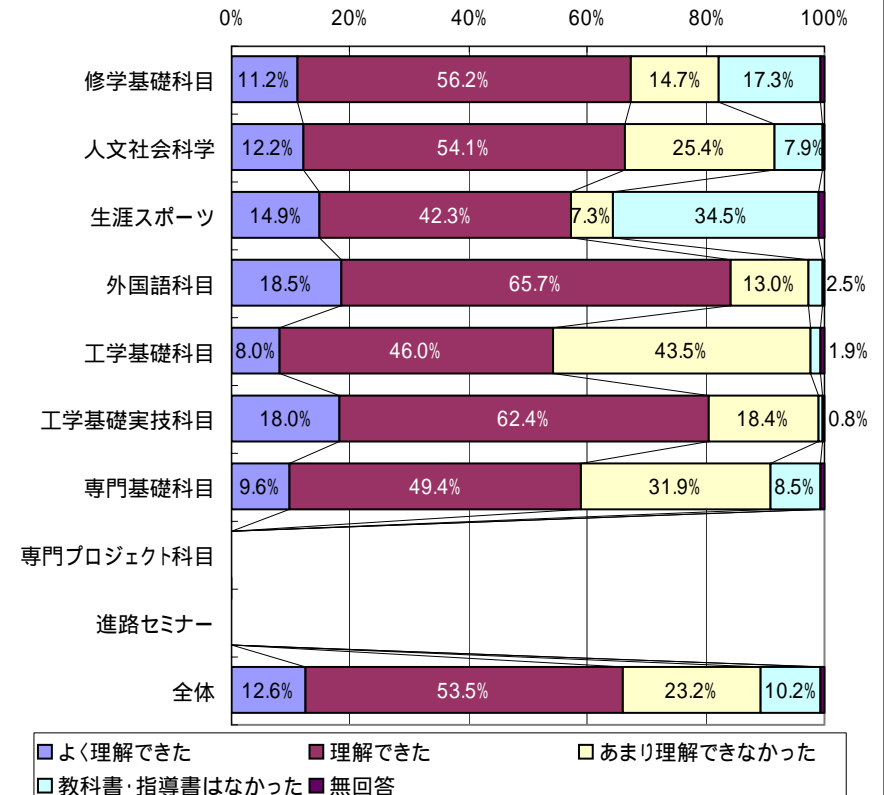


- 「学習支援計画書の理解度」で「よく理解できた」と「理解できた」を合わせると、「生涯スポーツ」での理解度が最も高く、次いで「外国語科目」「工学基礎実技科目」「修学基礎科目」での理解度が高めであった。
- 逆に低いのは「工学基礎科目」「専門基礎科目」「人文社会科学」などであり、学習支援計画書の理解度は科目による差が20ポイントほどと大きなものとなっていた。
- 「教科書・指導書の内容」についても、「よく理解できた」と「理解できた」を合わせて比較したが、科目によって大きな差が見られた。まず、理解度が高かったのは「外国語科目」と「工学基礎実技科目」であり、8割の学生が教科書・指導書が理解できたと回答していた。
- 理解度が低かったものとして、「生涯スポーツ」は「教科書・指導書がなかった」という特別な事情があるが、その他では「工学基礎科目」「専門基礎科目」の理解度が低かった。

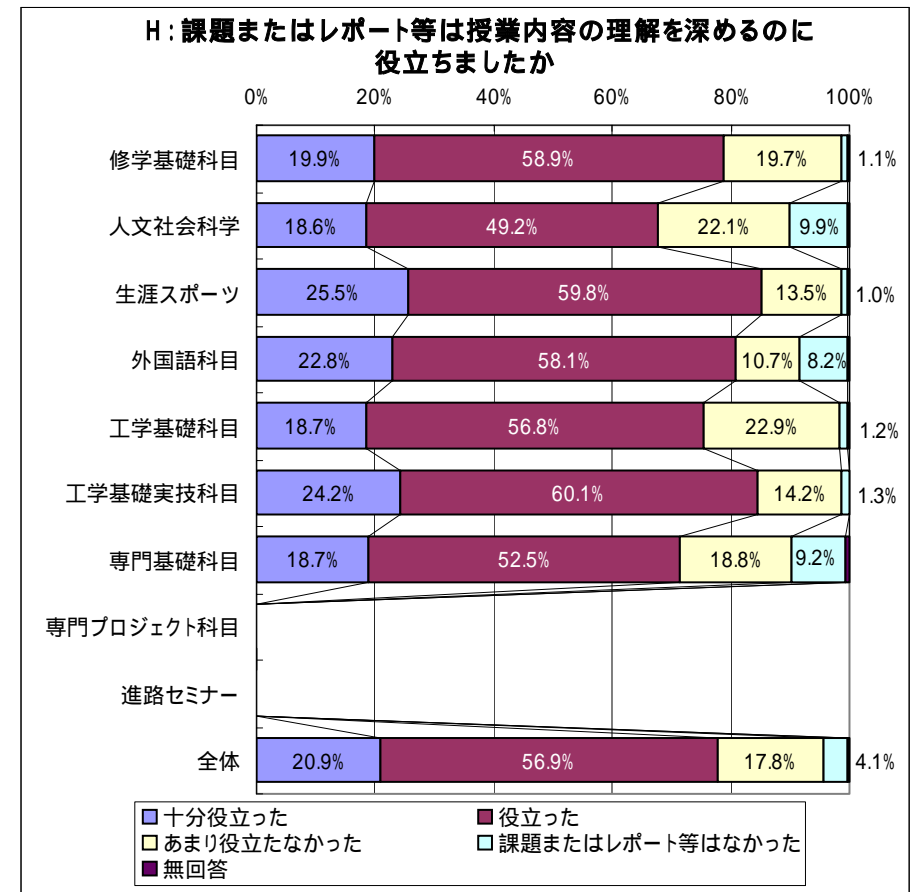
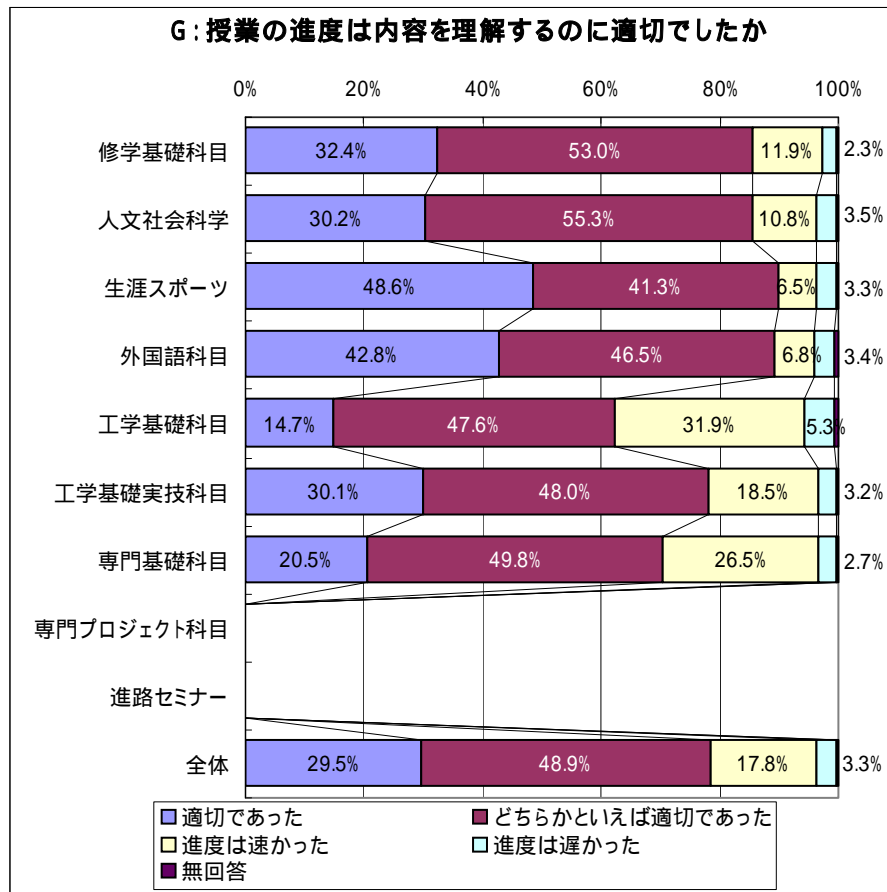
E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか

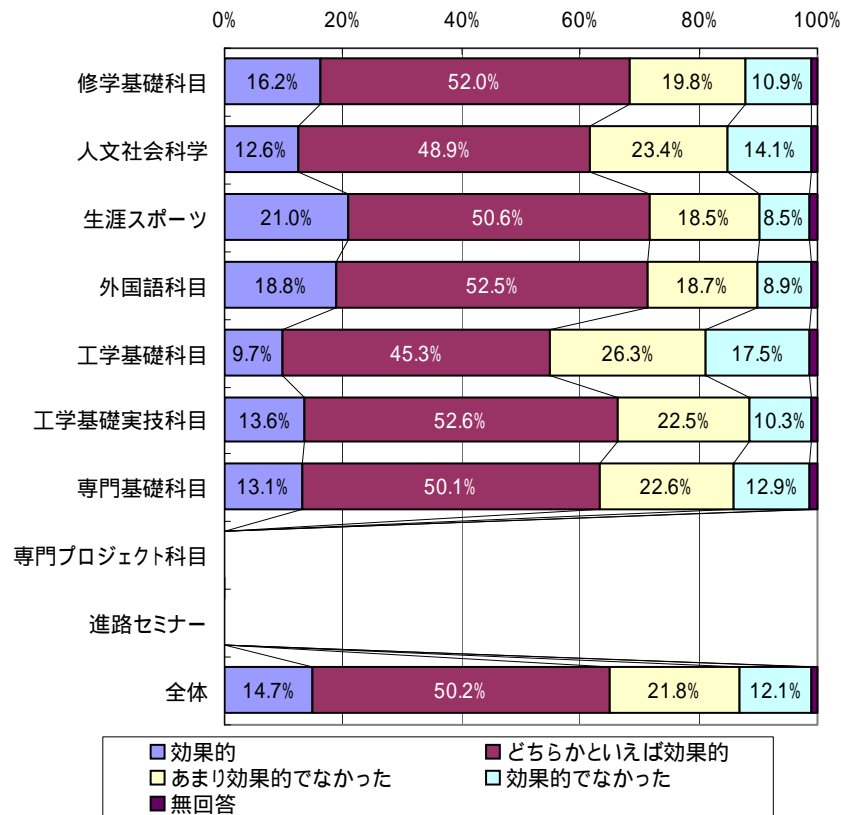


- 「授業の進度」に関して目立ったのは、専門科目で「進度が速かった」という回答が多かった点であり、「工学基礎科目」では31.9%、専門基礎科目では26.5%、「工学基礎実技科目」では18.5%が「進度が速かった」という回答であった。
- そして、一般科目では、「生涯スポーツ」と「外国語科目」ではほぼ9割が進度が適切だと考えられており、「修学基礎科目」と「人文社会科学」も、8割以上は進度が適切であったという回答であった。
- 「課題、レポートの有効性」を「十分役立った」と「役立った」の合計で比較すると、「生涯スポーツ」と「工学基礎実技科目」で役立ったという回答が多く見られた。逆に役に立ったという意見が少なかったのは「人文社会科学」「専門基礎科目」「工学基礎科目」であり、「課題、レポートの有効性」に関しては一般系、専門系での特徴は見られなかった。

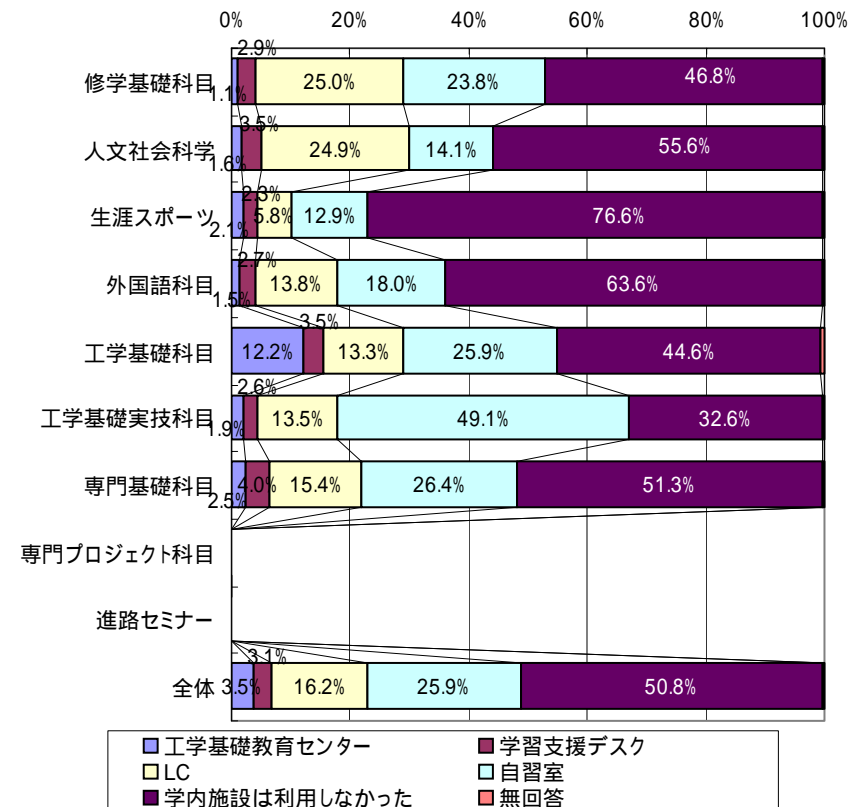


- 「自己点検授業の効果」に関して「効果的」と「どちらかといえば効果的」を合わせたものと見ると、「生涯スポーツ」と「外国語科目」で効果的であったと評価されていた。そして、「工学基礎科目」で最も効果的でなかったとされており、次いで、「人文社会科学」「専門基礎科目」での評価も低めであった。
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」では、科目区分によって大きく差がついた。まず、「学内施設は利用しなかった」を見ると「生涯スポーツ」「外国語科目」で学内施設を利用しないという意見が多く、「工学基礎実技科目」「工学基礎科目」「修学基礎科目」では学内施設を使われている割合が高かった。
- 使われている施設の特徴を見ると、「工学基礎科目」では「工学基礎教育センター」が使われており、「修学基礎科目」「人文社会科学」では「LC」が使われている傾向があった。そして、「工学基礎実技科目」では約5割の学生が「自習室」を使っていた。

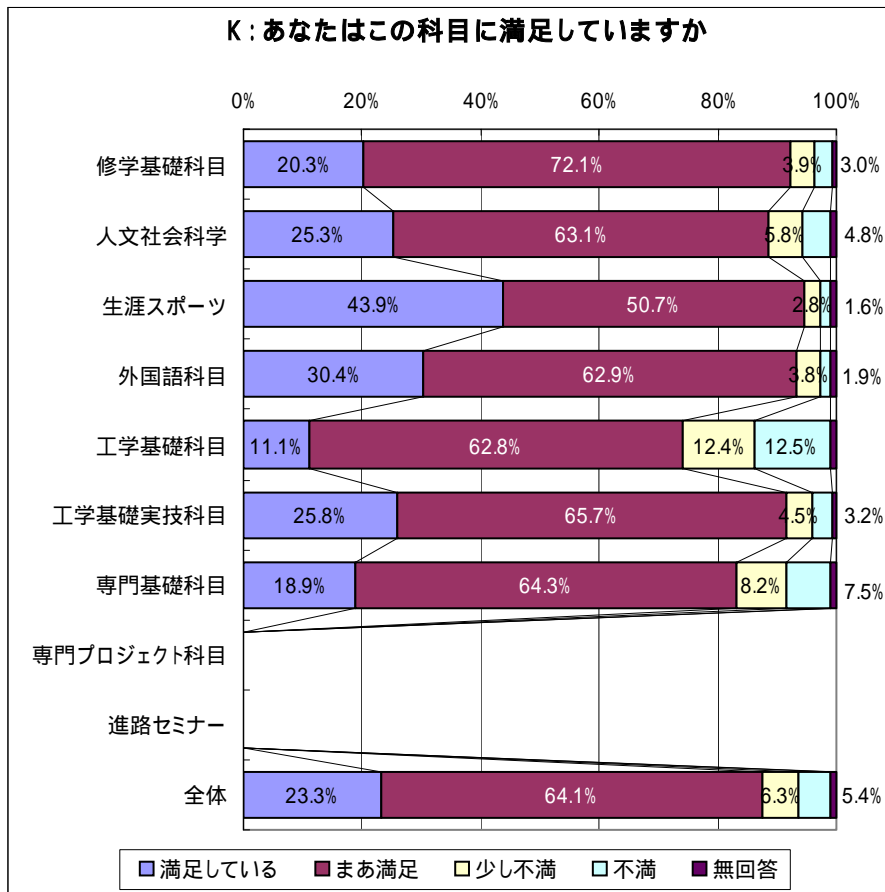
I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



J: 授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか



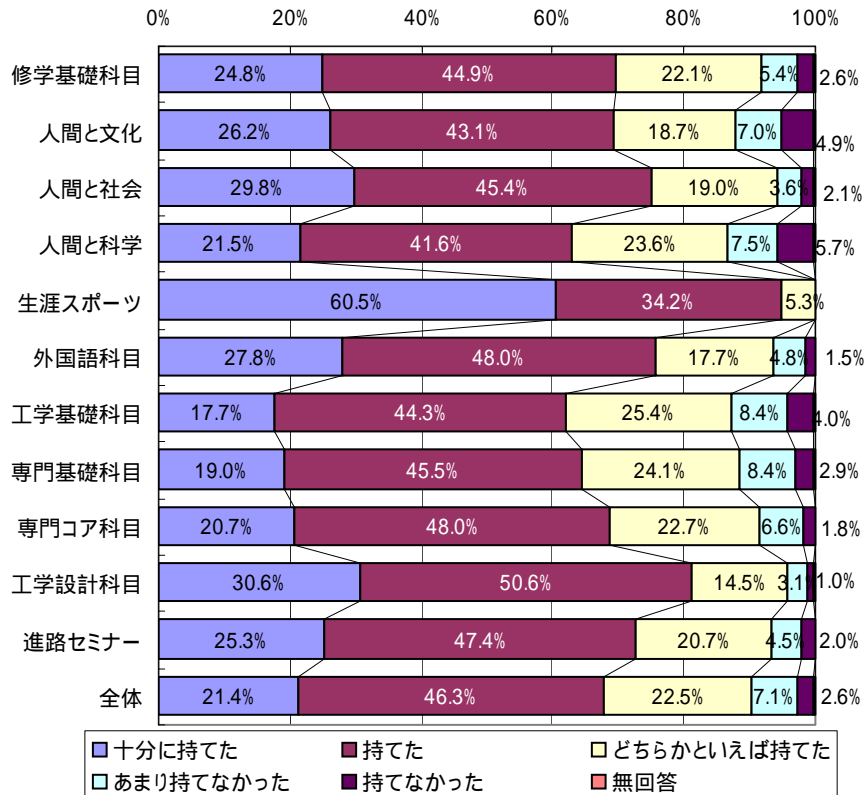
- 「科目に対する満足度」に関して、まず「満足している」を見ると、「生涯スポーツ」の満足度が非常に高く、43.9%が「満足している」と回答していた。そして、「外国語科目」(30.4%)、「工学基礎実技科目」(25.8%)、「人文社会科学」(25.3%)という順であった。
- 「満足している」と「まあ満足」を合わせたものでも「生涯スポーツ」は満足度が最も高く、「外国語科目」がそれに続いていた。
- 逆に満足度が低かったものを見ると、「工学基礎科目」では「不満」と「少し不満」を加えた割合が最も高く、24.9%が不満だと回答していた。次いで、「専門基礎科目」では15.7%が不満だと回答していた。
- これらより、「工学基礎実技科目」はそれほどでもないが、全体的に見ると専門系の科目の満足度が低いという傾向が見られた。



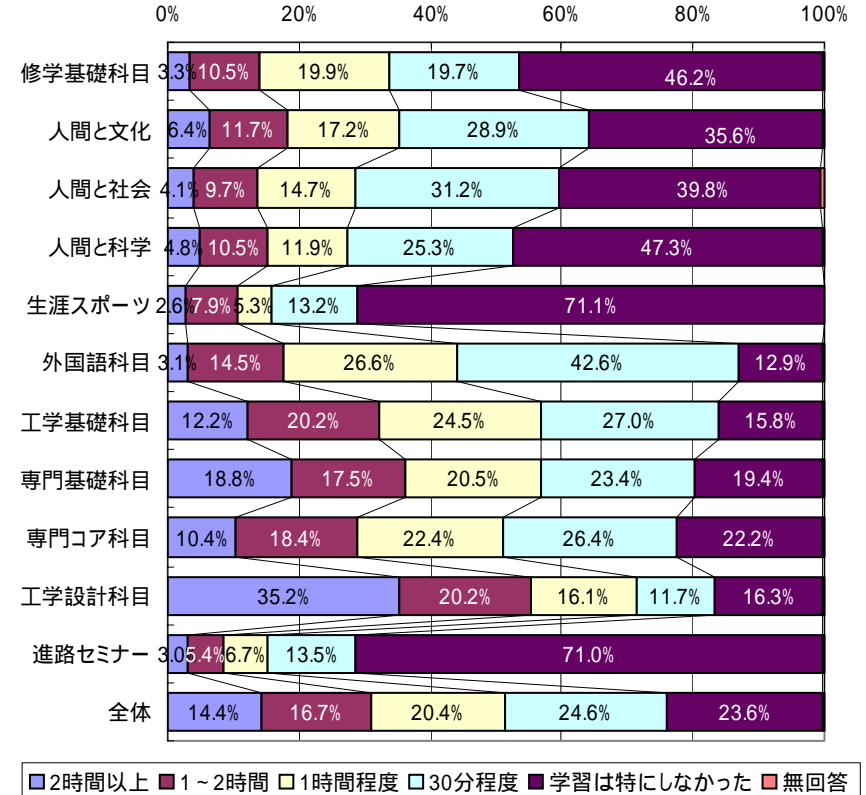
## 2年次(Jクラス)～4年次(Sクラス)

- 「科目に対する興味」では「生涯スポーツ」が特徴的であり、多くの学生が興味を持てたと回答していた。そして、「工学設計科目」「外国語科目」「人間と社会」に対しても興味を持っているという回答が多かった。
- 逆に、あまり興味を持たれていなかったのは、「工学基礎科目」「人間と科学」「専門基礎科目」などであった。
- 「一回の授業に対する予習・復習」に関しては、当然の結果であるが「生涯スポーツ」と「進路セミナー」で「学習は特にしなかった」という回答が多かった。その他では「修学基礎科目」「人間と文化」「人間と社会」「人間と科学」では「学習は特にしなかった」という回答がやや多めで、割いている時間数も少なめであった。
- 「外国語科目」は割かれている時間は少なく、短時間ではあるが多くの学生が予習・復習をしていた。そして、専門系の科目では多くの時間が割かれており、特に「工学設計科目」では35.2%が「2時間以上」と回答しており、非常に多くの時間が割かれていることが分かった。

### A: この科目は興味を持って受講することができましたか

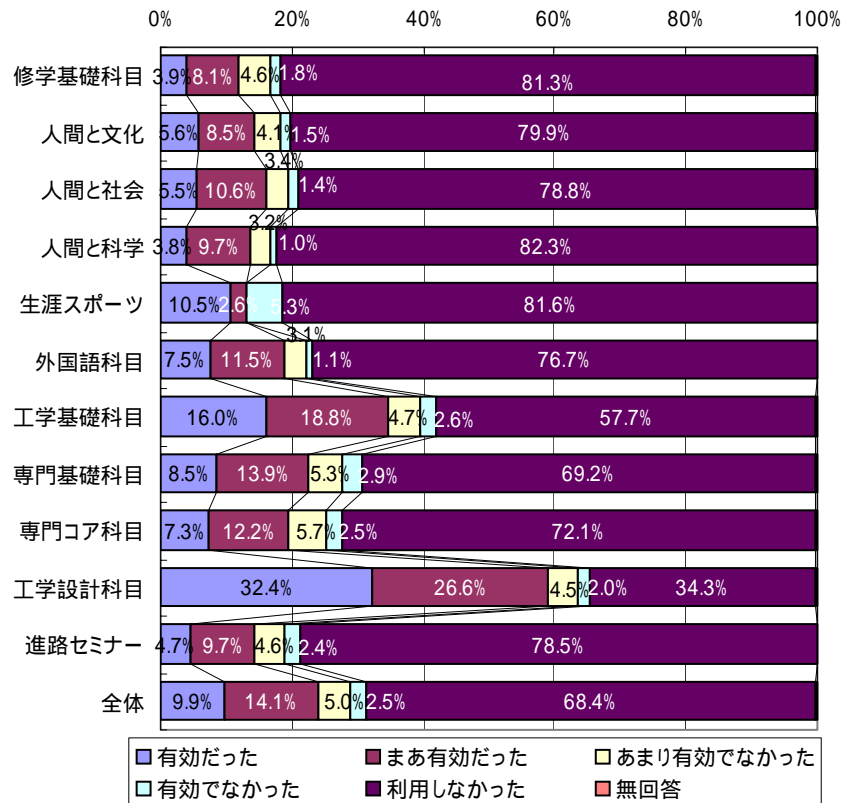


### B: 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか

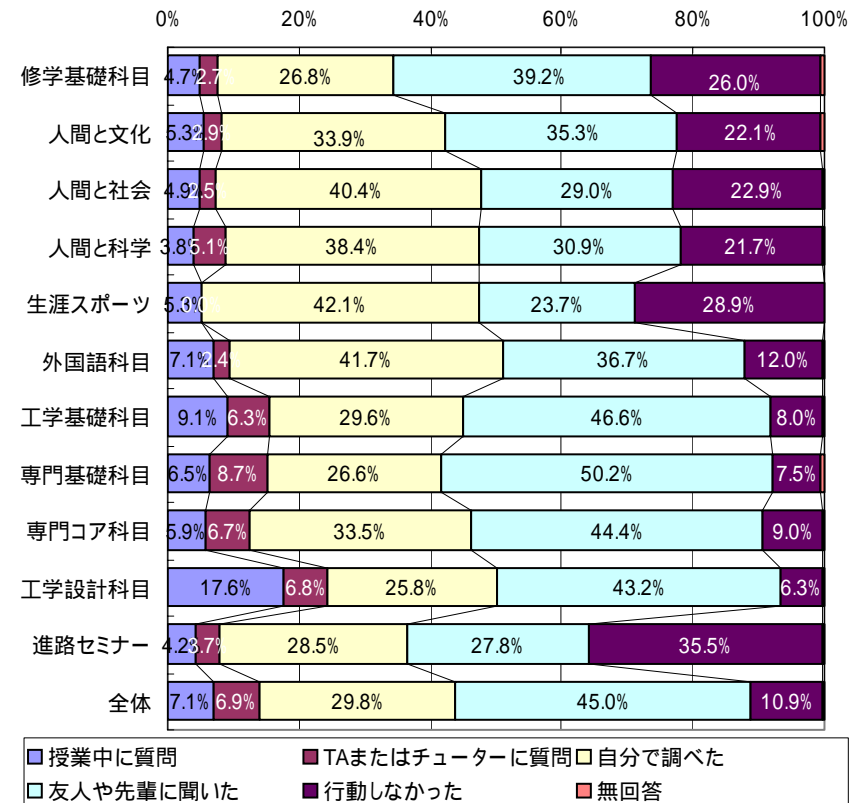


- 「OHの有効性」では一般系の科目と専門系の科目での差が見られ、「修学基礎科目」「人間と文化」「人間と社会」「人間と科学」「生涯スポーツ」「外国語科目」ではOHを利用しなかったという回答が多く、ほぼ8割を占めていた。
- 一方、「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」「工学設計科目」ではOHを利用している割合が多く、特に「工学設計科目」では6割、「工学基礎科目」では4割がOHを利用してあり、「工学設計科目」では多くがOHの有効性を認めていた。
- 「授業が分からない際の行動」では、科目区分による特徴はあまり見られなかった。「生涯スポーツ」と「進路セミナー」は他の科目とは内容が異なるため「行動しなかった」という回答が多く見られた。
- その他で特徴的であったのは「工学設計科目」であり、「授業中に質問」が非常に多く、授業中に分からないときには気楽に聞ける環境があるものと思われる。

C: 授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか



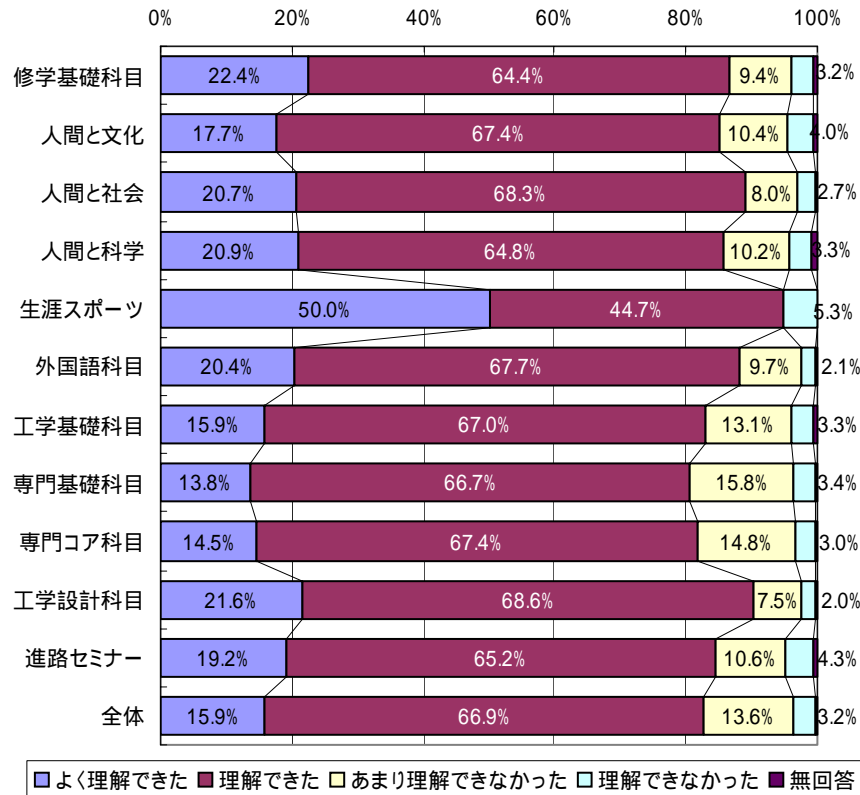
D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか



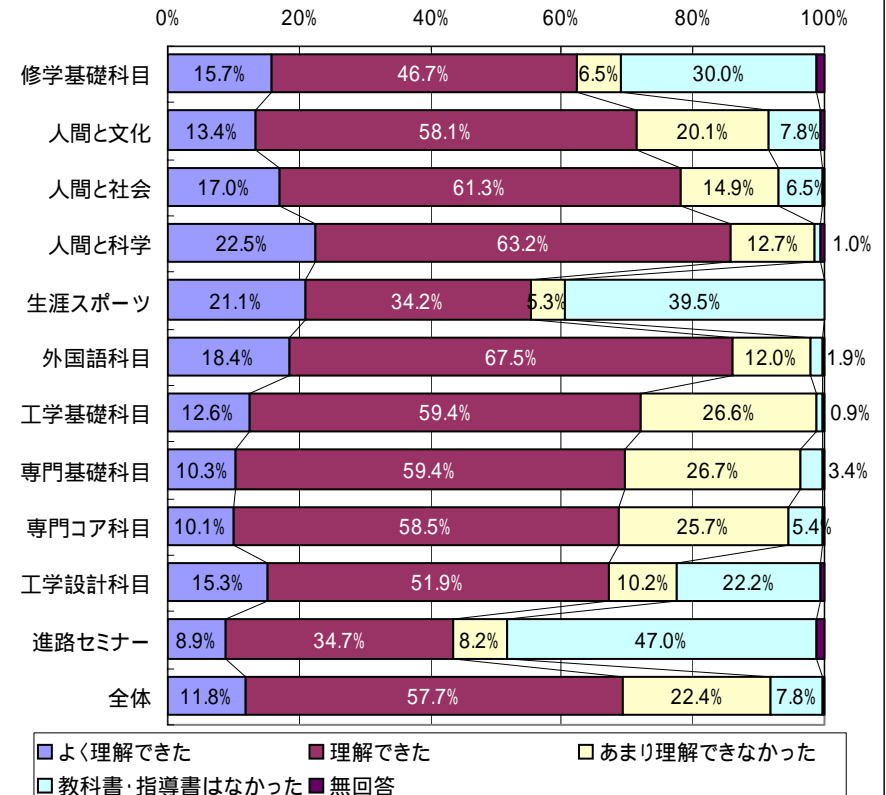


- 「学習支援計画書の理解度」では科目区分による特徴は見られなかった。ただし、「生涯スポーツ」は内容的な特徴があるため理解度は非常に高かった。
- その他の科目では、「よく理解できた」と「理解できた」を合わせると、「工学設計科目」「人間と社会」での理解度が高かったが、それほど大きな特徴とは言えない。
- 「教科書・指導書の内容」に関しては、「修学基礎科目」「生涯スポーツ」「進路セミナー」の3つで「教科書・指導書はなかった」という回答が多く見られた。
- その他で「よく理解できた」「理解できた」の合計を見ると、「人間と科学」「外国語科目」で理解度が高く、次いで「人間と社会」が高めであった。そして「修学基礎科目」と、「工学設計科目」を始めとする専門系の科目での理解度が低かった。

E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



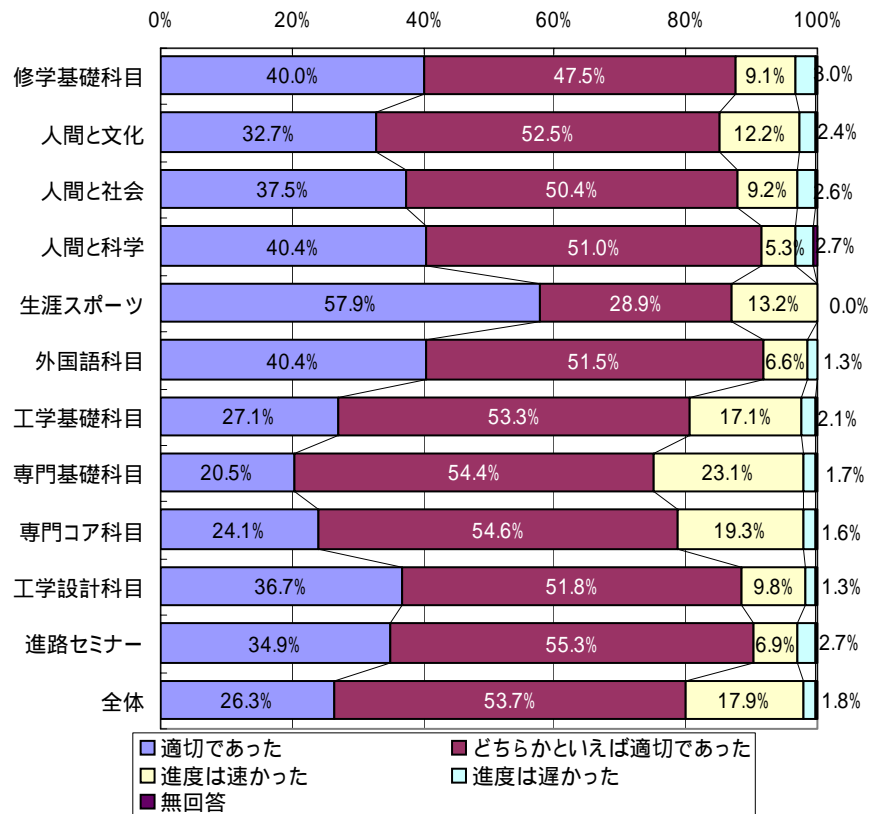
F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



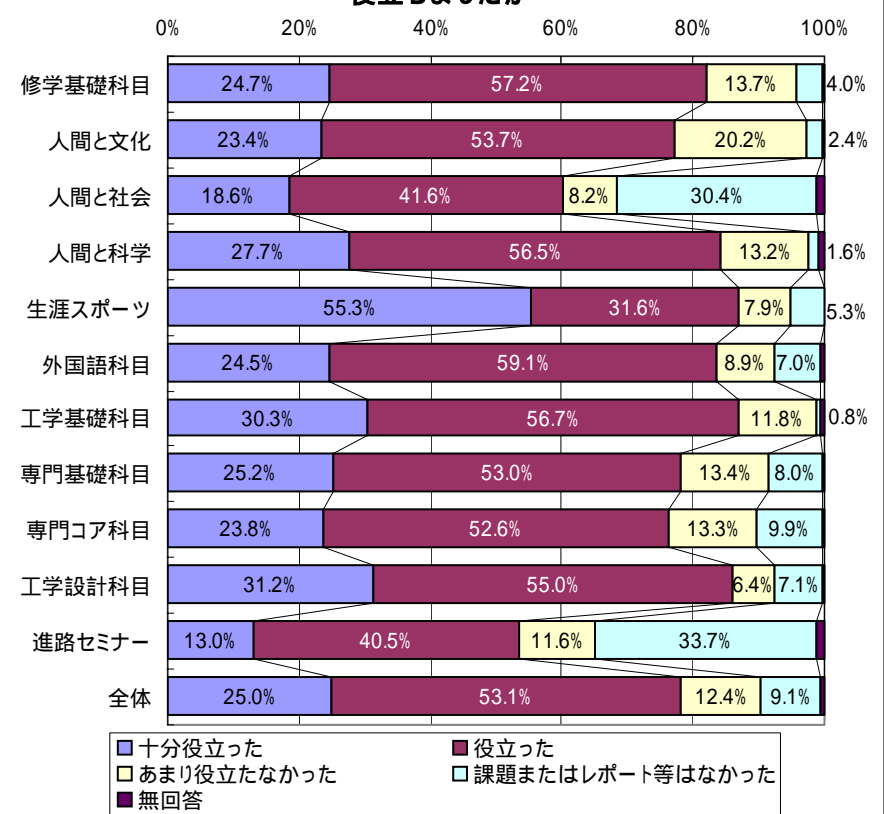


- 「授業の進度」に関しては科目区分による差が見られた。まず、「生涯スポーツ」は「適切であった」という回答が多かった。その他では「修学基礎科目」「人間と文化」「人間と社会」「人間と科学」「外国語科目」といった一般系の科目で「適切であった」「どちらかといえば適切であった」という回答が多めであった。
- 一方、「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」などの専門系の科目では、「進度は速かった」という回答が多めであった。特に「専門基礎科目」に対して速かったという意見が多かった。
- 「課題、レポートの有効性」に関する特徴も見られた。まず、「人間と社会」「進路セミナー」では「課題またはレポート等はなかった」という回答が多く見られた。そして、「生涯スポーツ」では「十分役立った」という回答が5割を占めていた。
- その他の科目ではそれほど大きな特徴はなく、一般系の科目と専門系の科目の間にもあまり大きな特徴は見られなかった。

G: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか

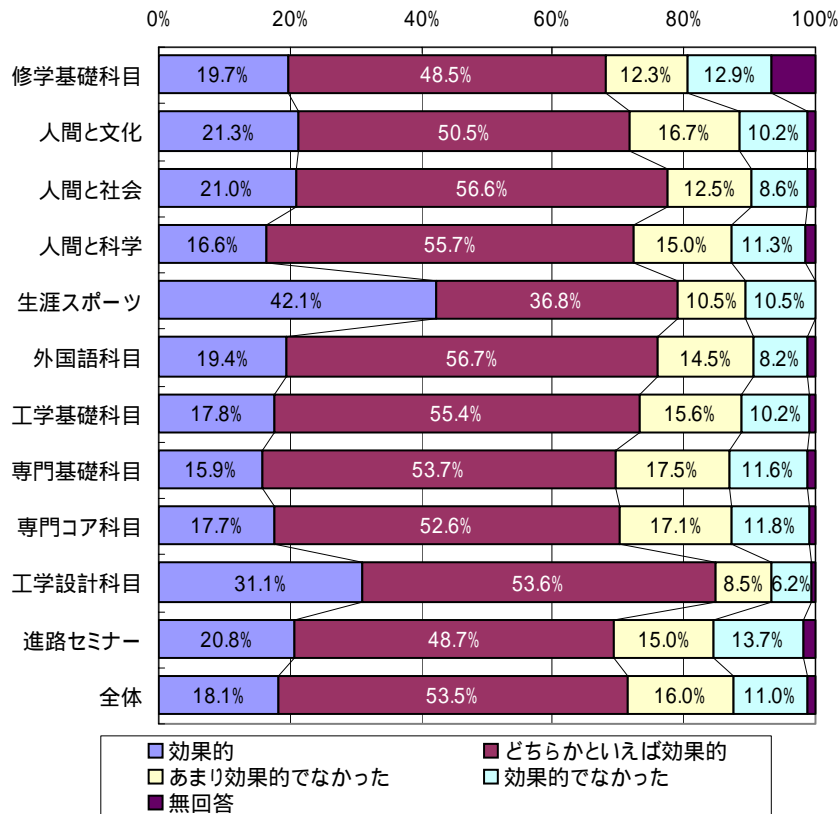


H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか

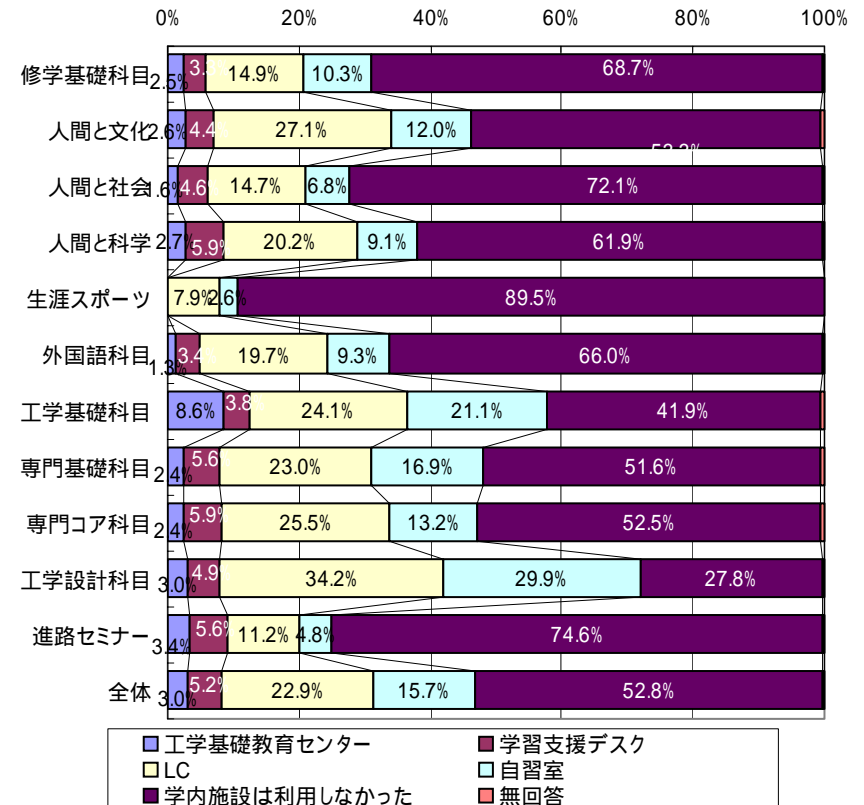


- 「自己点検授業の効果」に関して、「効果的」「どちらかといえば効果的」を合わせると、「工学設計科目」での評価が高いのが特徴的であった。また、「効果的」だけを見ると、「生涯スポーツ」では4割以上が「効果的」と回答していた。
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」では幾つか特徴が見られたが、まず、「学内施設は利用しなかった」という回答が多かったのは「生涯スポーツ」「進路セミナー」「人間と社会」「修学基礎科目」「外国語科目」などであった。前項より「生涯スポーツ」と「進路セミナー」は予習・復習にそもそも時間が割かれていないが、その他の科目では自宅で学習に取り組んでいるものと思われる。
- その他で特徴的であったのは、「工学基礎科目」では「工学基礎教育センター」が利用されており、「工学設計科目」では「LC」と「自習室」が使われていた。
- 全体を見ると、専門科目では大学内の施設が使われている傾向が見受けられる。

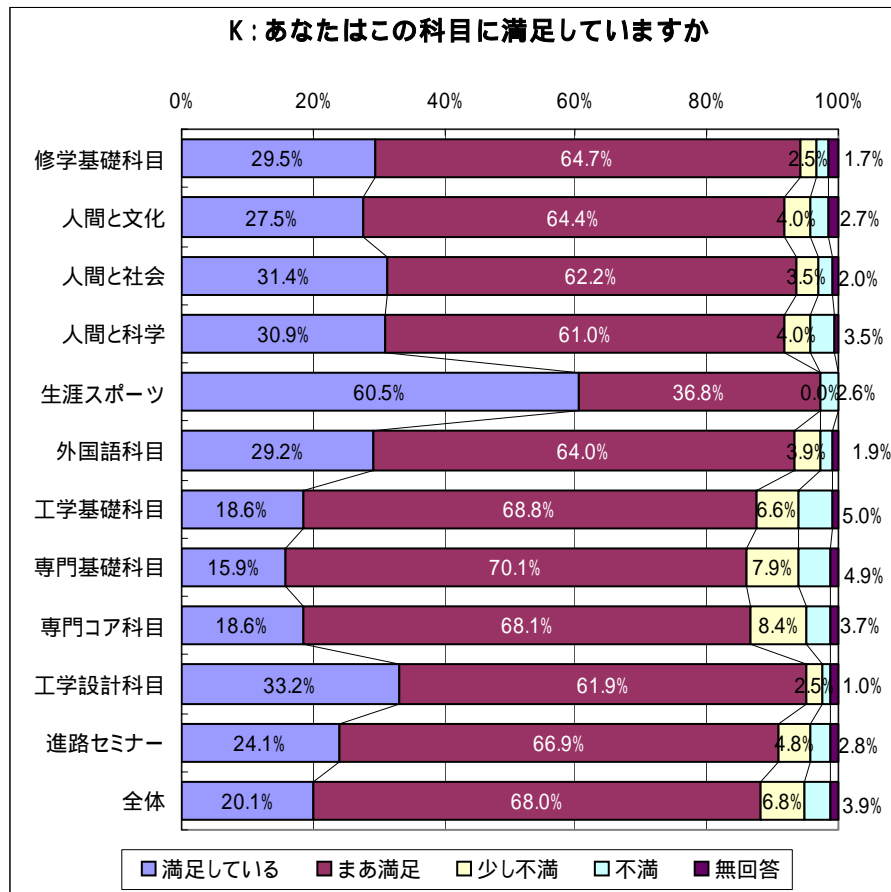
I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



J: 授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか

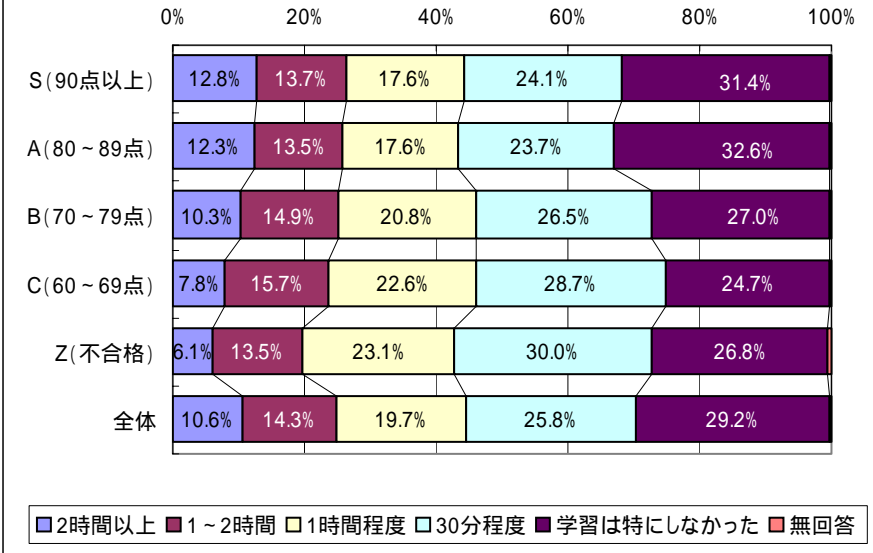


- 「科目に対する満足度」に関しては全体的に満足度は高かった。中でも「生涯スポーツ」は「満足している」が60.5%と非常に満足度が高かった。
- その他の科目を見ると、「修学基礎科目」「人間と文化」「人間と社会」「人間と科学」「外国語科目」の一般系の科目の満足度はほとんど同じであり、30%ほどが「満足している」、65%ほどが「まあ満足」という回答であった。
- 一方、専門系の科目の満足度はわずかに低めであり、中でも「専門基礎科目」では「満足している」が15.9%と最も低かった。ただし、専門系の科目の中でも「工学設計科目」は「生涯スポーツ」に次いで満足度が高かった。

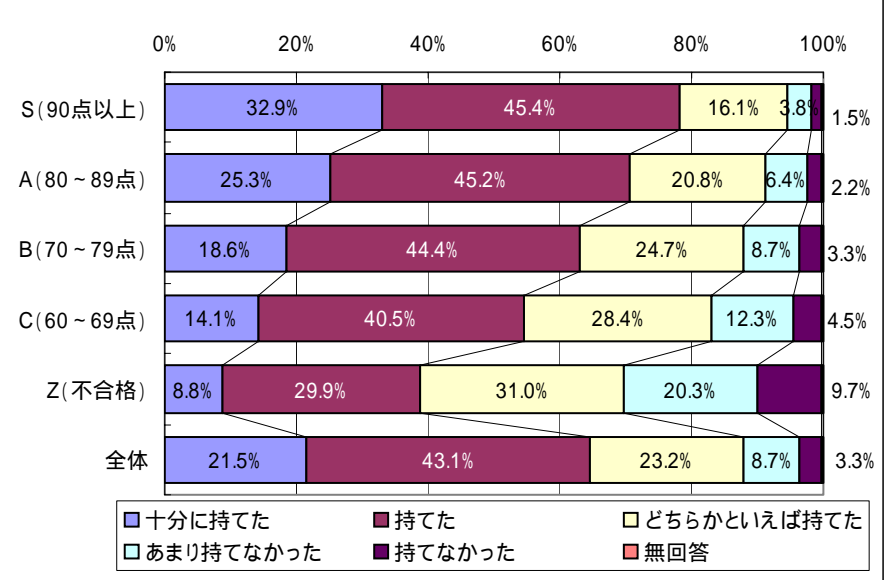


- 成績別に「科目に対する興味」を比較すると、明らかな相関関係があり、成績が良い層ほど興味を持つ割合が高いことが分かった。
- 「十分に持てた」から「どちらかといえば持てた」までを合わせると、成績がSの層では94.4%が興味を持っていたが、不合格のZの層では69.7%にとどまり、成績に関しては「興味」が重要なポイントであることが分かる。
- 「一回の授業に対する予習・復習」では、成績が良い層ほど「2時間以上」と長時間を充てている割合は増加していたが、「学習は特にしなかった」という層も増加していた。
- これを見ると、成績の良い層は長時間を予習・復習に充てている学生と学習はしなかったという2極分化があり、成績が良くない層は、予習・復習に時間を充てているが、時間は短めであると言える。
- 「OHの有効性」では「利用しなかった」の割合は成績によって変わらなかった。ただし、OHが「有効だった」「まあ有効だった」と感じている回答は成績が良い層ほど多く、成績が良くない層はOHを十分に活用できてない状況が想像できる。

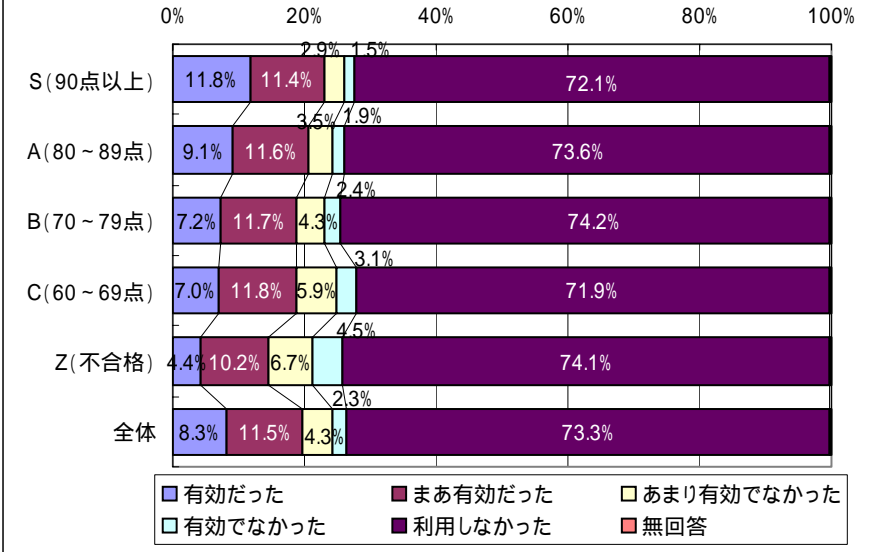
**B：一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか**



**A：この科目に興味を持って受講することができましたか**

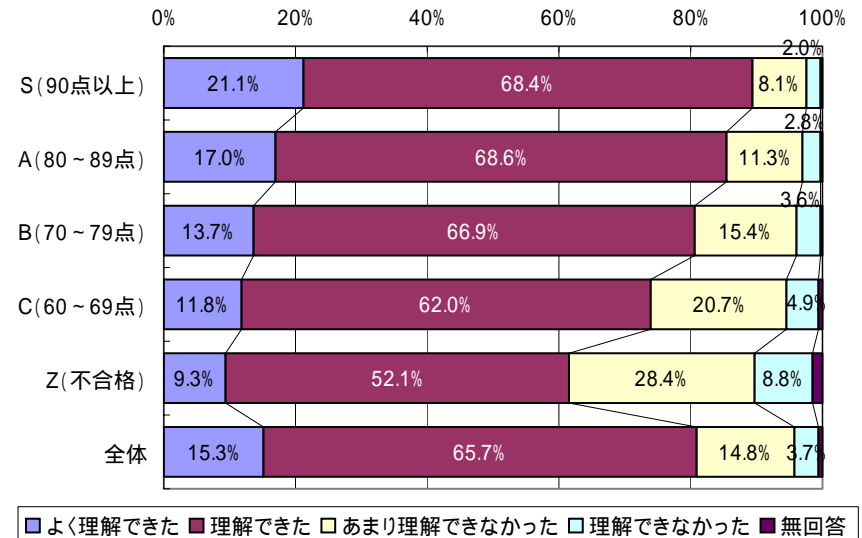


**C：授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか**

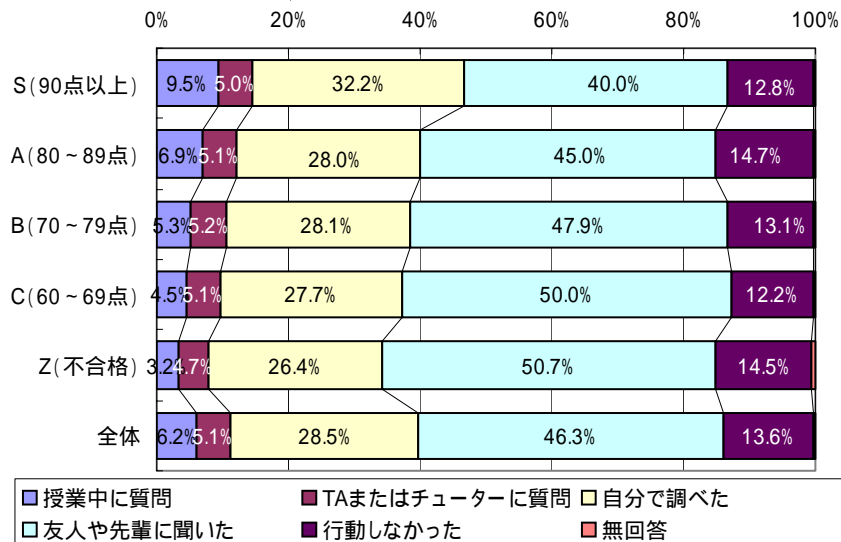


- 「授業が分からない際の行動」でも成績との相関関係が見られ、成績が良い層ほど「授業中に質問」「自分で調べた」という回答が多く、分からない点はその場で解決している状況が想像できる。
- そして、成績が良くない層は「友人や先輩に聞いた」という割合が高く、曖昧な解決や、解決できていないという状況が考えられる。
- 「学習支援計画書の理解度」も成績との明確な相関関係があり、成績が良い層ほど理解度が高くなっており、不合格のZ層では学習支援計画書が理解できていたのは61.4%にとどまっていた。
- 「教科書・指導書の内容」についても成績との相関関係があり、成績が良い層ほど理解度が高かった。
- 「よく理解できた」と「理解できた」を合計すると、Sでは74.8%が理解できていたが、Zでは42.2%にとどまった。
- これらを見ると「学習支援計画書」「教科書・指導書」の理解度は、成績と強い関係にあると言える。

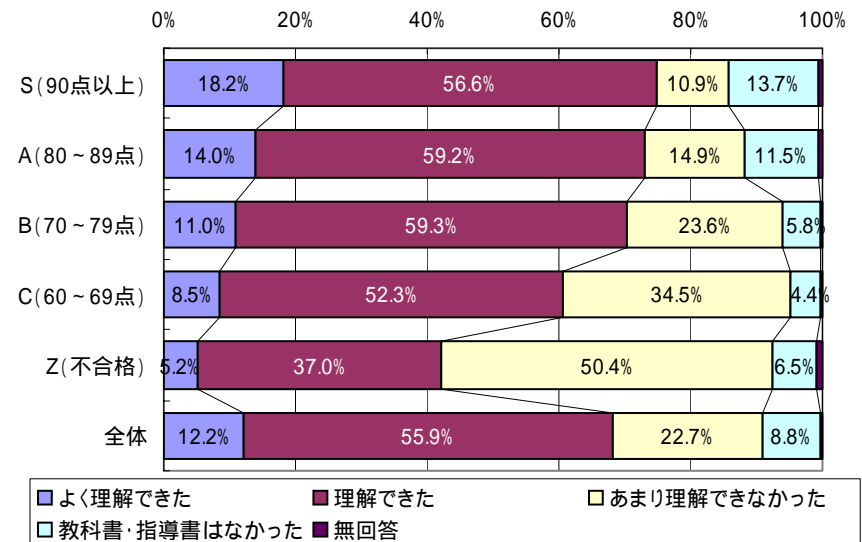
E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

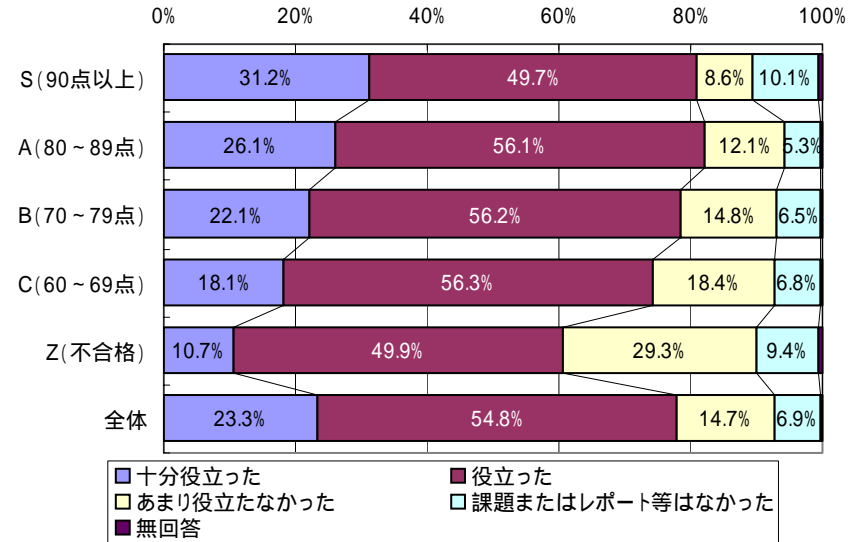


F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか

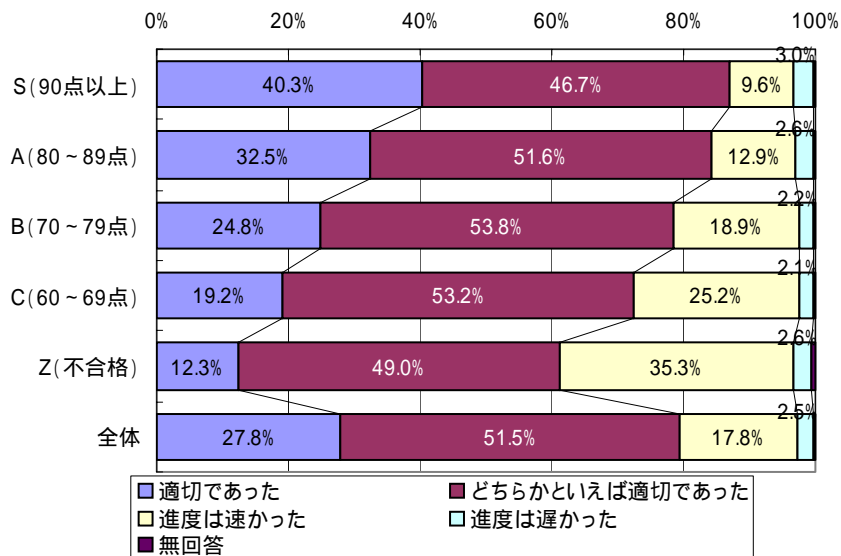


- 「授業の進度」も成績との相関関係が強く、成績が良い層は授業の進度は適切だと感じており、成績が良くない層ほど授業が速かったと感じていた。
- 成績がZの層では35.3%が授業が速かったと感じており、授業についていけない状況がうかがえた。
- 「課題、レポートの有効性」も成績との関係が強く、成績が良い層ほど課題やレポートが役に立ったと感じており、課題などをうまく活用して学習しているものと思われる。
- 「自己点検授業の効果」も「課題、レポート」と同様の傾向であり、成績が良い層ほど自己点検授業をうまく活用して、効果的であったと感じているようであった。
- これらを見ると、成績が良くない層は「課題、レポート」や「自己点検授業」を授業の理解のために上手に活用できていないものと思われる、それらサポートが押しつけではなく、自らの理解促進につながるものだと認識させることが重要であると言える。

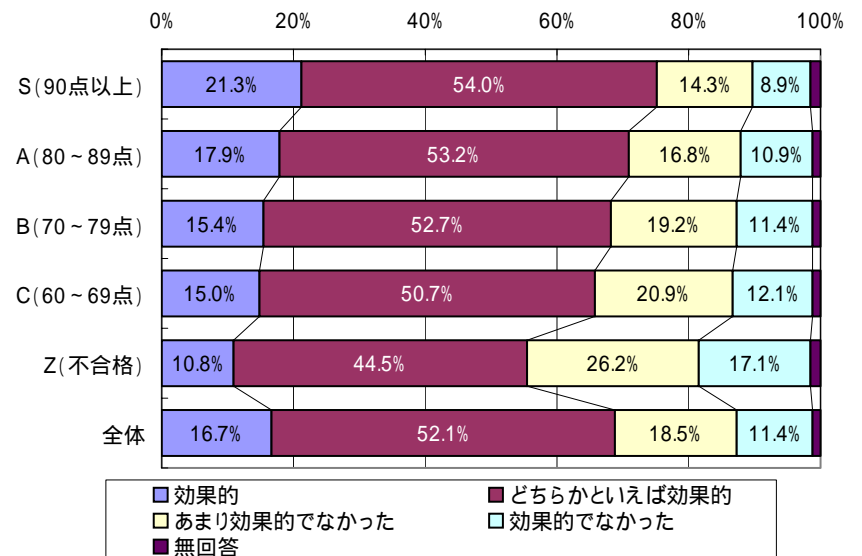
H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



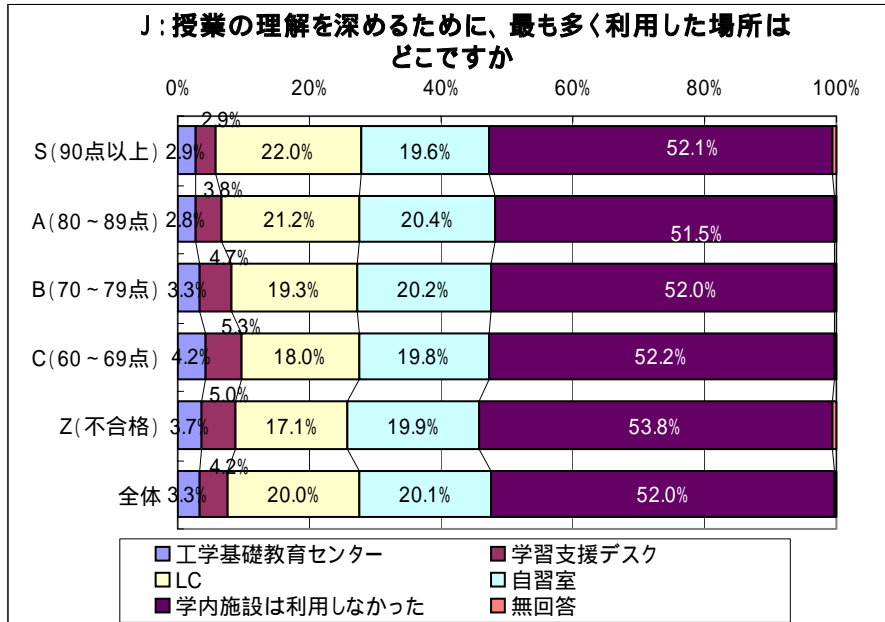
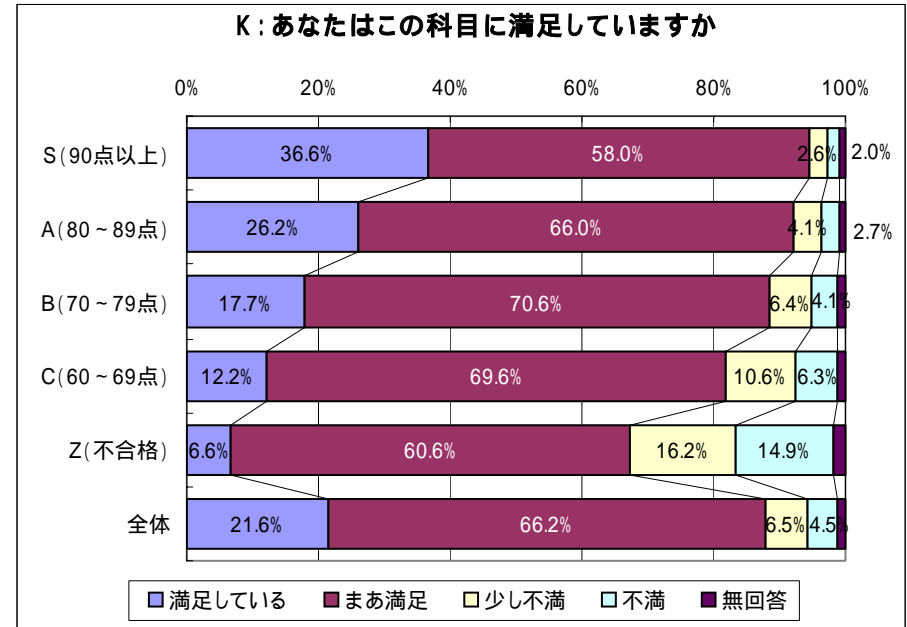
G: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



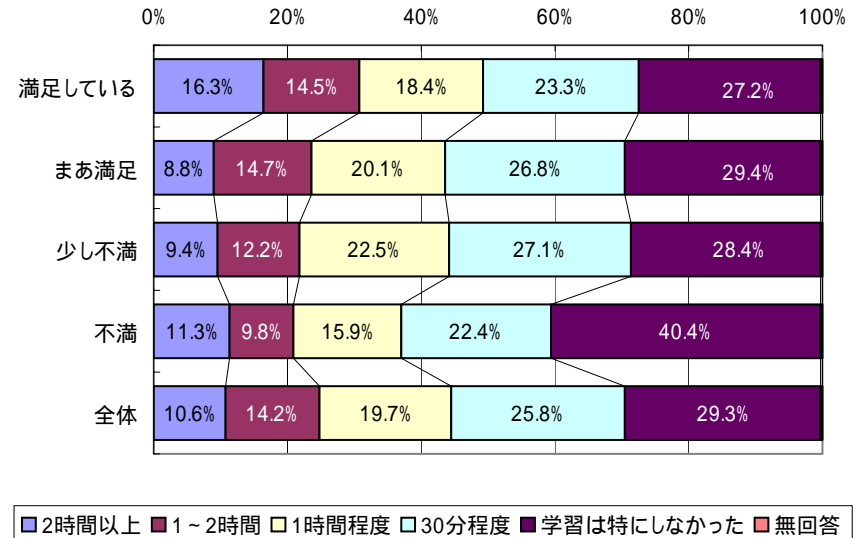
- 「授業の理解を深めるために利用した場所」は、成績とはあまり強い関係性は見られなかった。
- まず、「自習室」「学内施設は利用しなかった」は成績による差は見られず、わずかではあるが成績が良い層ほど「LC」を活用しており、成績が良くない層ほど「工学基礎教育センター」「学習支援デスク」を活用している傾向が見られた。
- 「科目に対する満足度」は成績と明確な相関関係があり、成績が良い層ほど満足度が高い傾向が見られた。
- 成績がSの層では「満足している」と「まあ満足」を合わせた割合は94.6%であり、大多数が満足していた。一方、Zの層では67.2%しか満足していなかった。



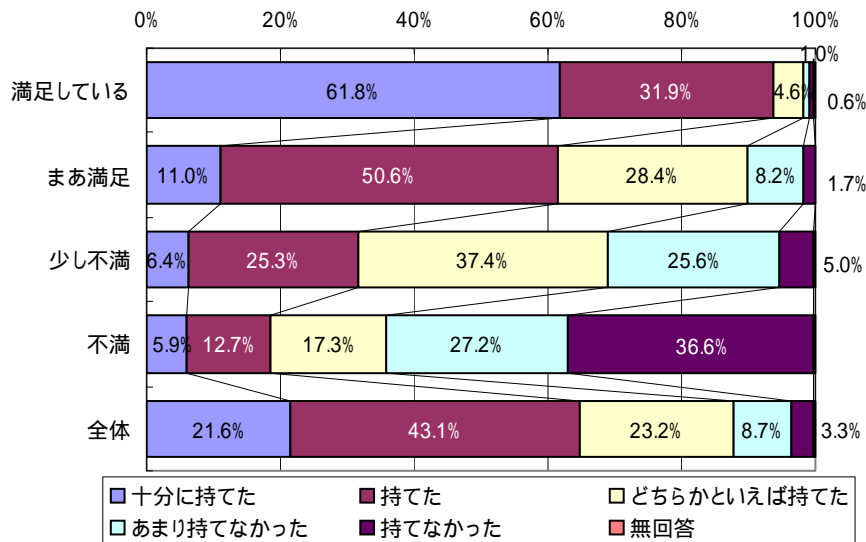


- 「科目に対する興味」を満足度別に見たところ、非常に明確な差が見られた。「満足している」という層では「十分に持てた」から「どちらかといえば持てた」を合わせると、ほぼ100%が科目に対して興味を持っていたが、「不満」の層では35.9%であった。
- これを見ると、授業に対する満足度は興味と非常に強い関係にあると言える。
- 「一回の授業に対する予習・復習」は満足度とはそれほど強い関係は見られなかったが、「満足している」層では「2時間以上」の割合が多めであり、「不満」層では「学習は特にしなかった」の割合が4割と多めであった。
- 「OHの有効性」は満足度との関係が見られ、満足度が高いほどOHが有効だったと考えている傾向があった。そして、不満を感じている層はOHを利用しない割合が高かった。
- そして、「少し不満」と感じている層はOHがあまり有効でなかったと評価しており、OHが使いこなせていないのではないかとと思われる。

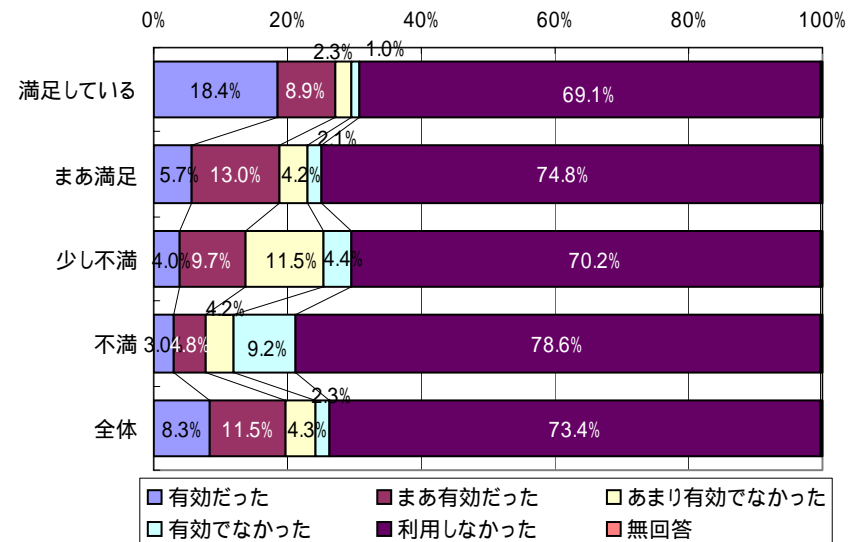
**B: 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか**



**A: この科目は興味を持って受講することができましたか**



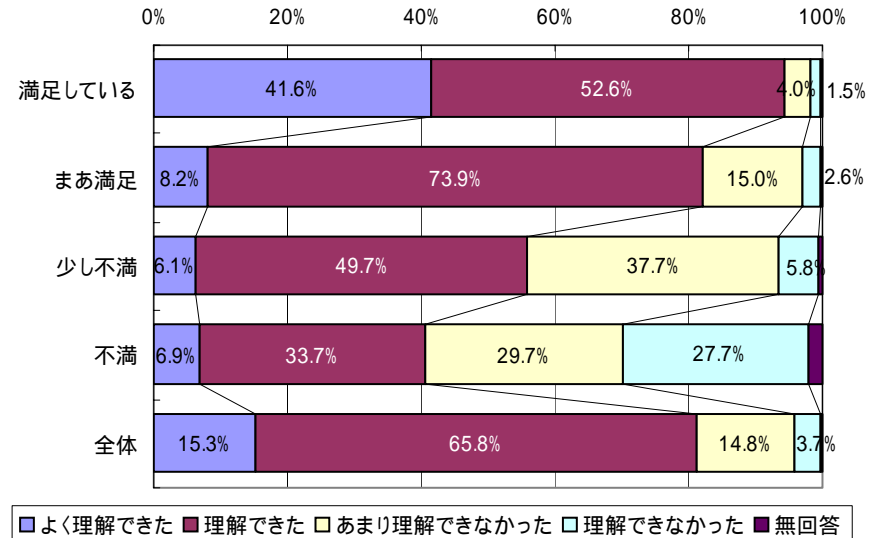
**C: 授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか**



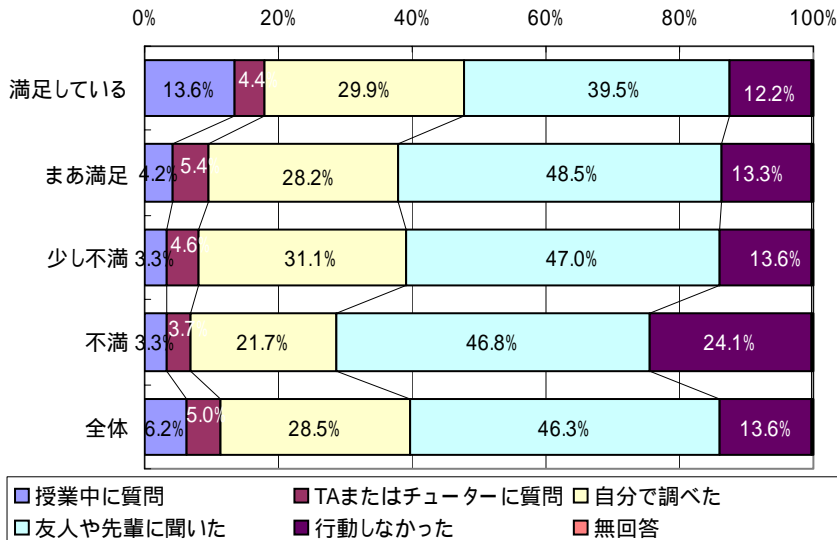


- 「授業が分からない際の行動」に関しては、「満足している」層は「授業中に質問」が多く、「不満」層は「行動しなかった」が多い。授業に満足している層は疑問点をその場で解決しているが、不満を感じている層はそのままにしている状況が見えた。
- 「学習支援計画書の理解度」では、「満足している」層では「よく理解できた」が41.6%であり、「理解できた」と合わせると94.2%は学習支援計画書が理解できていることが分かった。
- そして、不満を感じているほど学習支援計画書の理解度が低く、「不満」層では「あまり理解できなかった」「理解できなかった」を合わせると57.4%であった。
- 「教科書・指導書の内容」も「学習支援計画書」と同様の傾向であり、「満足している」層では36.6%が「よく理解できた」、46.3%が「理解できた」であり、8割以上が「教科書・指導書」を理解できていた。
- そして、満足度が低いほど「教科書・指導書」の理解度が低く、「不満」では「よく理解できた」と「理解できた」を合わせても24.1%にとどまった。

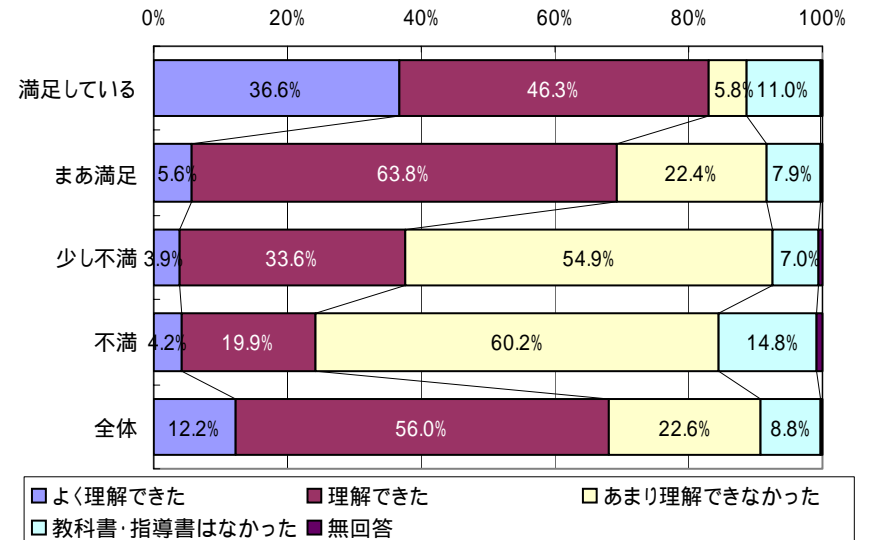
E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



D: 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

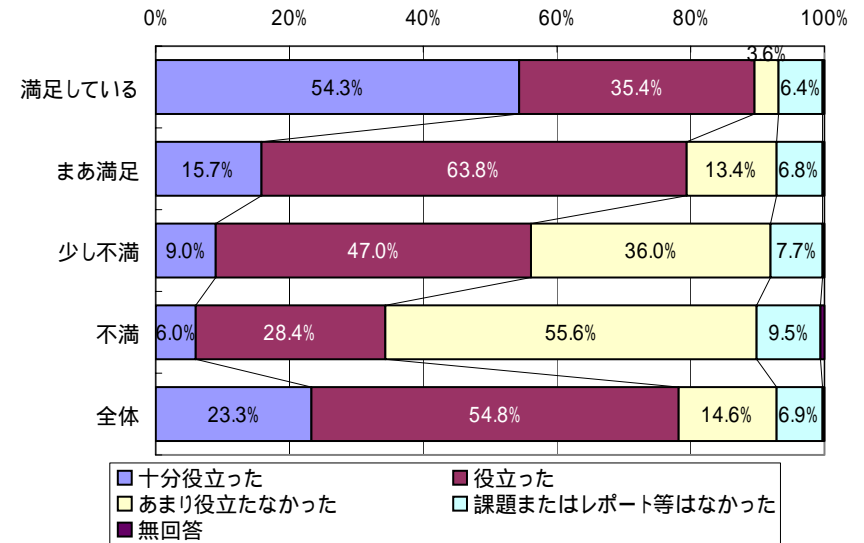


F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか

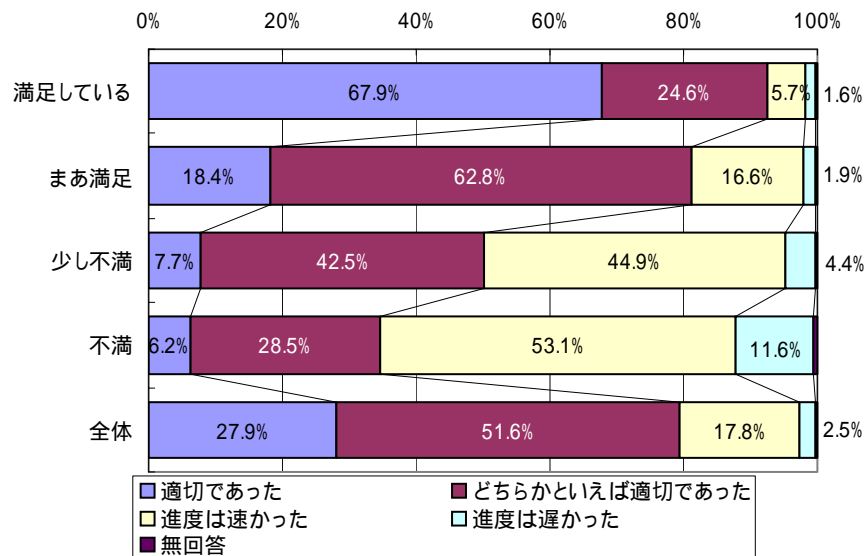


- 「授業の進度」と満足度との関係も明確であり、満足度が低いほど、授業が速いと感じており、授業についていけない状況があるものと思われる。
- また、「進度が遅かった」という回答を見ると、「不満」層での割合が最も多いことから、進度が遅すぎて満足度が低い学生もいることが分かる。
- 「課題、レポートの有効性」に関しても満足度との関係が明確で、満足度が高い層は課題やレポートが役に立ったと感じていた。
- 「不満」の層では「あまり役立たなかった」が55.6%であり、半数以上は課題やレポートが役に立たなかったと感じていた。
- 「自己点検授業の効果」は「課題、レポートの有効性」などと同じような傾向で、「満足している」層は非常に効果的であると評価しているが、不満を感じている層ほど効果的でなかったと評価している。

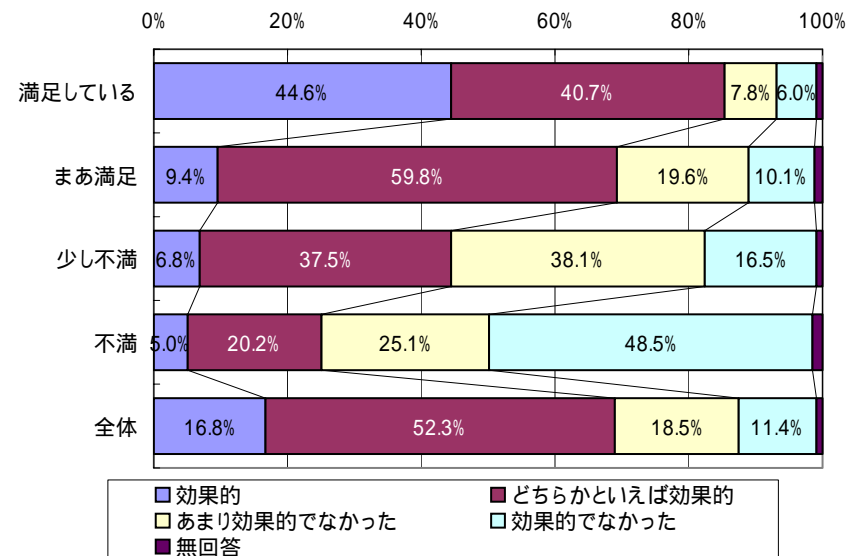
H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



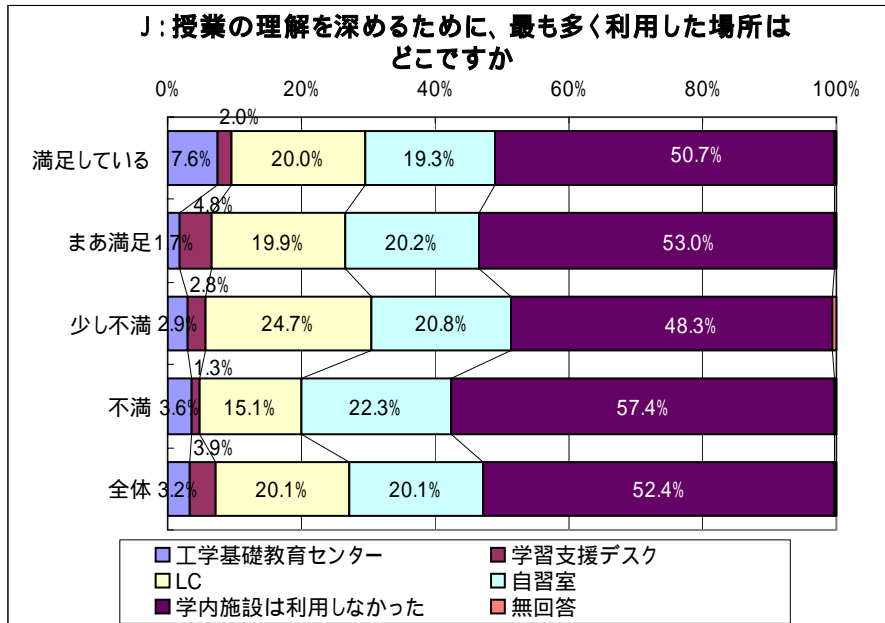
G: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか



I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



- 「授業の理解を深めるために利用した場所」では「満足度」との相関関係は見られなかった。
- 「満足している」層で「工学基礎教育センター」の利用が多めで、「不満」層で「学内施設は利用しなかった」という回答が多かったが、それほど明確な傾向は見られなかった。



### 各設問の単純集計から分かったこと

**授業に対しては興味を持って受講できており、満足度も高いと言える。  
そして、OHの利用度は低かったものの、授業のサポートに対する評価も全般的に高かった。**

- 授業に対しては21.7%が「満足」、66.2%が「まあ満足」であり、全体の9割近くは授業に対して満足しているという回答であり、他の数値と比較はできないが、満足度は高いと見て差し支えないと思われる。
- また、授業の興味に関しても、87.7%が興味を持って受講できたという回答であり、満足と共に興味も高いレベルにあることが確認できた。
- 「学習支援計画書」や「教科書・指導書」に関しては、各々81.0%、68.1%が理解できたという回答であり、これらと連動している授業の理解度も高いと言える。
- 授業のサポートに関しては、「課題・レポート」「自己点検授業」が役立ったという回答は、各々77.9%と68.8%であり、役立っていると言える。しかし、オフィスアワー(OH)は「利用しなかった」という意見が73.3%であった。

### 過年度との比較から分かったこと

**授業に対する興味は昨年度と比較してわずかに低下していたが、満足度はわずかに向上していた。  
その他、授業サポートに関しては評価が向上するか、同様の評価であり、低下しているものは見られなかった。**

- 授業に対する満足度は「満足」と「まあ満足」を合わせたものが、昨年度の86.2%から87.9%へと、1.7ポイント増加し、興味に対しては昨年度より0.3ポイント低くなっていた。大きな変化ではないが、昨年度と比較すると満足度は向上、興味は低下という状況であり、満足度が向上した点は評価できると思われる。
- 昨年度より評価が良くなったものを確認すると、「予習・復習に時間を充てない学生が増加」「OHの利用者割合が増加」「教科書・指導書の理解度の向上」「授業の進捗の評価の向上」といった状況であった。特に、「教科書・指導書の理解度」「授業の進捗」に関しては3年間継続的に評価が上がっていた。
- 上記以外の項目に関しても、昨年度より後退している点は見られず、ほぼ昨年度と同様の結果であった。そして、その他として授業が分からない際の行動に関して、「自分で調べた」が減少して「友人や先輩に聞いた」が増加しているという点が目立った。

### 学期別の比較から分かったこと

**授業に対する興味と満足度は学期によって大きく変化することはなかったが、理解度は低下している傾向が見られる。  
そして、1年生が大学に慣れていくという要因もあるが、学期末に向けて授業への取り組み姿勢が積極的になっていた。**

- 授業に対する興味と満足度に関しては、春から秋、冬学期の間で大きな変化は見られず、ほぼ一定であった。
- 授業を受ける態度として、「予習・復習」に関しては学習をしない層は一定の割合存在しているが、学習をしている層の学習時間は春から秋、冬にかけて徐々に増加する傾向が見られた。また、「OHの利用度」「授業中に質問する割合」も同様に学年末が近づくほど増加しており、積極的になっている傾向がうかがえた。ここには、1年生が大学のシステムに慣れていくといった要因も影響していると思われる。
- 「学習支援計画書の理解度」は春から秋にかけて低下し、冬にかけてわずかに向上する傾向であったが、「教科書・指導書の理解度」は学年末に向けて低下する傾向が見られた。これは学年末に向けて内容が難しくなっていくなどの要因があると思われるが、授業の理解度にも関連するため詳細を把握する必要があると思われる。

## 年次（クラス）別の比較から分かったこと

**授業の満足度は年次によって大きく変わらないが、高学年ほど授業に興味を持ち、予習・復習にかかる時間が長くなる傾向があった。そして、OHや自己点検授業など、授業サポートの評価も高学年ほど高かった。**

- 授業に対する興味は高学年になるほど強くなっており、低学年ほどフレッシュな気持ちで授業に取り組んでいるという訳ではないことが分かった。
- 満足度に関しては「満足」と「まあ満足」の合計は年次によって変わらないものの、「満足」だけを見ると4年次が高い点が目立った。
- 授業に対する取り組みとして、「予習・復習の時間」は1年次から3年次に向けて長くなる傾向にあるが、これは内容や課題が難しくなるからだと思われる。そして、4年次では通常のカリキュラムよりも工学設計 が中心になるためか、予習・復習に充てる時間は短くなる傾向にあった。
- 授業サポートの「OHの有効性」「課題・レポートの有効性」「自己点検授業の有効性」は高学年ほど評価が高かったが、これは各サポートの使い方に慣れ、自分なりの使い方が身につくといった要因があるのではないと思われる。

## 学系、学科別の比較から分かったこと - 1年次

**ER：ロボティクス、EA：航空システム、VA：建築の3学科が全体的に良い状態にあるようであった。**

**逆に、HM：メディア情報、EI：情報通信、VB：バイオ、HB：生命情報などはあまり良くない状態のようであった。**

- 1年次の学科ではER：ロボティクス、EA：航空システム、VA：建築の3学科が特徴的であり、授業に興味を持って取り組んでおり、教科書・指導書の理解度が高く、課題やレポートを有効活用して授業の満足度が高いという、非常に良い状態にあることがうかがえた。
- 満足度ではあまり差はつかなかったが、全体的にスコアが低めの学科もあった。HM：メディア情報は科目への興味が低く、「学習支援計画書」や「教科書や指導書」の理解度が低く、授業の進度が速いと感じているようであった。また、EI：情報通信も科目への興味が低く、授業が分からない際にも特に行動しておらず、課題やレポート、自己点検授業などを十分に活用できていない様子であった。
- また、VB：バイオ、HB：生命情報は「学習支援計画書」「教科書・指導書」の理解度が低く、授業の理解度も低いのではないと思われる。

## 学系、学科別の比較から分かったこと - 2年次～4年次

**材料系、環境系、建築系で授業による興味が強く、満足度が高いという傾向が見られた。**

**逆に、情報系、人間系では授業(教科書など)の理解度が低く、満足度としては機械系と人間系が低い傾向がうかがえた。**

- 材料系、環境系、建築系は授業に対する興味が強く、学習支援計画書の理解度が高く、授業進度も適当だと感じていた。そして、満足度も高いため、非常に充実した状態にあるものと思われる。
- また、機械系、電気系は予習・復習に時間を充てている割合が高く、教科書・指導書の理解度も高いため、授業の理解度は高いものと思われる。
- 逆に情報系、人間系は授業への興味や学習支援計画書や教科書・指導書の理解が低く、授業の進度が速いと感じており、授業についていけない学生も多いと思われる。

## 科目区分別の比較から分かったこと - 1年次

**「生涯スポーツ」は特殊であるが、興味、満足度は最も高かった。そして、それに次ぐのは「外国語科目」であり、学生が最も積極的に取り組んでいるようであった。専門科目では「工学基礎実技科目」の評価が高めであった。**

- まず、内容的に他の科目区分とは大きく異なる「生涯スポーツ」の評価が特殊であり、科目区分の中で最も興味を持たれており、満足度も最も高かった。
- 次に特徴的であったのは「外国語科目」であり、「生涯スポーツ」に次ぐ興味の高さと満足度であり、予習・復習に充てる時間は長くないものの、最も多くの学生が学習しており、教科書・指導書の理解度は最も高かった。また、授業の進度、自己点検授業の評価も高く、全般的に良い状態であると思われる。
- 一般科目と専門科目を比べると専門の方が満足度が低めであったが、「工学基礎実技科目」の満足度はそれほど低くなく、興味を持っているという回答も多く見られた。そして、OHや課題・レポートがうまく活用されており、教科書・指導書の理解度も「外国語科目」に次いで2番目の高さであり、専門の中では良い状態であった。
- 全体の中で最も厳しく評価されていたのは「工学基礎科目」であり、興味が最も低く、学習支援計画書や教科書・指導書の理解度も最も低く、結果的に満足しているという回答は73.9%と、最も低い結果であった。

## 科目区分別の比較から分かったこと - 2年次～4年次

**「生涯スポーツ」に次いで「工学設計科目」への興味と満足度の高さが目立っており、予習・復習にも時間をかけるなど、積極的に取り組んでいた。一方、専門では「専門基礎科目」「工学基礎科目」「専門コア科目」への評価が厳しかった。**

- 2～4年次においても「生涯スポーツ」は特殊であり、最も強い興味を持たれており、満足度も最も高かった。
- 「生涯スポーツ」に次いで興味を持たれていたのは「工学設計科目」であり、予習・復習には最も多くの時間が充てられ、OHが非常に活用されており、自己点検授業の効果が高く、満足度も「生涯スポーツ」に次いで2番目の高さであった。
- やはり「外国語科目」は興味を強く持たれており、予習・復習をしている学生の割合は最も多かった。そして、教科書・指導書の理解度も最高レベルであり、満足度も高かった。
- 満足度が低かったのは「専門基礎科目」「工学基礎科目」「専門コア科目」の専門系の科目であり、この3つの科目に対する興味はそれほど強いものではなく、学習支援計画書や教科書・指導書の理解度も低めであった。

## 成績別の比較から分かったこと

**成績が良い層ほど授業に対する興味が強く、学習支援計画書や教科書・指導書の理解度が高かった。  
そして、学習サポートを効果的に使っており、満足度も高いという相関関係が見られた**

- 当然の結果ではあるが、成績が良い層ほど授業に対する興味が強く、学習支援計画書や教科書・指導書の理解度が高く、各種の学習サポートを効果的に使っており、最終的な満足度も高いという相関関係が見られた。
- その他で特徴的であったのは、「予習・復習」であり、成績が良い層ほど「2時間以上」と長時間を充てている割合は増加していたが、「学習は特にしなかった」という層も増加しており、予習・復習に長い時間を充てている学生と、学習はしなかったという2極分化があるようであった。
- また、授業の理解を深めるために利用した場所は、成績との関係性が見られなかった。

## 満足度別の比較から分かったこと

**満足度は、授業に対する興味との相関関係が非常に強く、  
興味が授業の理解度や学習サポートの活用など、授業を受ける姿勢に大きな影響を持っていると言える。**

- これも当然の結果であるが、満足度が高いほど授業への興味が強いことが確認できた。この相関関係は非常に強く、授業に不満を感じている層では、2割程度しか授業に興味を持っている層がいなかった。
- その他、学習支援計画書、教科書・指導書の理解度といった授業の理解、課題やレポート、自己点検授業といった学習サポート、授業進捗の評価なども満足度と強い相関関係が見られ、これらの項目は全て連動していることが分かった。
- また、関係は強くないが、満足度が高い層は授業中に積極的に質問をしており、OHを有効に活用するなど、理解の深め方のコツをつかんでいるように思われる。